

## Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

### 【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による4段階評価である。

本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。

ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。

3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離（つまり1の間隔）だという保証はどこにもないからである。

しかし4つのカテゴリーごとの相対度数（パーセント）から何らかの傾向を掴み取るとは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の1つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でのみ、その傾向を読み取ることになる。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を合計して提示した。

これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかにどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数について、本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした（次頁表2-1）。

以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差が大きくなり、%表記がそぐわないため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。

例えば、大学院では職業別の「看護師等」（14人）、「家事専業」（10人）、「他大学等の学生」（2人）、（農業等は0人）で、年齢階層別では、「20～29歳」（15人）（19歳以下は0人）が挙げられる。

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】				【大学院】			
全体	6,275	(単位:人)		全体	332	(単位:人)	
メディア		年齢階層		メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	4,652	19歳以下	141	テレビ科目(TV)	66	19歳以下	0
ラジオ科目(R)	1,623	20～29歳	575	ラジオ科目(R)	266	20～29歳	15
職業		30～39歳	709	職業		30～39歳	20
公務員等	490	40～49歳	1,421	公務員等	40	40～49歳	51
教員	401	50～59歳	1,657	教員	33	50～59歳	99
会社員	1,355	60～69歳	1,160	会社員	81	60～69歳	109
個人営業・自営業	409	70歳以上	612	個人営業・自営業	22	70歳以上	38
農業等	26	コース		農業等	0	プログラム	
看護師等	573	基盤科目(一般科目)	1,178	看護師等	14	生活健康科学	76
家事専業	358	基盤科目(外国語)	345	家事専業	10	人間発達科学	26
パート・アルバイト	941	生活と福祉	1,154	パート・アルバイト	23	臨床心理学	38
他大学等の学生	73	心理と教育	1,070	他大学等の学生	2	社会経営科学	84
無職	1,207	社会と産業	708	無職	65	情報学	28
その他	442	人間と文化	661	その他	42	人文学	80
		情報	450				
		自然と環境	262				
		看護師資格取得	105				
		夏季集中科目	342				

## Ⅱ－1. 学部の分析結果

### Ⅱ－1－1. 項目平均から見た全体的傾向

ここからは、A-1～B-21 の評価項目（14～15 頁の提供資料サンプルを参照）ごとに、平均値と肯定的評価のグラフを基に、そのデータから目立つ点や、特徴的傾向を記述していくことにする。

平均値は、評価項目の選択肢である「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」に対して順に 4 点、3 点、2 点、1 点の得点を与え、その得点合計を回答者数で割った値である。全員が「あてはまる」とした場合、平均値は 4.00 で最も高くなり、全員が「あてはまらない」とすると最低の 1.00 となる。

また、肯定的評価は文字通り「あてはまる」と「ややあてはまる」の比率の合計である。

平均値より肯定的な評価の方が（例えば回答者の 80%と）イメージしやすく、平均値と肯定的評価に齟齬が出た場合、どちらを採るか合理的な判断ができないので、記述については肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

また、過去 2 年間との年度間の比較（24 頁等）の箇所は、比率の差の検定結果から、全体の回答者数(2022 年度:6,275 人、2021 年度:7,783 人、2020 年度:7,320 人)が多いため、各比率の差が概ね 2 ポイントで有意となり、2 ポイント以上で差があることとした。

テレビ科目とラジオ科目のメディア間の比較では、同検定結果から概ね 2 ポイントで有意差が見られるため、年度間比較と同様 2 ポイント以上で差があることとした。

図 2－1 の肯定的評価では各項目とも 80%台で、『通信指導・単位認定試験』『全体評価（B-17～B-21）』が 89%と最も高く、逆に『放送授業』（83%）が最も低い評価であった。

図 2－1 【学部】 項目平均による全体的傾向

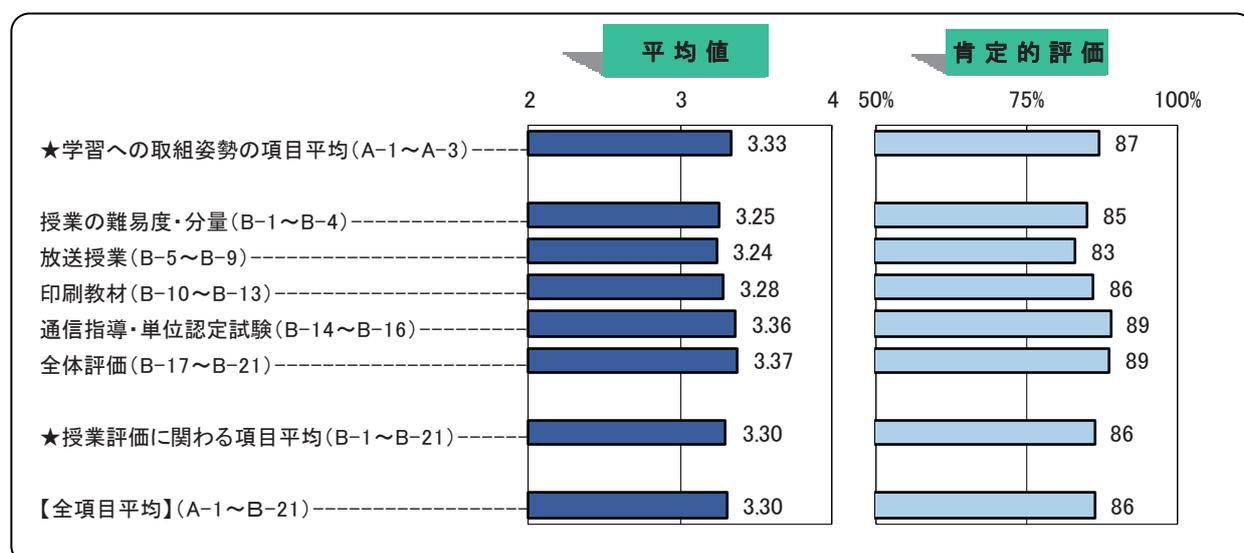
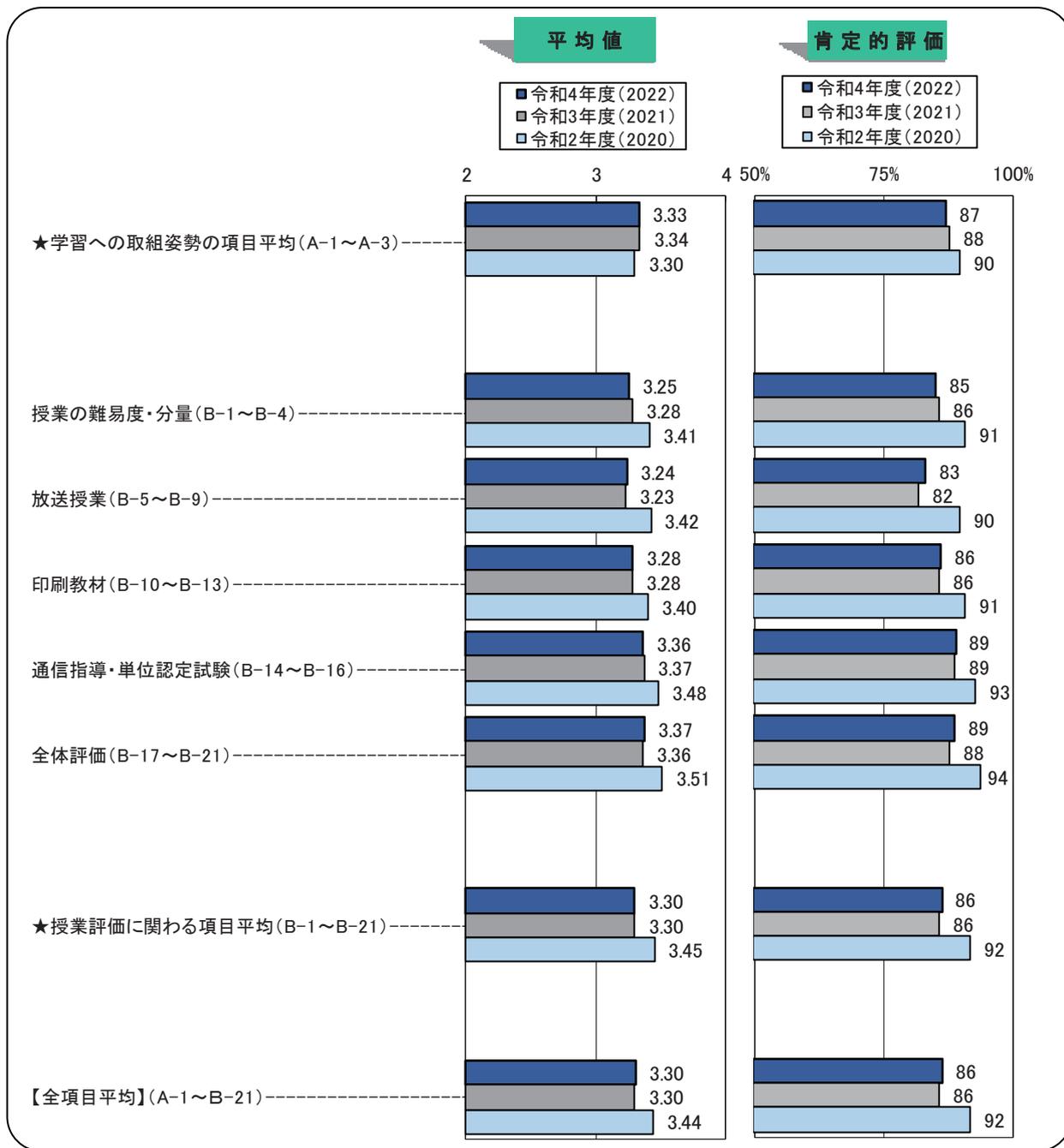


図2-2の項目平均による全体的傾向では、肯定的評価が本年度は、『学習への取組姿勢』『授業の難易度・分量』が連続して低下していた。それ以外の項目については、昨年度より1~2ポイント増となっていた。

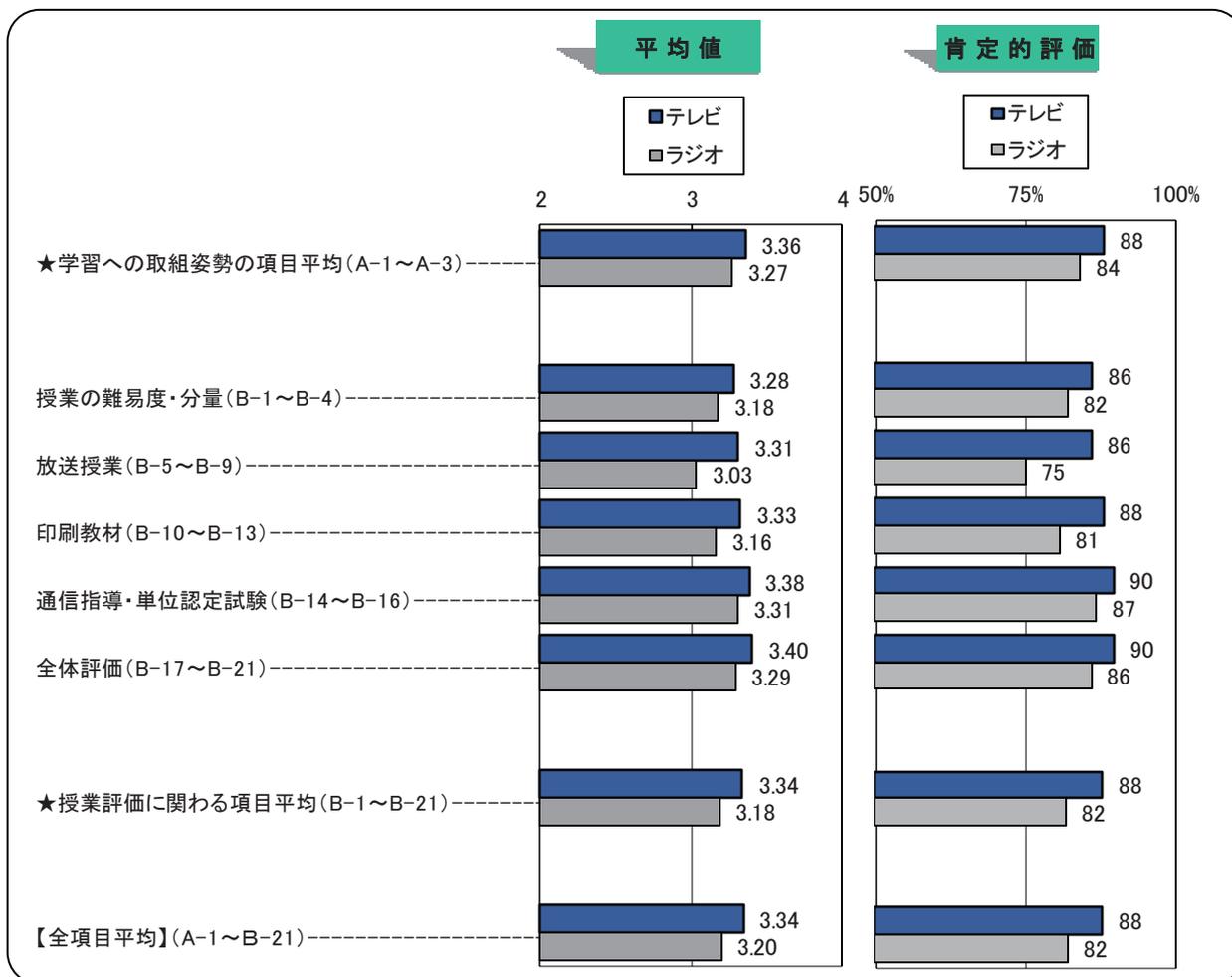
図2-2【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



※放送授業(B-5~B-9)の質問項目については、令和3年度(2021)より入れ替えが行われた。  
 追加された項目：B-8【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった  
 B-9ゲストや聞き手によって、理解が深まった  
 削除された項目：講師の熱意が十分に伝わった  
 従って、放送授業(B-5~B-9)の質問項目の年度比較については、留意されたい。

メディア別では（図2-3）、テレビ科目とラジオ科目のメディア間では、いずれの項目もテレビの方が4～11ポイント高くなっていた。（特に『放送授業』の差が大きい）

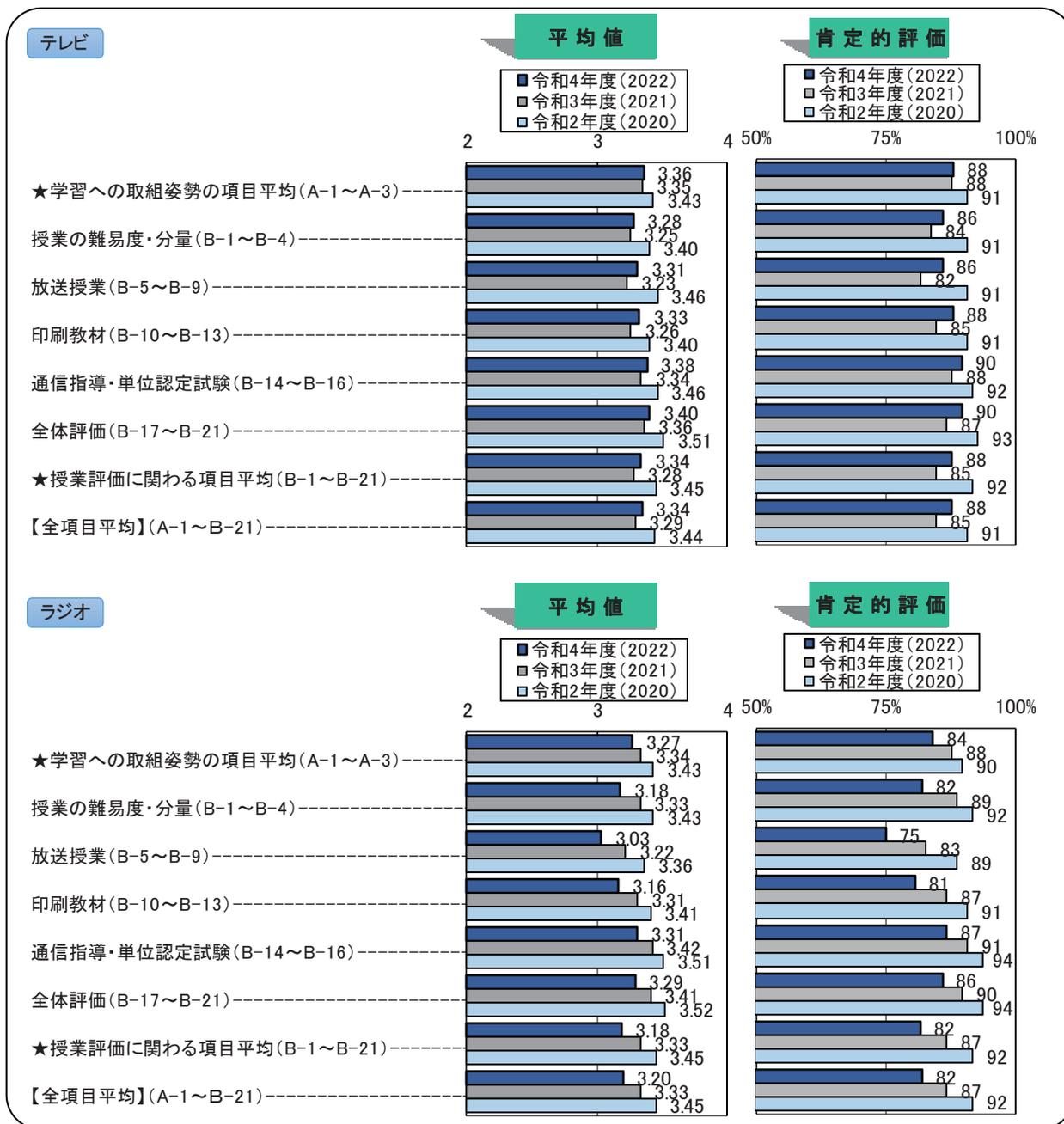
図2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



メディア別の項目平均を時系列で比較して見ると（図2-4）、テレビ科目では、本年度は昨年度より全ての項目で評価が上昇していた。

一方、ラジオ科目では、全項目で評価が昨年度を下回っており、中でも『放送授業』は8ポイントのマイナスであった。

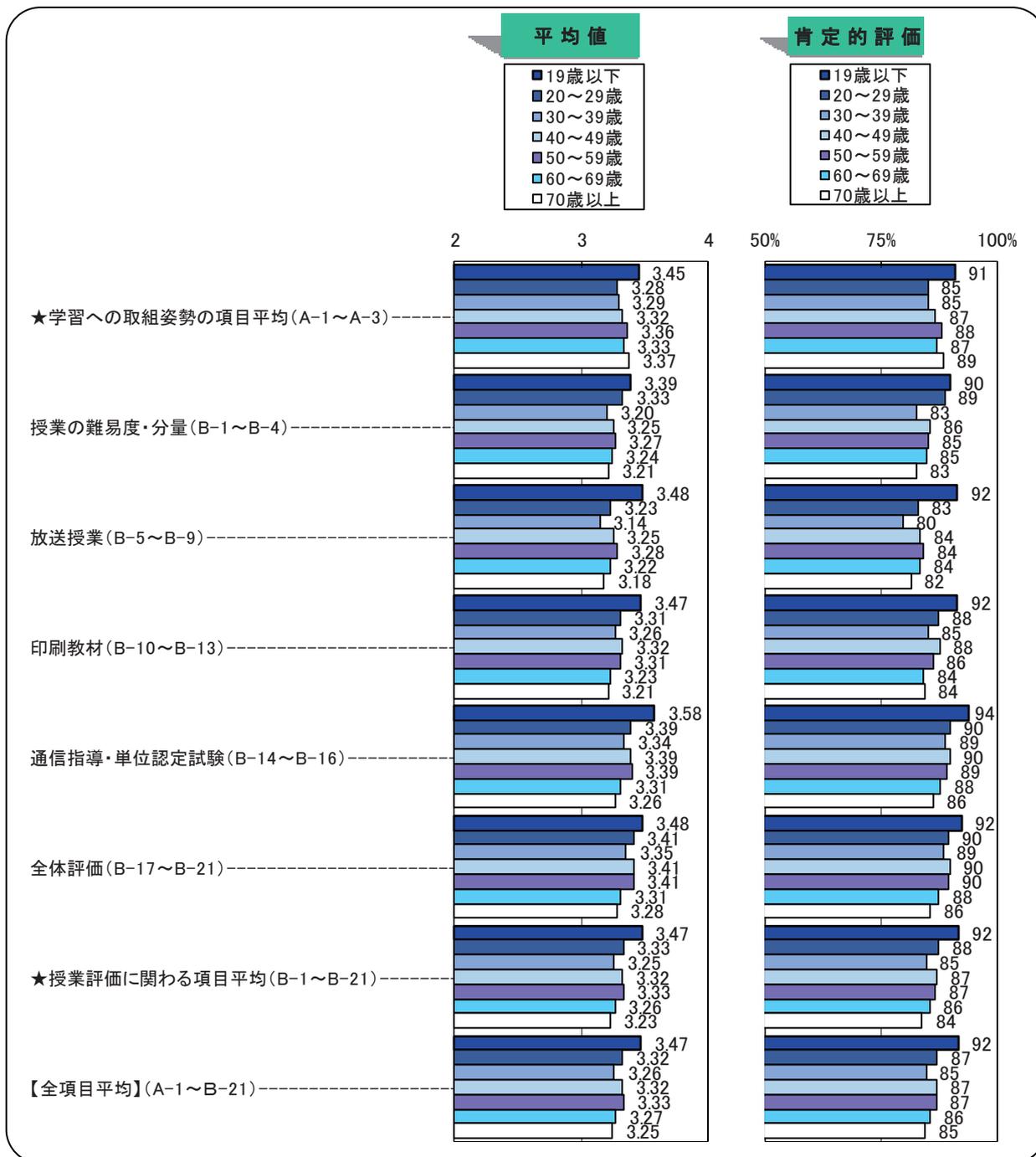
図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



年齢階層別（図2-5）では、19歳以下は、全項目で肯定評価が高くなっていった。『授業の難易度・分量』『通信指導・単位認定試験』は20歳代も評価が高かった。

逆に全般的に評価が低かったのは30歳代で、特に『放送授業』の評価が80%と低かった。

図2-5【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向

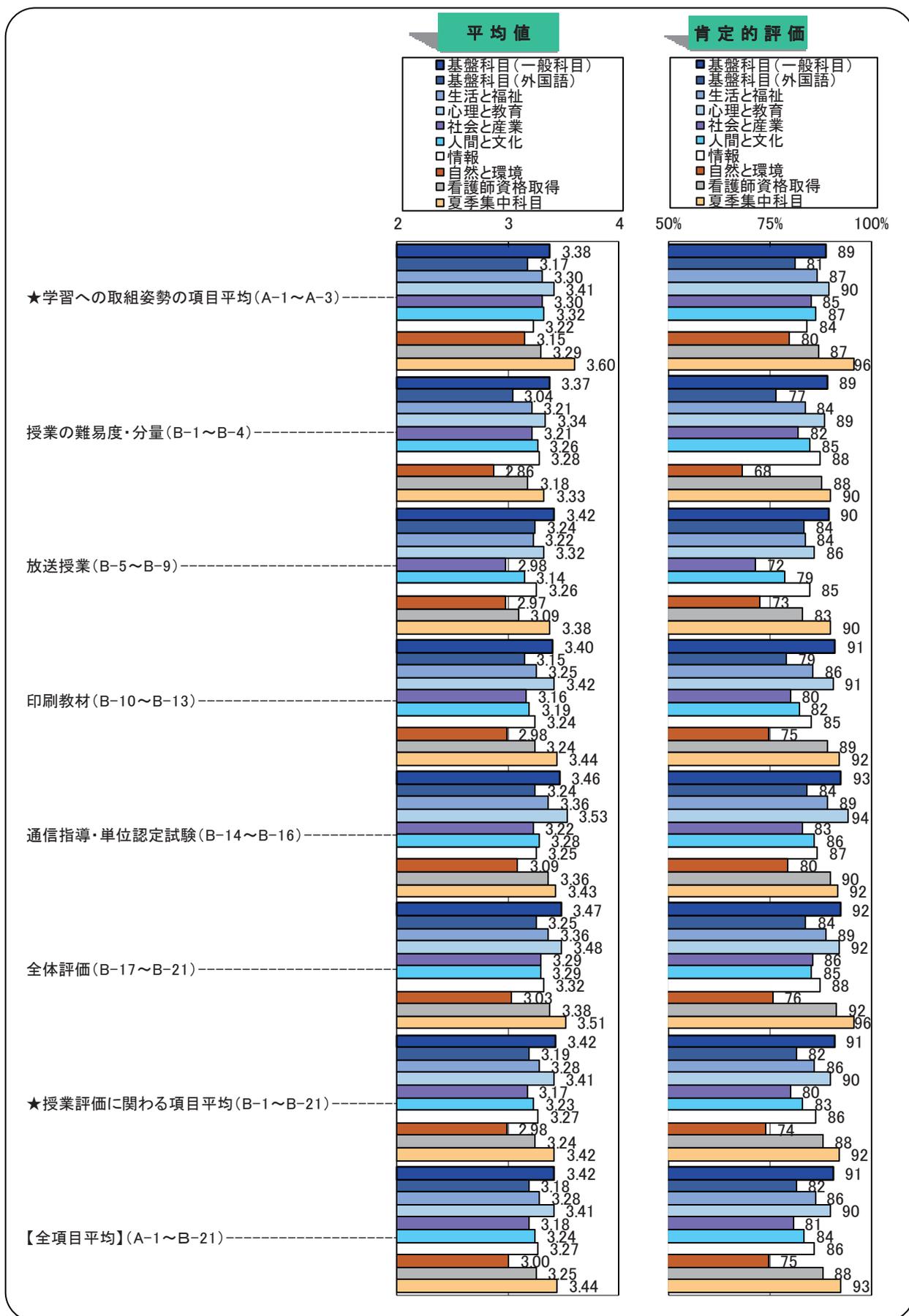


所属コース別に項目平均を見ると（次頁図2-6）、『通信指導・単位認定試験』以外の項目で「夏季集中科目」の肯定評価が最も高かった。また、「心理と教育」は、『学習への取組姿勢』『授業の難易度・分量』『印刷教材』『通信指導・単位認定試験』『全体評価』において、肯定評価が高く90%～94%であった。

逆に「自然と環境」は『放送授業』以外の項目で、他の所属コースより肯定的評価が低く、最も評価の低い『授業の難易度・分量』は68%と他の所属コースに比べ大きな差が見られた。

その結果、『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』において、「夏季集中科目」の肯定的評価が最も高く、「自然と環境」が最も低かった。

図2-6 【学部】項目平均による所属コース別全体的傾向

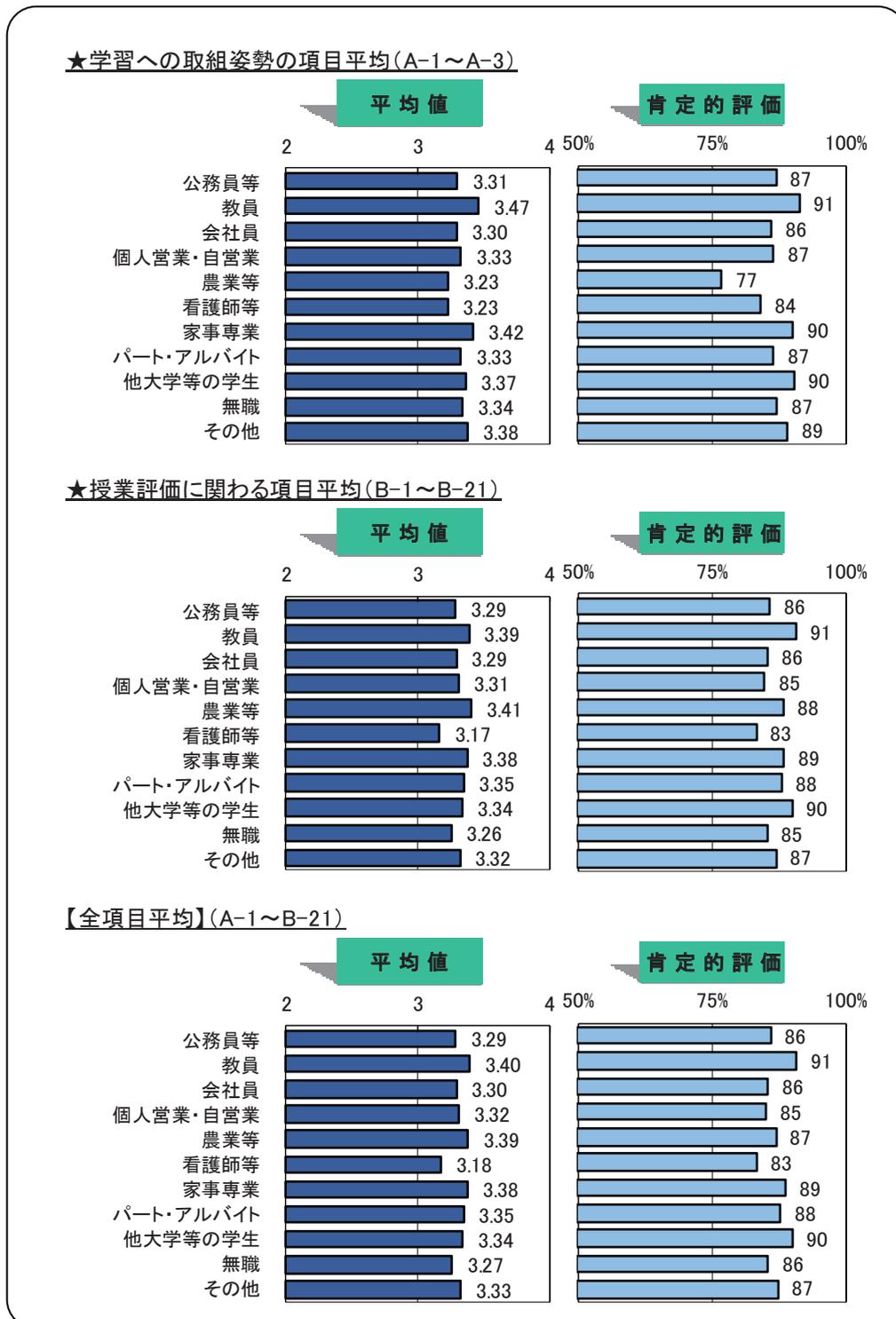


職業別の（図2-7）肯定的評価は「教員」と「家事専業」と「他大学の学生」において、下記全ての項目で上位1～3位の高評価で、89～91%であった。

反対に「看護師等」は『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』で最も評価が低く、上位1～3位に比べ8ポイント以上の差が見られた。

他に「農業等」も『学習への取組姿勢の項目平均』では、77%と低くなっていた。

図2-7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向



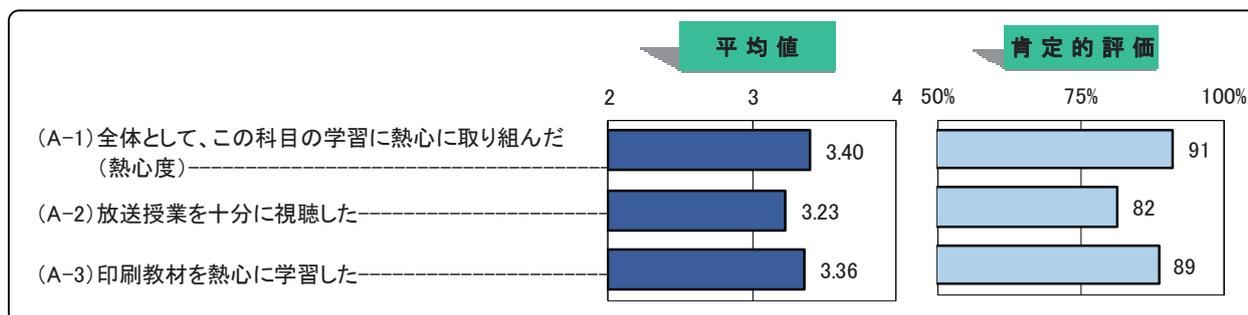
## Ⅱ-1-2. 学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれの評価項目ごとに調査結果を見ていく。

全回答者の学習への取組み姿勢（図2-8）は、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」が91%と、その熱心度は高かった。

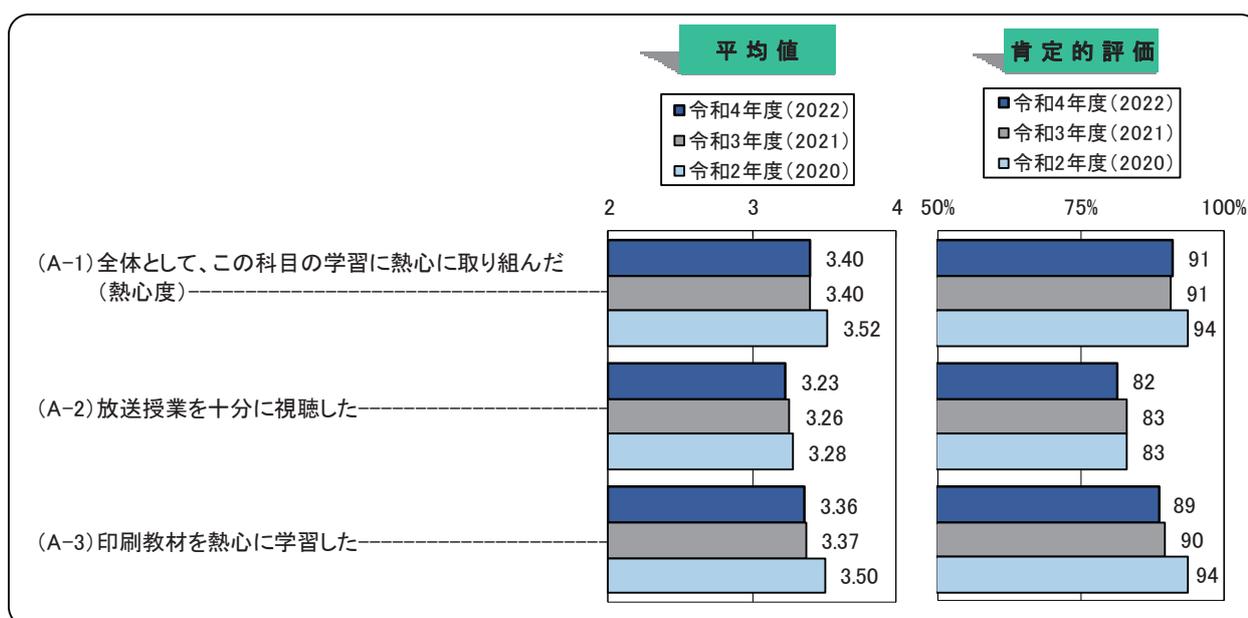
(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は82%と、他の2項目に比べ低く、印刷教材での学習のウエイトの方が高かった。

図2-8 【学部】回答者全体の取組み姿勢



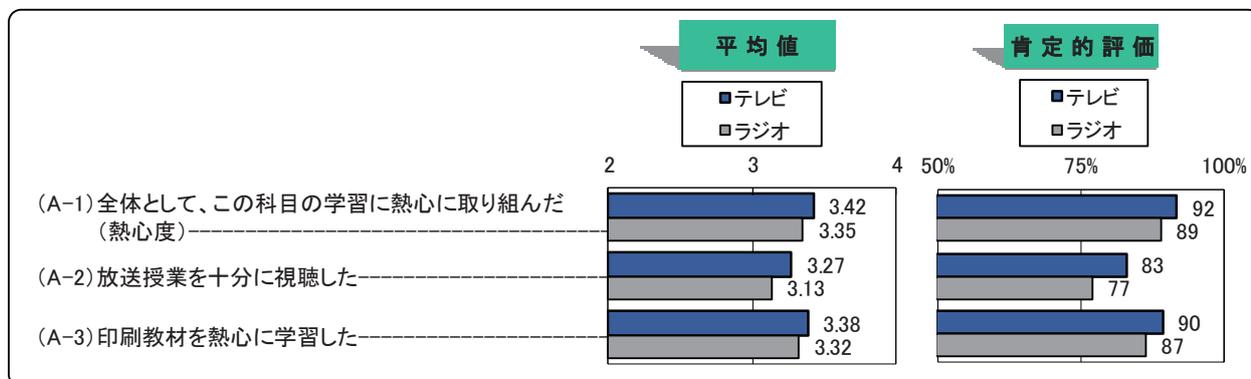
取組み姿勢を時系列で見ると（図2-9）、全ての項目で本年度の結果が、大きな差ではないものの、昨年度、一昨年度と同水準か下回っていた。

図2-9 【学部】回答者全体の取組み姿勢（時系列）



次にメディア別の取組姿勢では（図2-10）、テレビ科目とラジオ科目を比べると各項目ともにテレビ科目の評価が高かった。

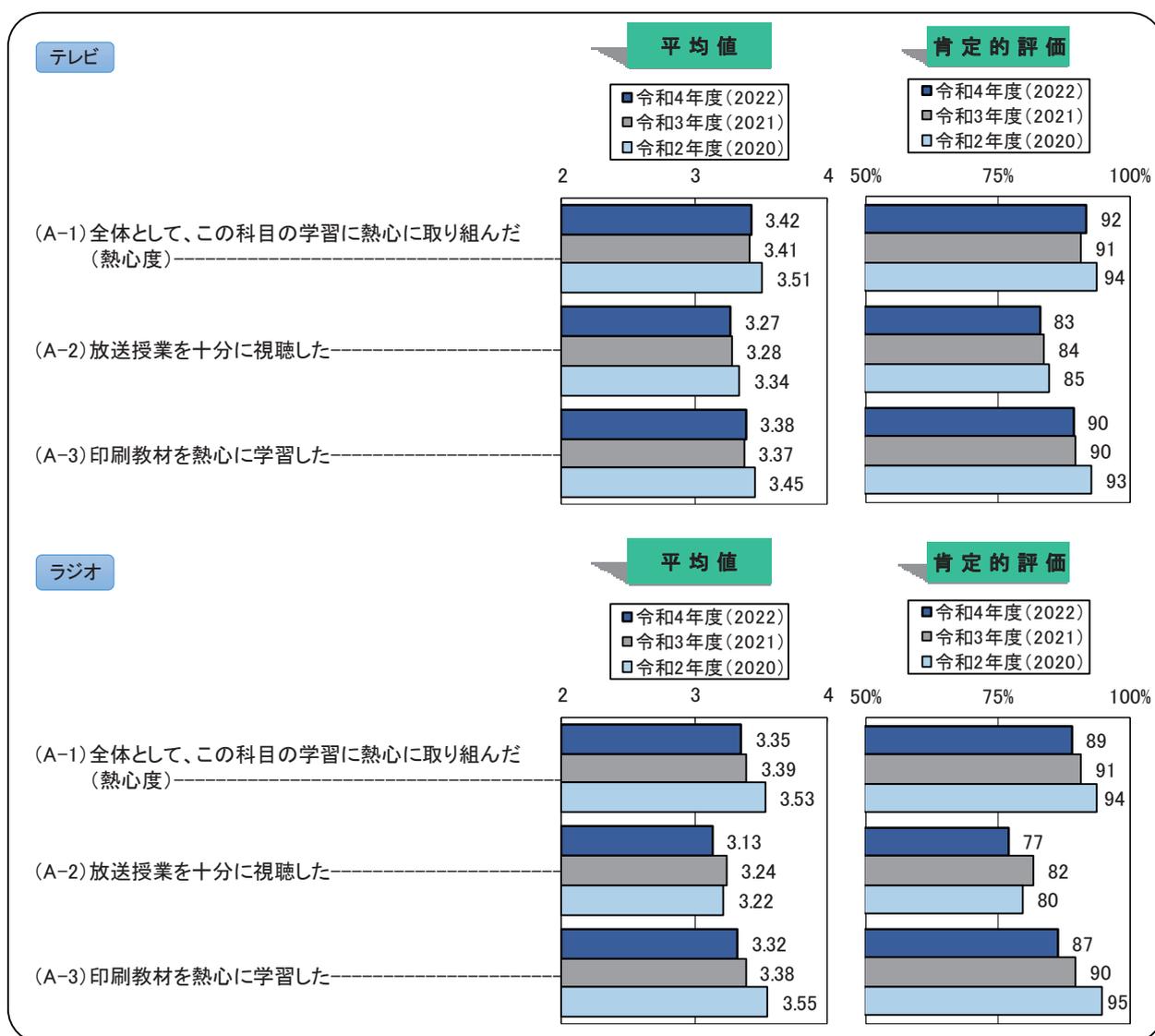
図2-10【学部】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-11）、テレビ科目は、昨年度と比べ3項目とも1ポイント前後の増減となっており、大きな変化は見られなかった。

ラジオ科目については、昨年度と比べ3項目とも評価が低下しており、中でも（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は5ポイント減となっていた。また、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」ことについては、連続して評価が低下していた。

図2-11 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）

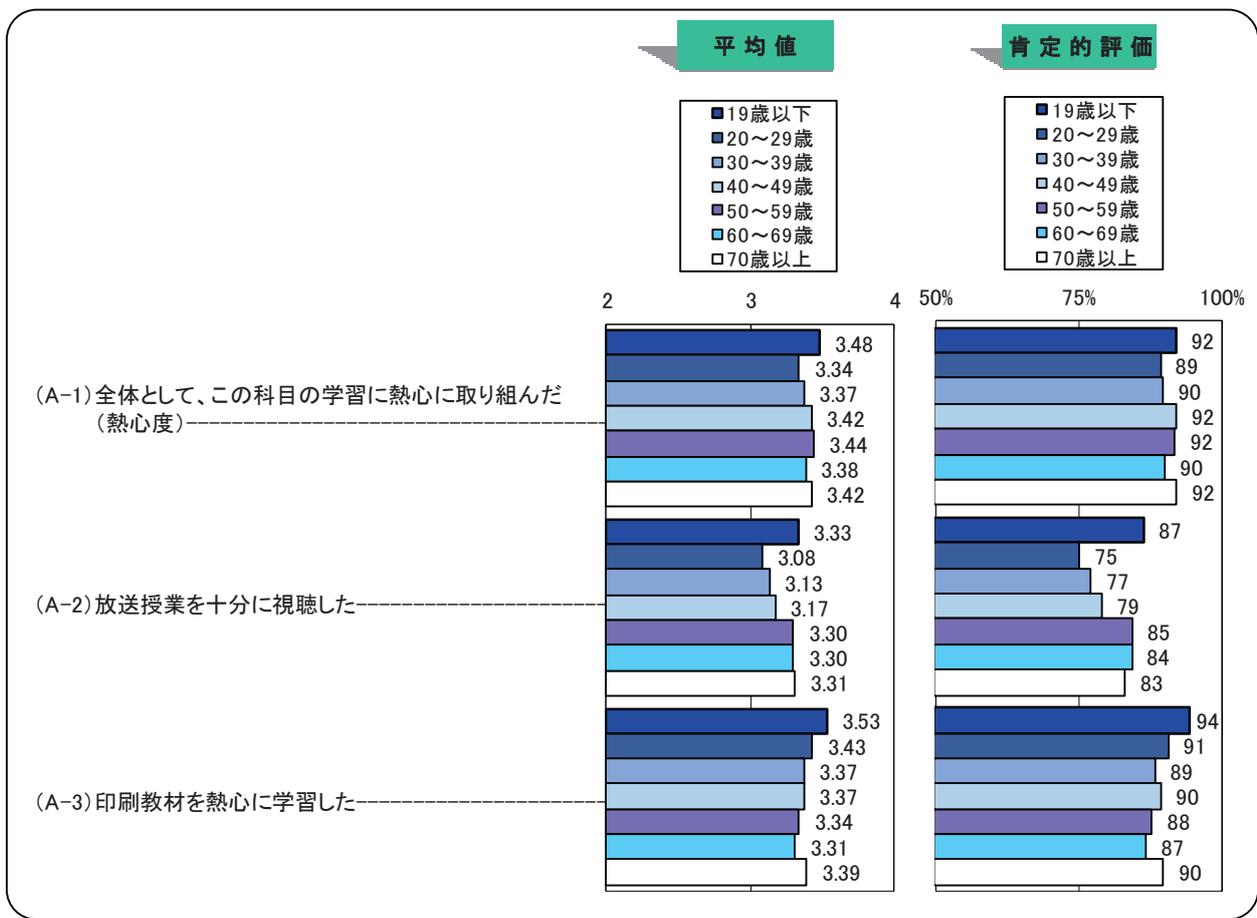


年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-12）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は各年代とも89～92%と大きな差は見られなかった。

(A-2)「放送授業を十分に視聴した」については19歳以下が87%と高い一方、20～40歳代は8割を下回っていた。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」についても、19歳以下が94%と最も熱心度が高かった。

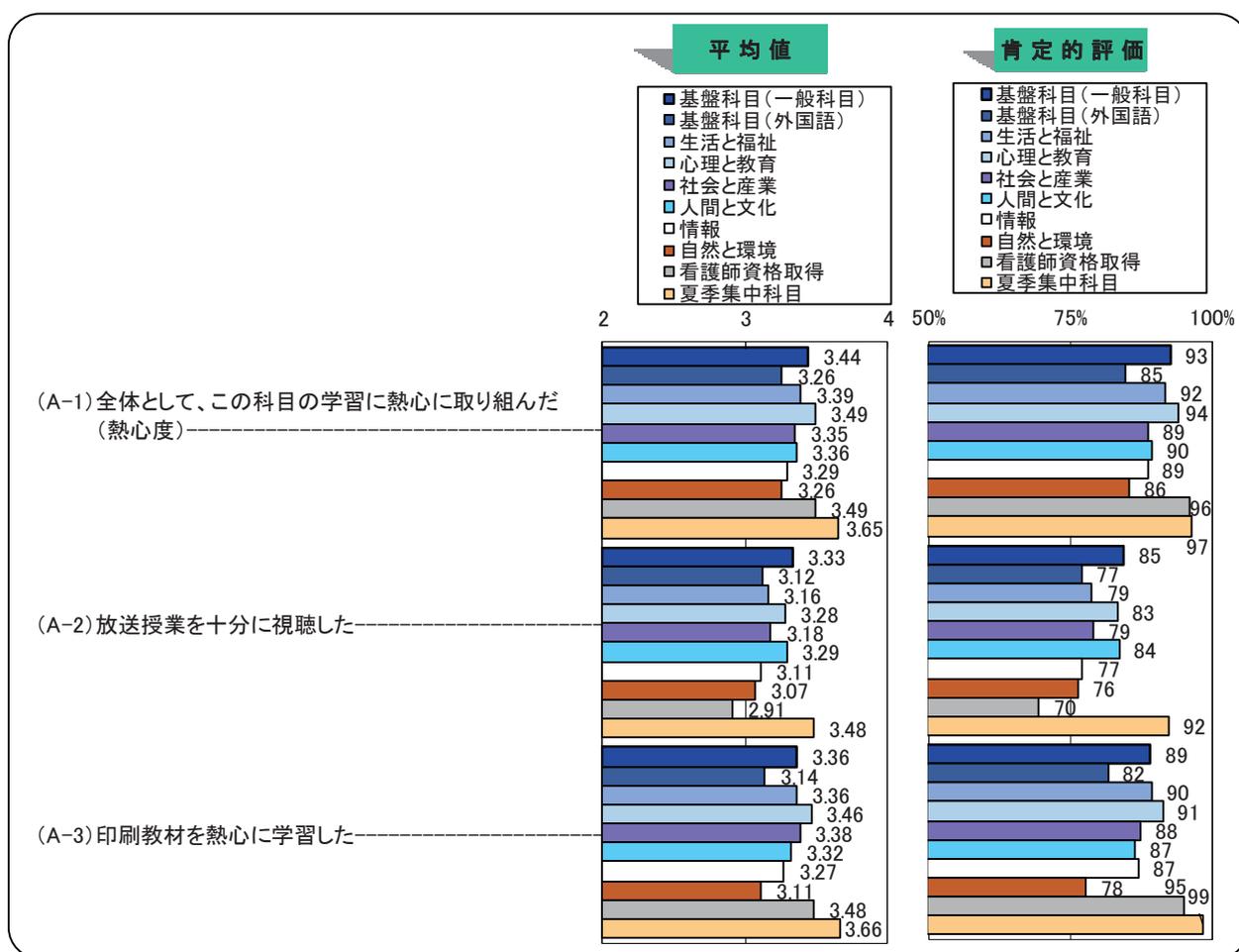
図2-12 【学部】年齢階層別に取り組姿勢



所属コース別に取り組姿勢を見ると（図2-13）、全ての項目で「夏季集中科目」が最も高く、特に（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」（A-3）、「印刷教材を熱心に学習した」は、その受講生の97%以上が積極的に取り組んでいた。

上記の2項目については「看護師資格取得」でも同様に、それぞれ95～96%と、高かったが、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」については70%と、最下位で極端な傾向が見られた。

図2-13 【学部】所属コース別の取り組姿勢

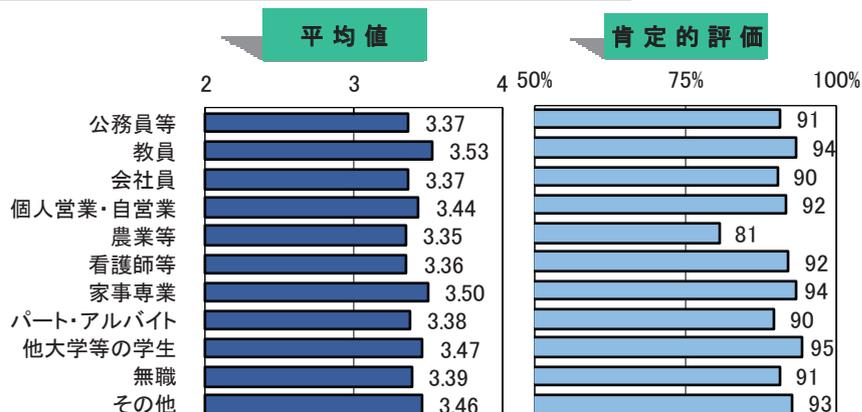


職業別に取り組姿勢を見ると（次頁図2-14）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は「他大学等の学生」（95%）が他の職業と比べ、その割合が高かった。

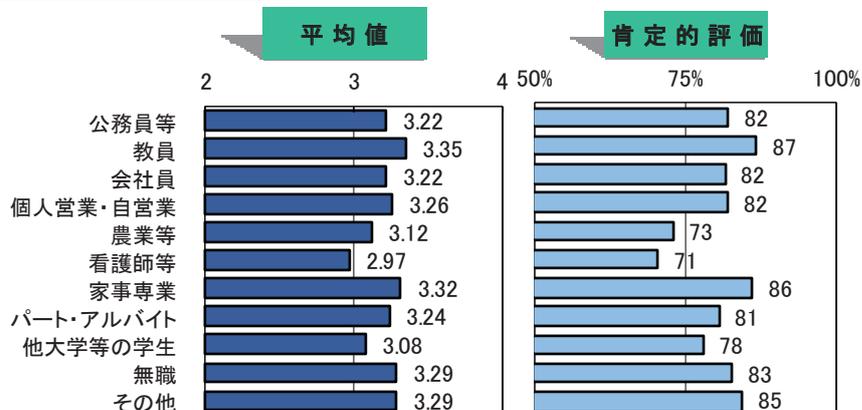
(A-2)「放送授業を十分に視聴した」については「他大学等の学生」は78%と低かったが、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」では「他大学等の学生」（99%）は最も高かった。各項目とも熱心度が最も低かったのは「農業等」であった。

図 2-14 【学部】職業別の取組姿勢

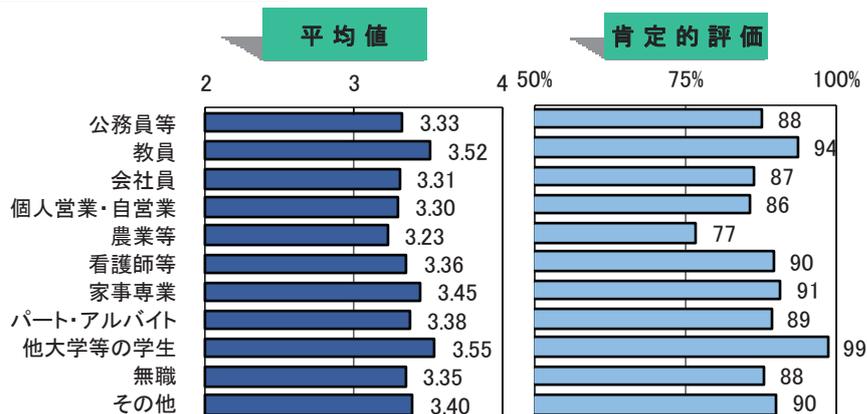
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(A-2) 放送授業を十分に視聴した



(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（次頁図2-15）では、全体は『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が72%と多く、『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』が21%、『ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ』は7%にしか過ぎず、「印刷教材の学習」で見ると、その利用は93%であった。

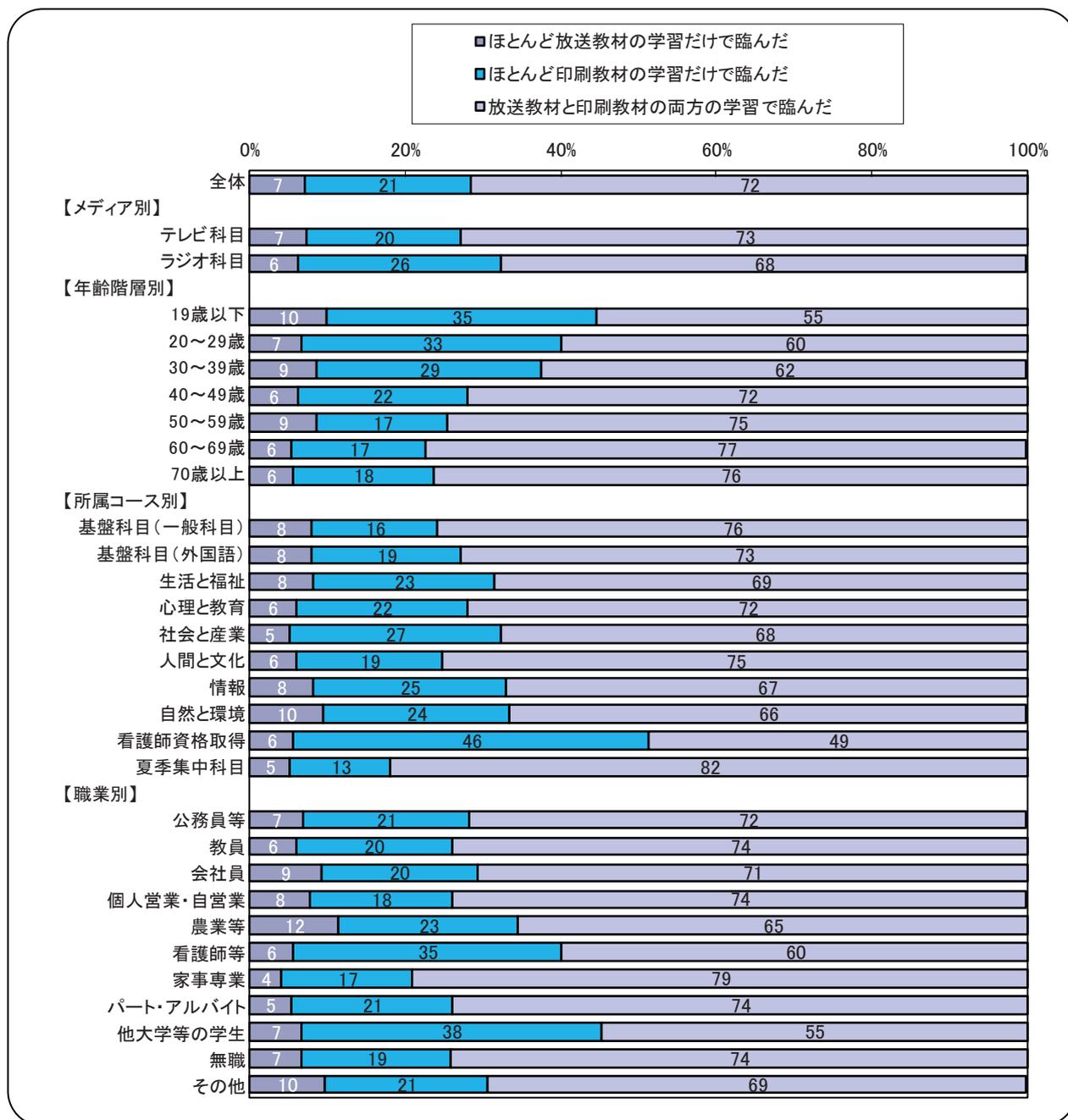
メディア別では「テレビ科目」は『放送教材と印刷教材の両方』が「ラジオ科目」より多く、「ラジオ科目」は『ほとんど印刷教材の学習だけ』が「テレビ科目」より多かった。

年齢階層別では、若い世代になるほど『ほとんど印刷教材の学習だけ』が多くなる傾向が見られた。

所属コース別では「看護師資格取得」は、『ほとんど印刷教材の学習だけ』が他の所属コースと比べ特に高く、46%であった。

職業別では、「看護師等」「他大学等の学生」については、『ほとんど印刷教材の学習だけ』がそれぞれ35%以上高かった。

図2-15 【学部】単位認定のための学習方法



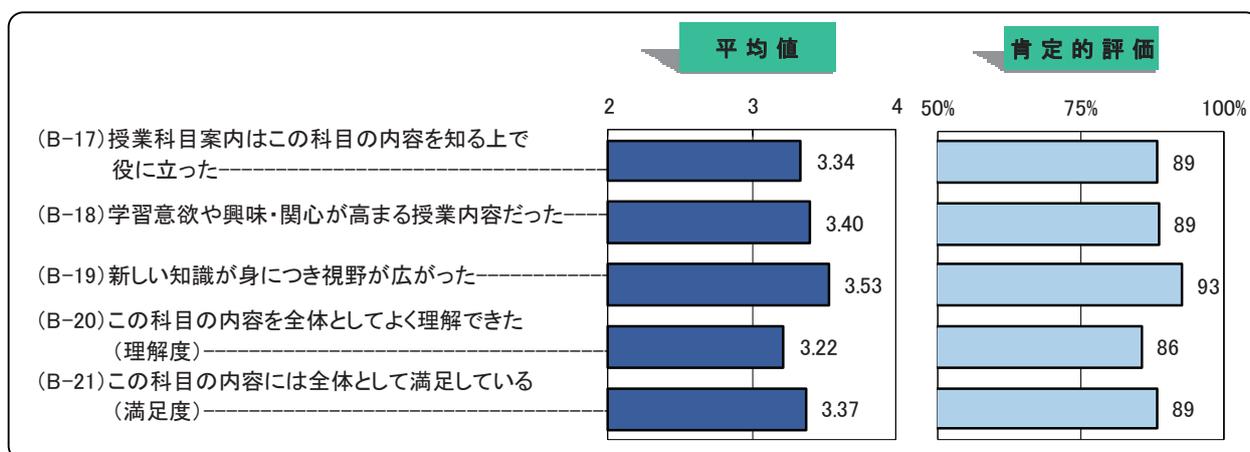
## Ⅱ-1-3. 学部の授業評価

### (1) 全体評価

次に学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていく。

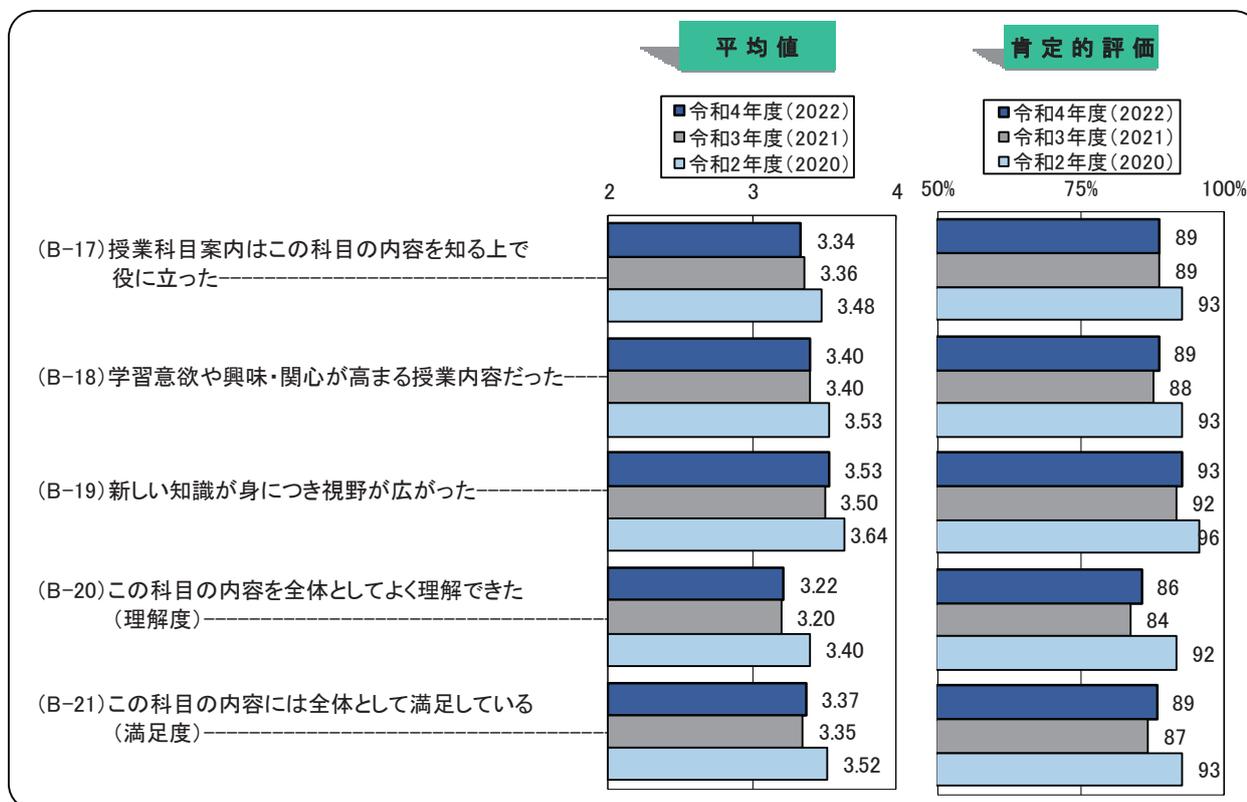
全体評価の各項目（図2-16）については、(B-18)「新しい知識が身につき視野が広がった」が93%と最も高かった。それ以外の項目については86～89%の評価であった。

図2-16 【学部】回答者全体の全体評価



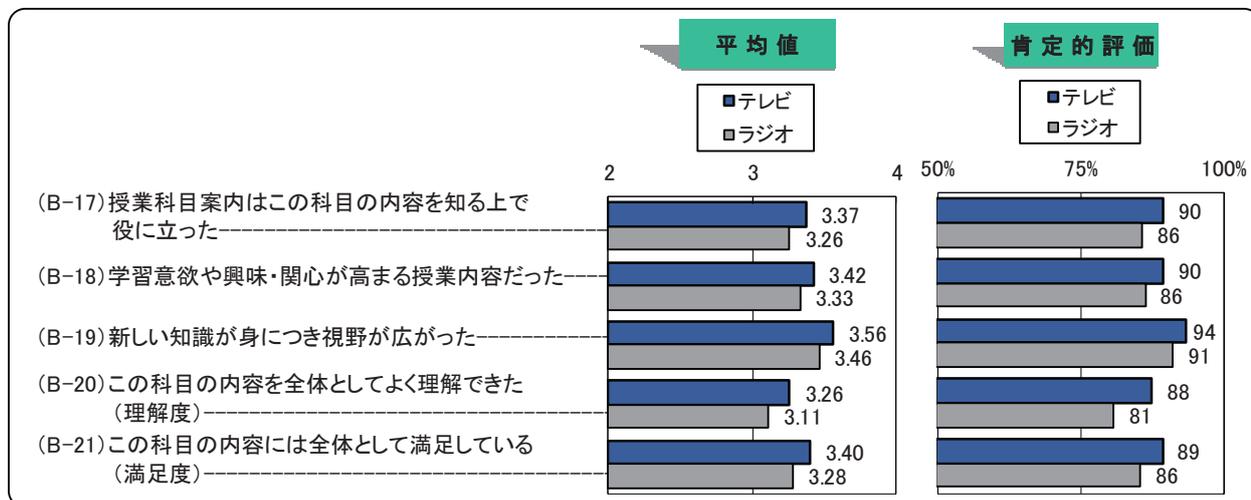
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、本年度は下記全ての項目で、昨年度より横ばいなし評価が上昇しており、中でも(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」は最も高く96%に達していた。

図2-17 【学部】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図2-18）、下記全項目でテレビ科目の評価の方が高かった。

図2-18【学部】メディア別の全体評価

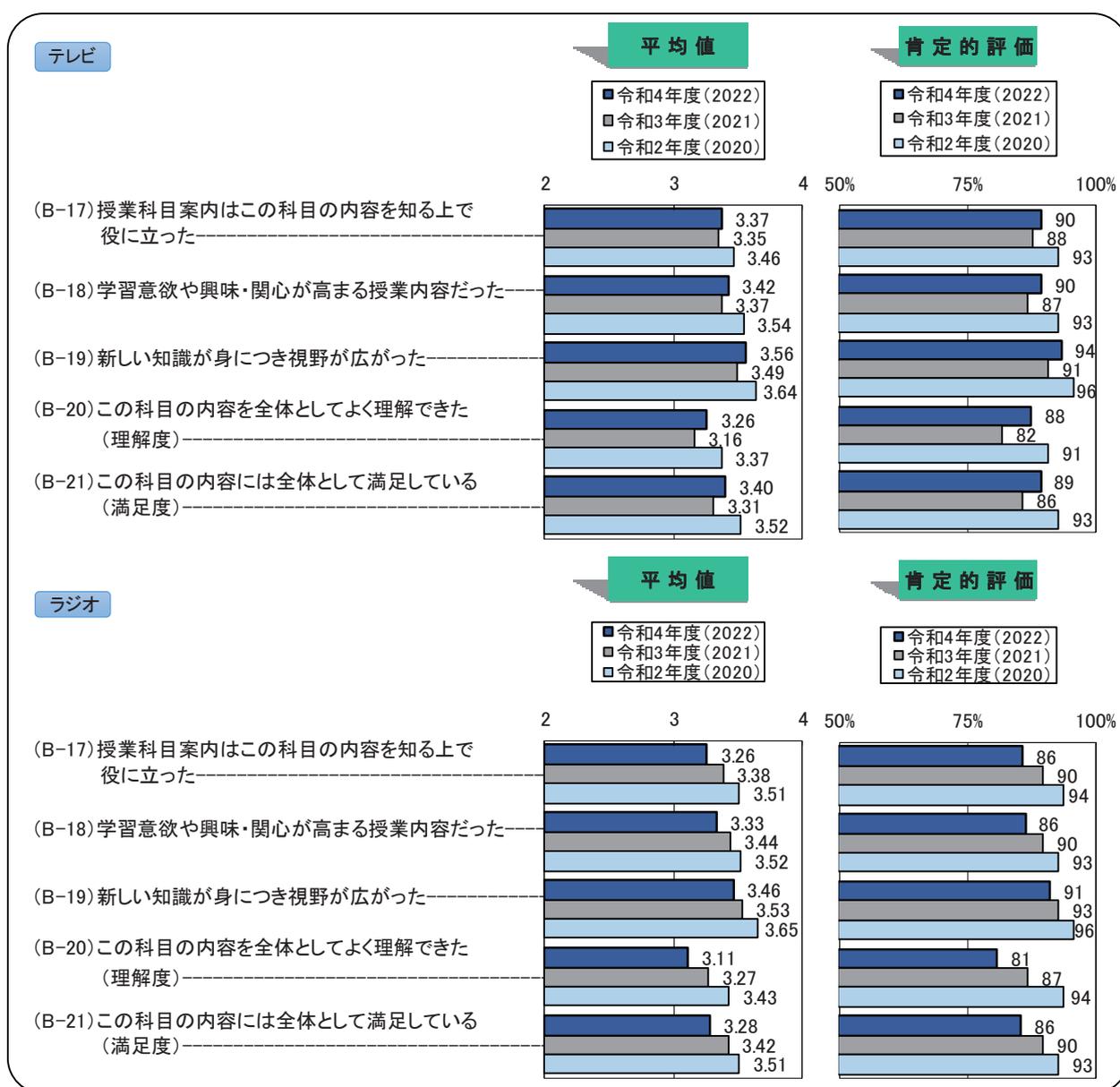


メディア別の全体評価を時系列で見ると（図2-19）、テレビ科目の評価は、下記全ての項目において、昨年度から上昇しており、中でも(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が96%と最も高かった。

テレビ科目の昨年度からの上昇幅は、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」が最も大きく、6ポイントであった。

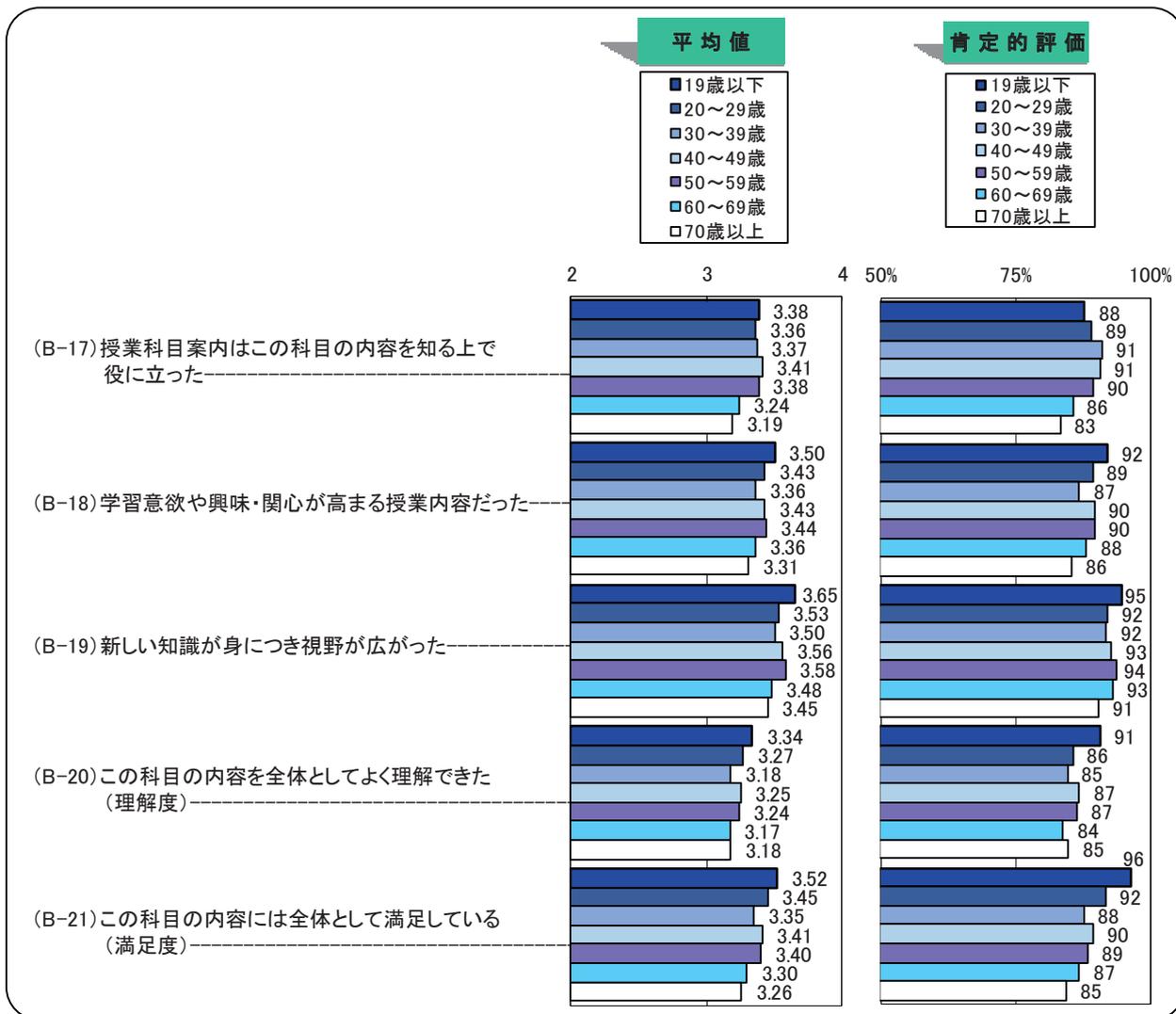
一方、ラジオ科目の評価については、下記全ての項目が連続して低下しており、特に昨年度からの減少幅が大きいのは、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」で、6ポイントであった。

図2-19【学部】メディア別の全体評価



年齢階層別に全体評価（図2-20）を見ると、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」以外の各項目で19歳以下の評価が最も高くなっていた。反対に他の年代と比べ評価が全般的に低かったのは、60歳代と70歳以上であった。

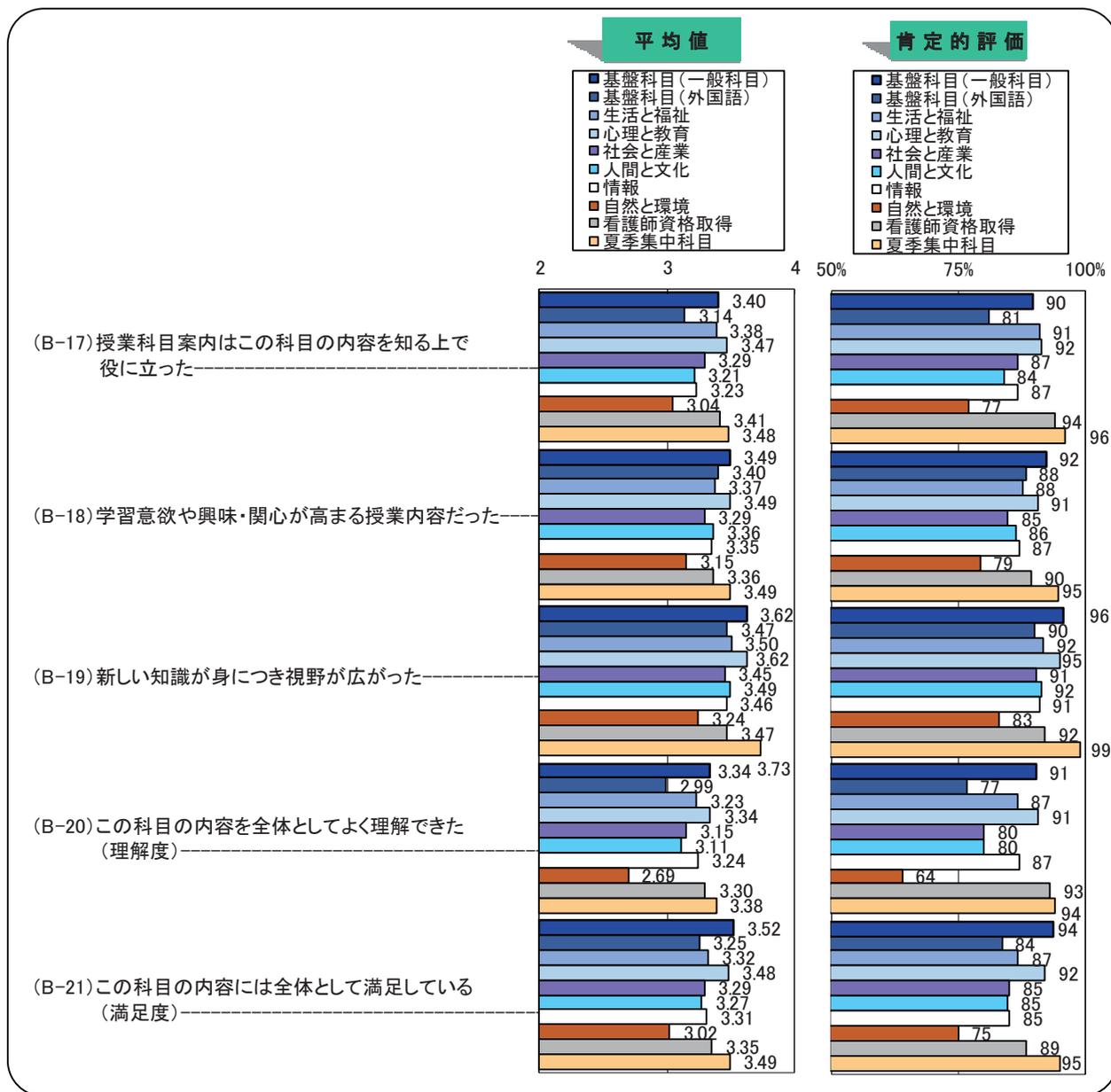
図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属コース別の全体評価では（図2-21）、下記各項目いずれも「夏季集中科目」の評価が高かった。（B-19）「新しい知識が身につく視野が広がった」に対する評価は、「自然と環境」を除いてどの所属コースも90%を上回った。

「自然と環境」については、上記の（B-19）「新しい知識が身につく視野が広がった」以外の項目でいずれも80%以下と特に低かった。

図2-21 【学部】所属コース別の全体評価

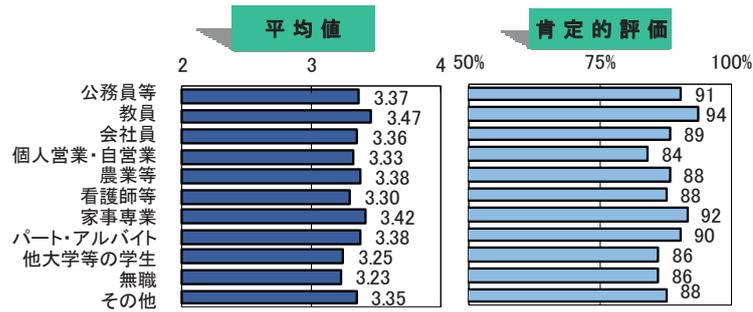


職業別の全体評価（次頁図 2 - 2 2）では、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」以外の次頁全ての項目で評価が高かったのは「教員」で、4 項目とも 92～98%であった。

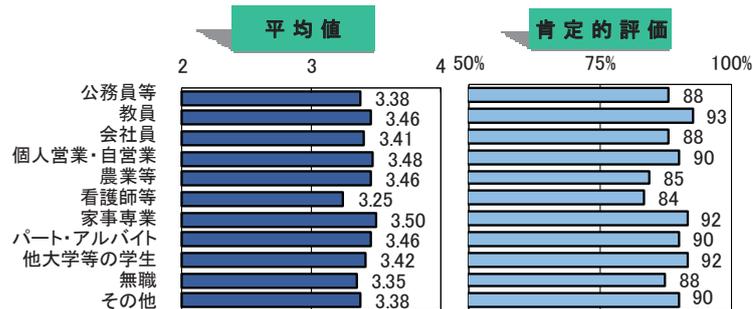
反対に評価が低かったのは、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」では「個人営業・自営業」(84%)、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では「看護師等」であった。

図 2-22 【学部】職業別の全体評価

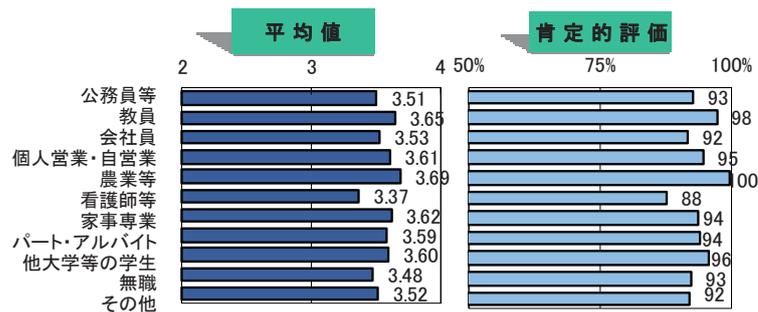
(B-17) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った



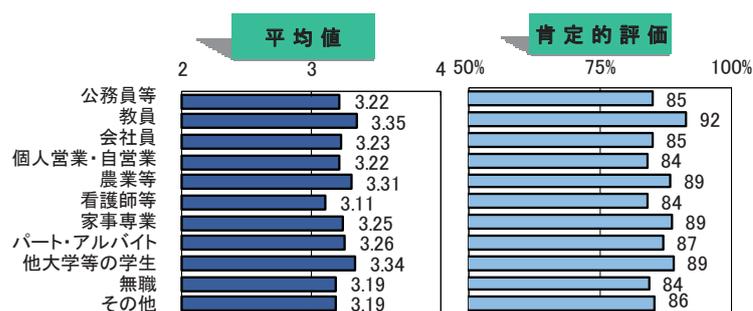
(B-18) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



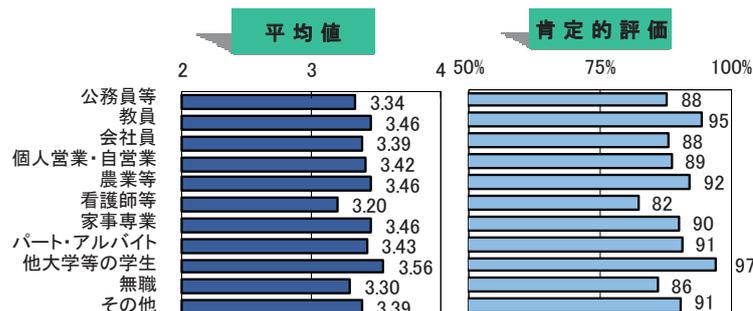
(B-19) 新しい知識が身につく視野が広がった



(B-20) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-21) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

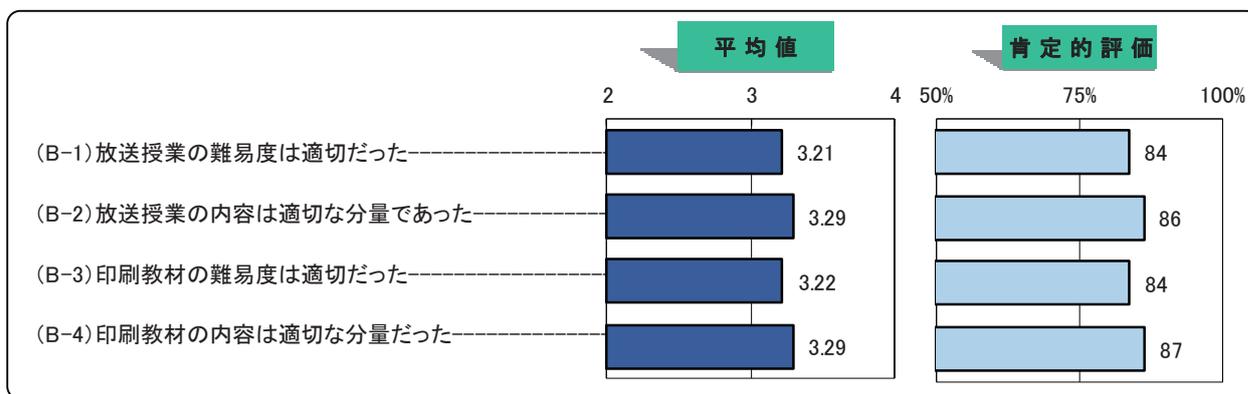


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量（図2-23）について、評価項目ごとに見ていくことにする。

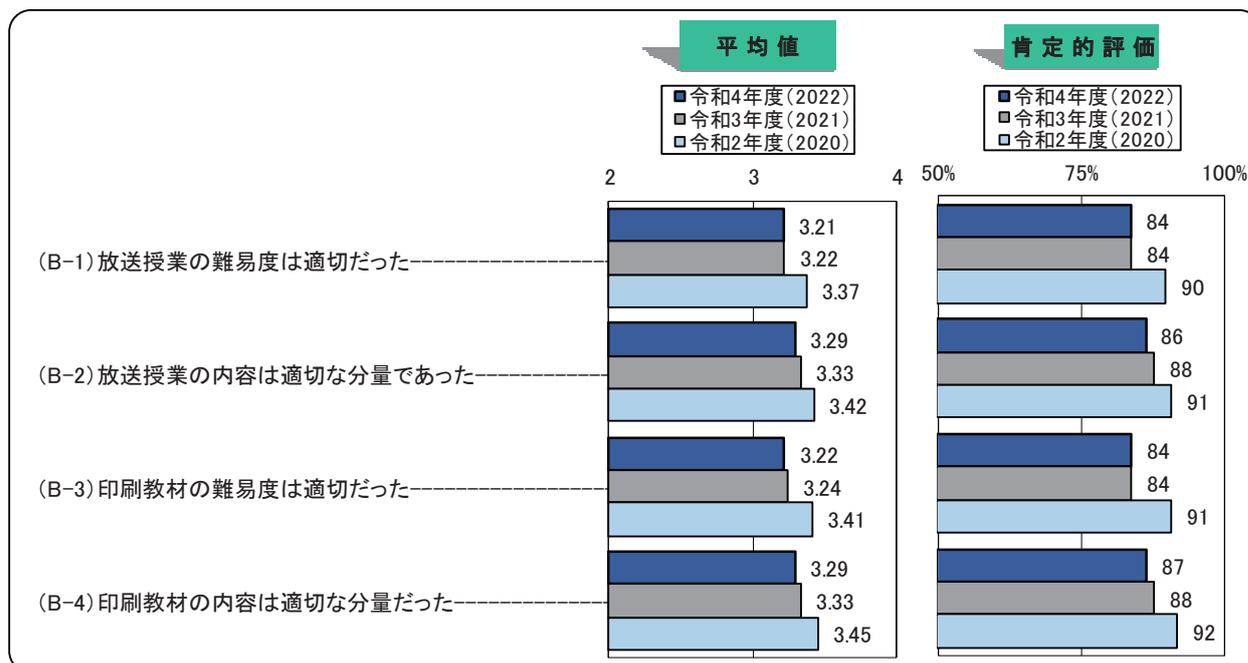
肯定的評価は、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」と(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」の難易度については、両項目とも84%、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」と(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」の分量については、86~87%で、それぞれの「分量」についての評価の方が高かった。

図2-23 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



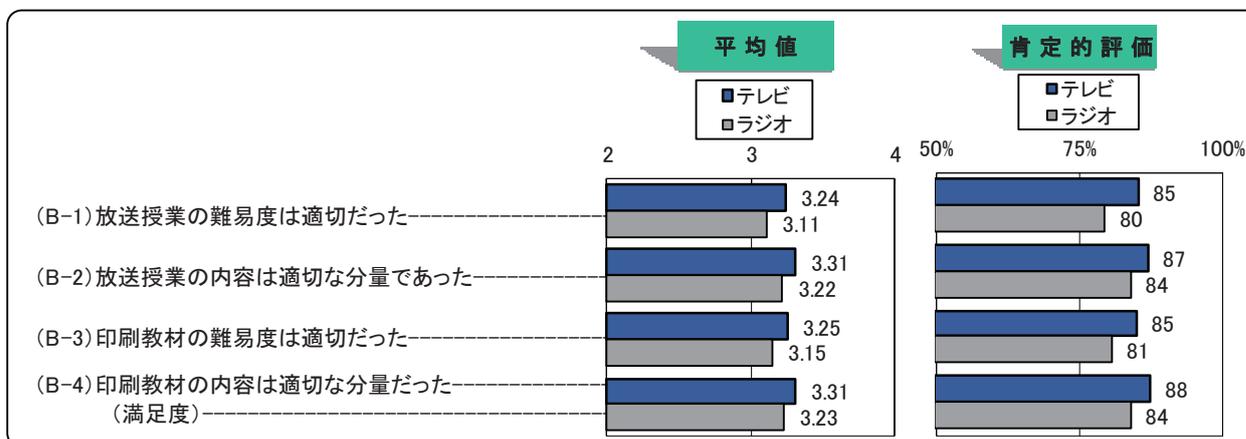
開設年度で比較すると（図2-24）、本年度は、下記4項目全てで、過去2年度から横ばいなし、評価を下げていた。

図2-24 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-25）、メディア間に差があり、いずれもテレビ科目の方が、評価が高く、特に(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では、テレビ科目がプラス5ポイントと大きな差であった。

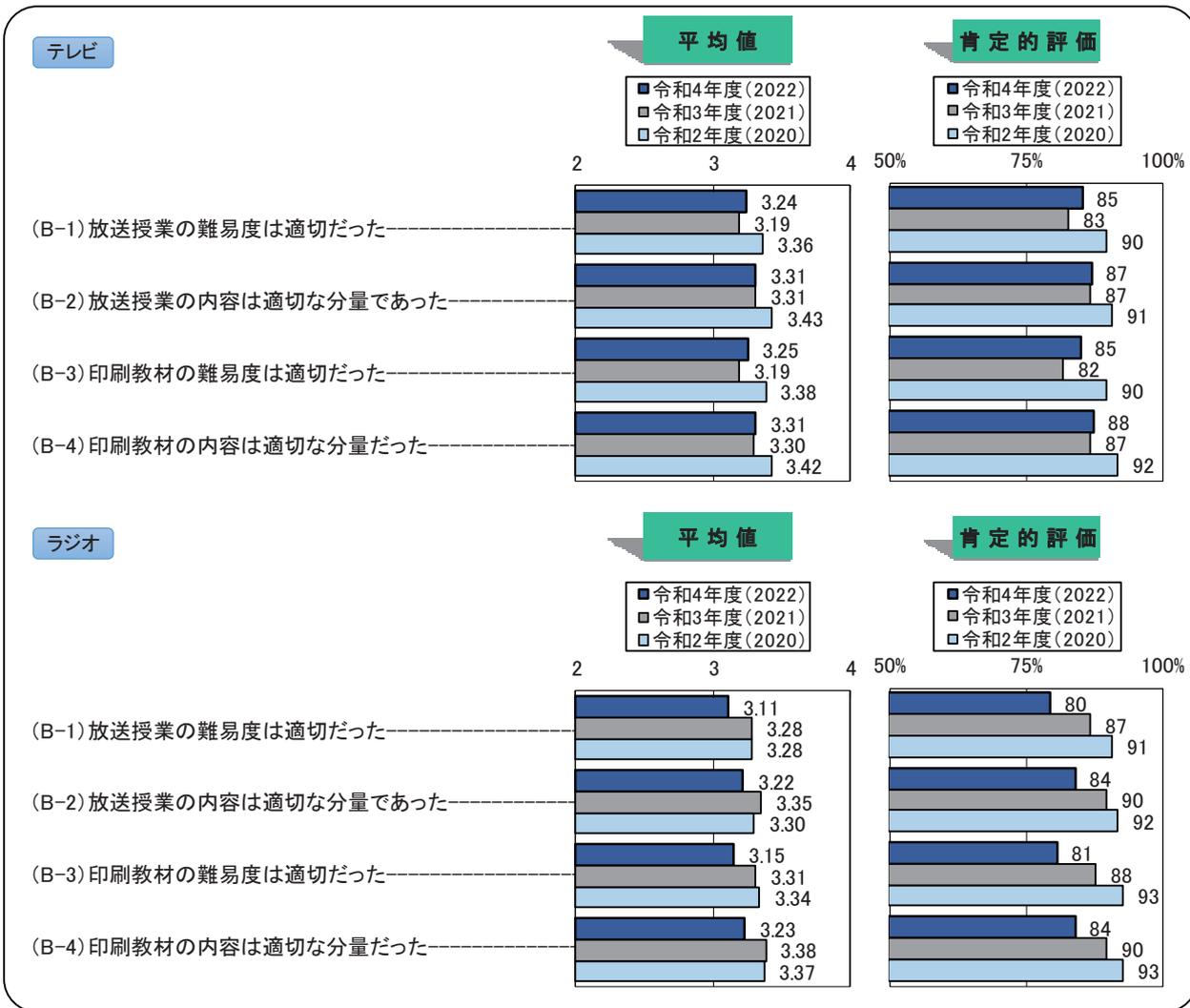
図2-25 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-26）、テレビ科目の肯定的評価は、全ての項目で昨年度を横ばいしないし上回っていた。

ラジオ科目については、逆に全ての項目で評価が低下傾向にあり、特に(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」と(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」は7ポイント減であった。

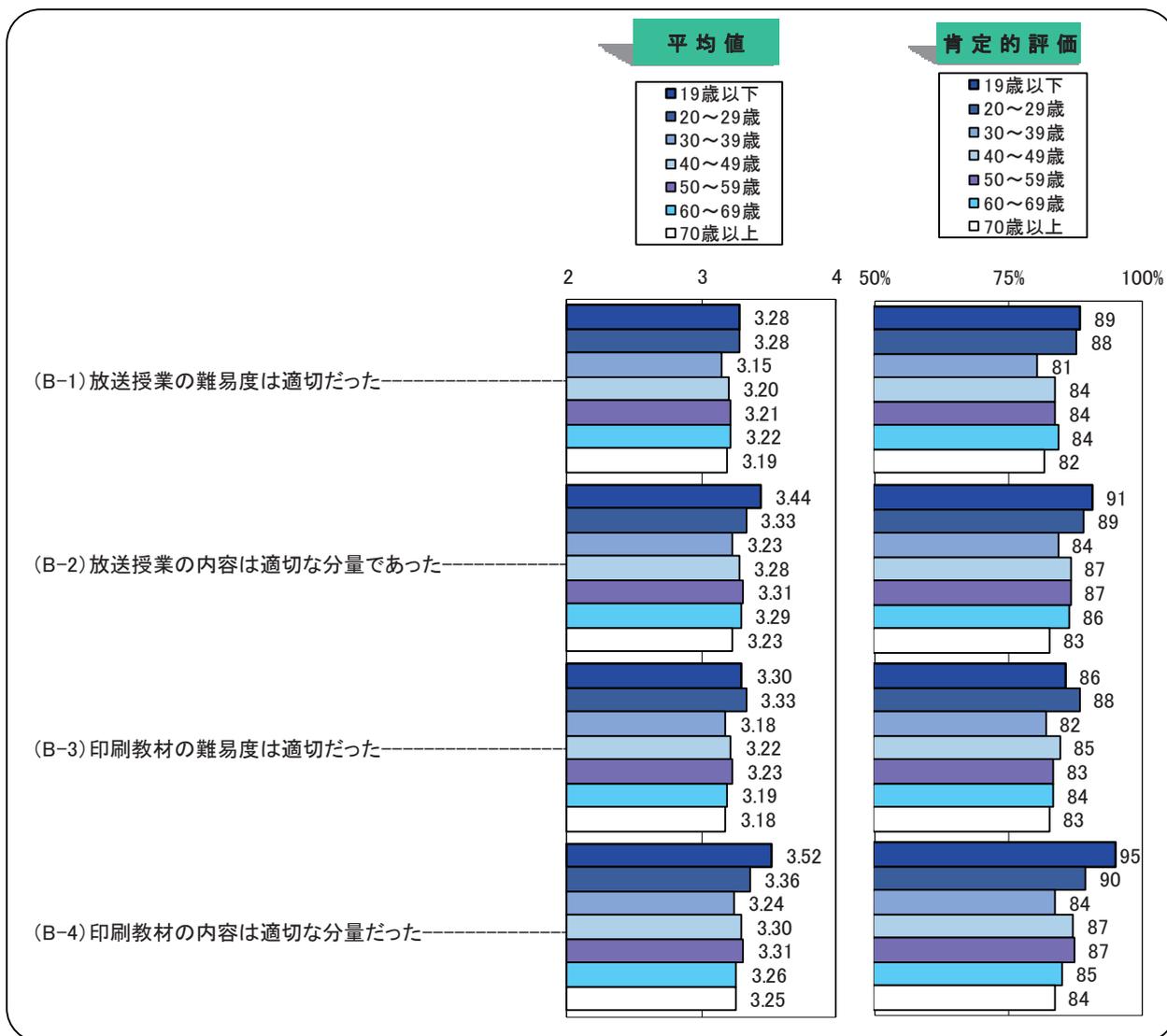
図2-26 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-27）、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」を除く各項目において、19歳以下の評価が最も高かった。

反対に70歳以上では、下記全ての項目において評価が84%以下と最も低かった。

図2-27【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価

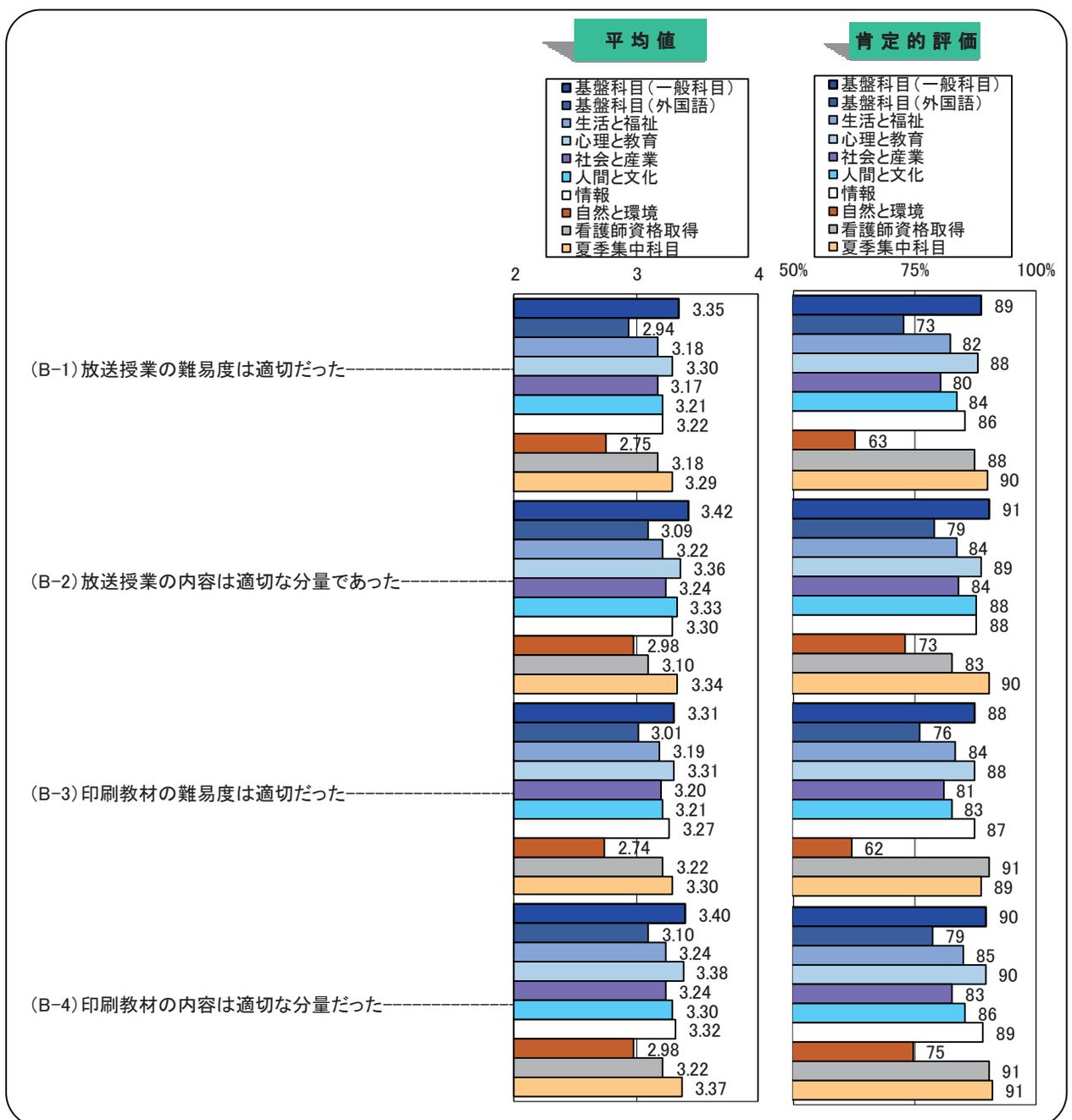


所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図2-28）、下記全ての項目で特徴的であったのは、「夏季集中科目」「看護師資格取得」が上位1、2位を占めていた。

また、(B-2)「放送授業の内容は適切な量だった」では「基盤科目（一般科目）」の評価も高く、91%であった。

反対に全ての項目で最も評価が低かったのは「自然と環境」で、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」と(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」では、他の所属コースから10ポイント以上の開きがあり、それぞれの難易度に対する評価は低かった。

図2-28 【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価

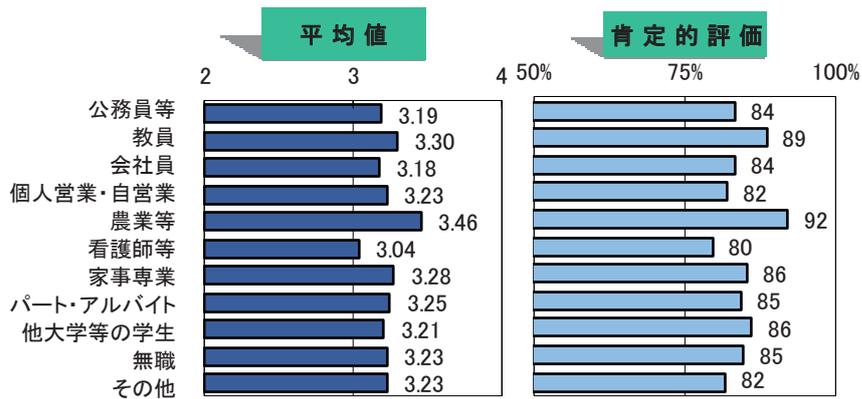


職業別に授業の難易度を見ると（次頁図 2 - 2 9）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」については、それぞれ「教員」「農業等」の評価が 89%～96%と高かった。(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」については、「他大学等の学生」が 93%と最も高かった。

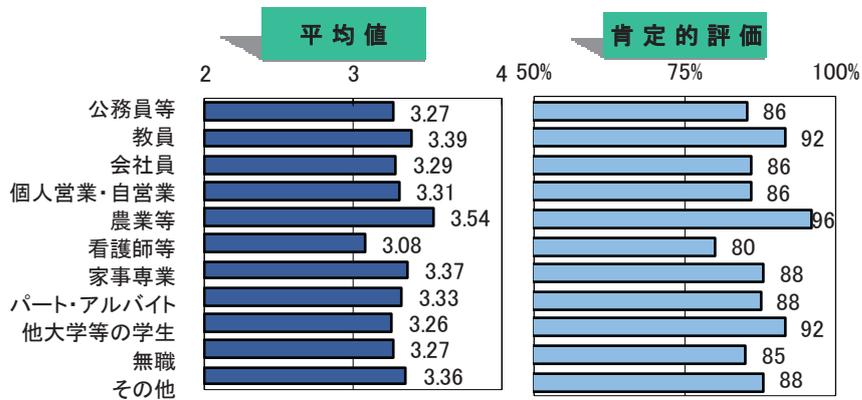
逆に、各項目で評価が最も低かったのは「看護師等」であった。

図 2-29 【学部】職業別の授業難易度の評価

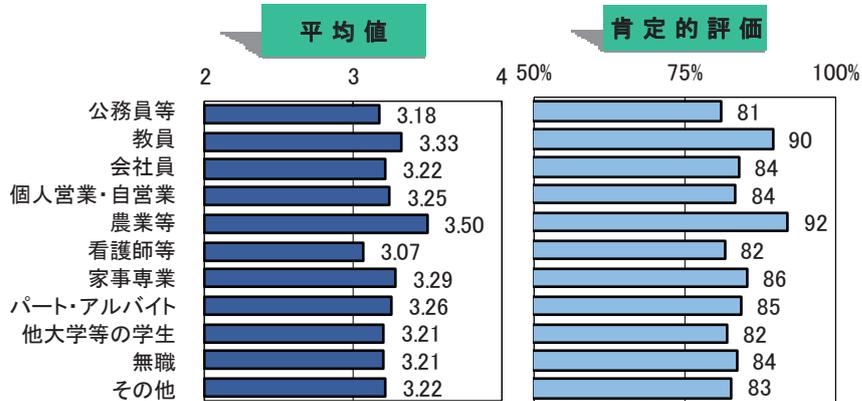
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった



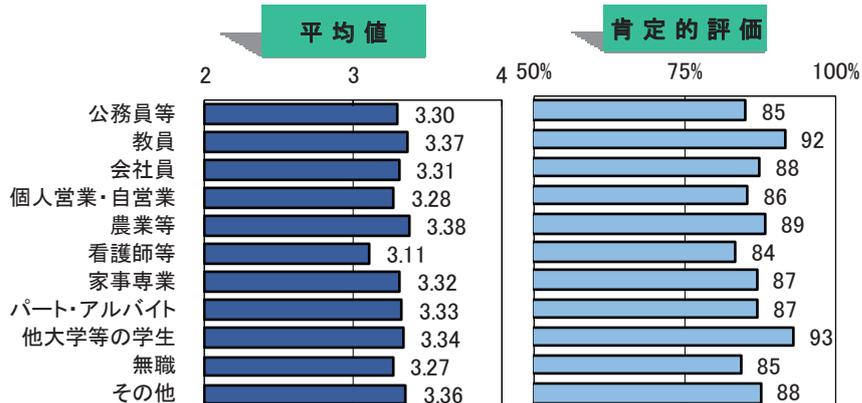
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった



(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった



(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量だった

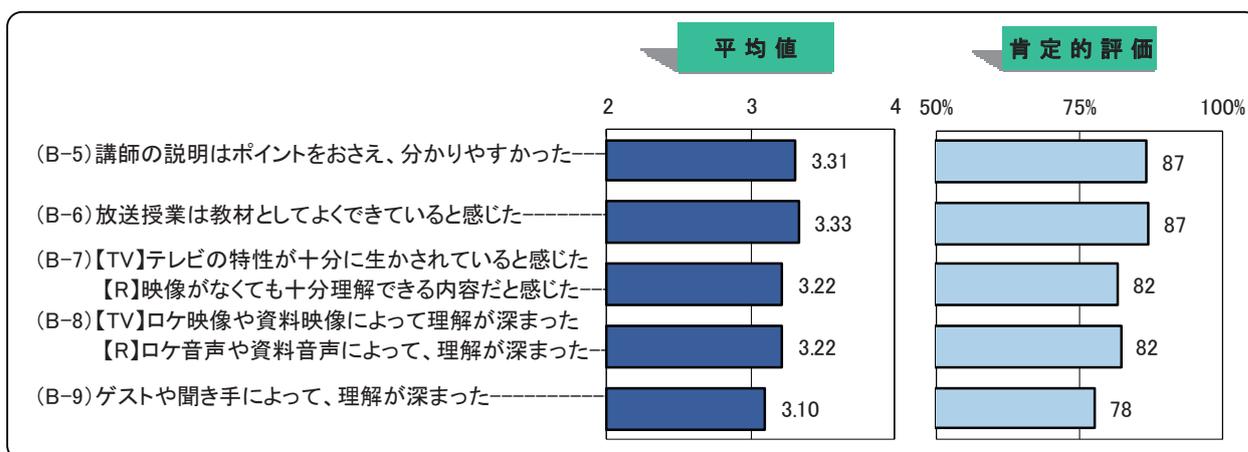


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

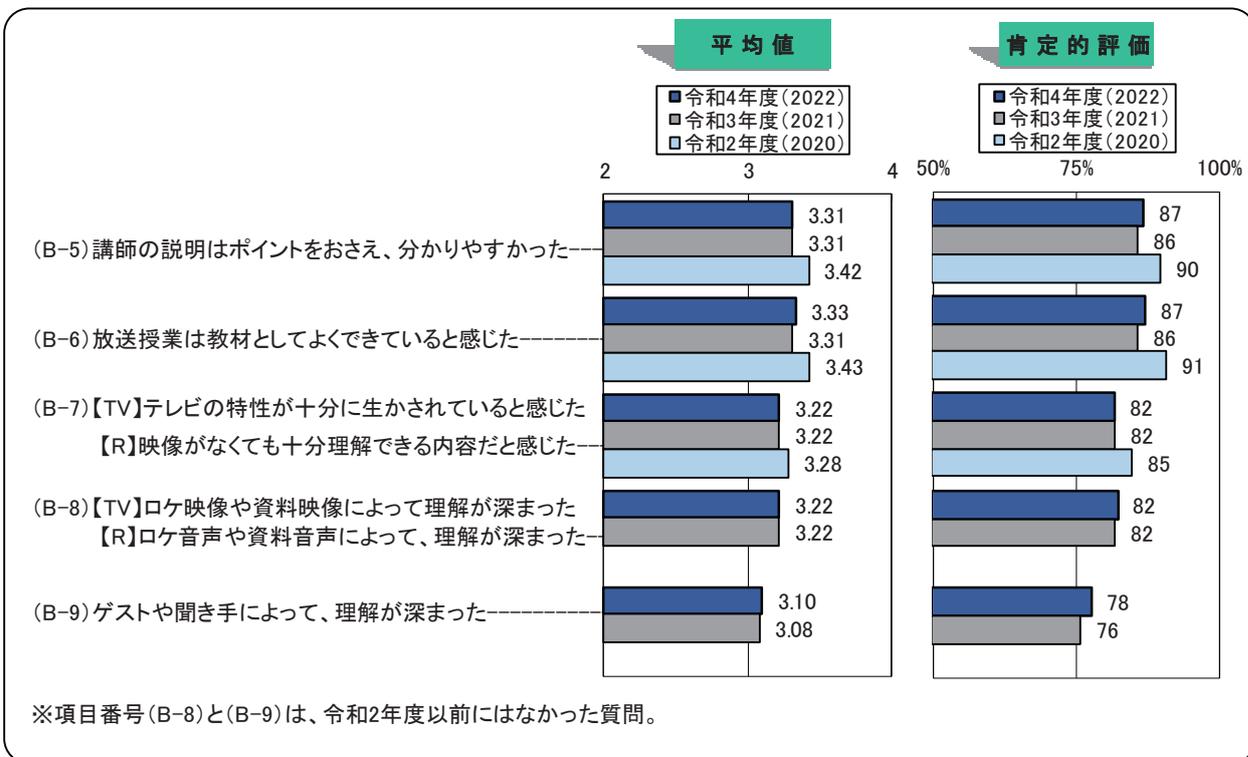
放送授業に関する評価項目（図2-30）では、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が87%と高く、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は78%と、他の項目に比べると極めて評価が低かった。

図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



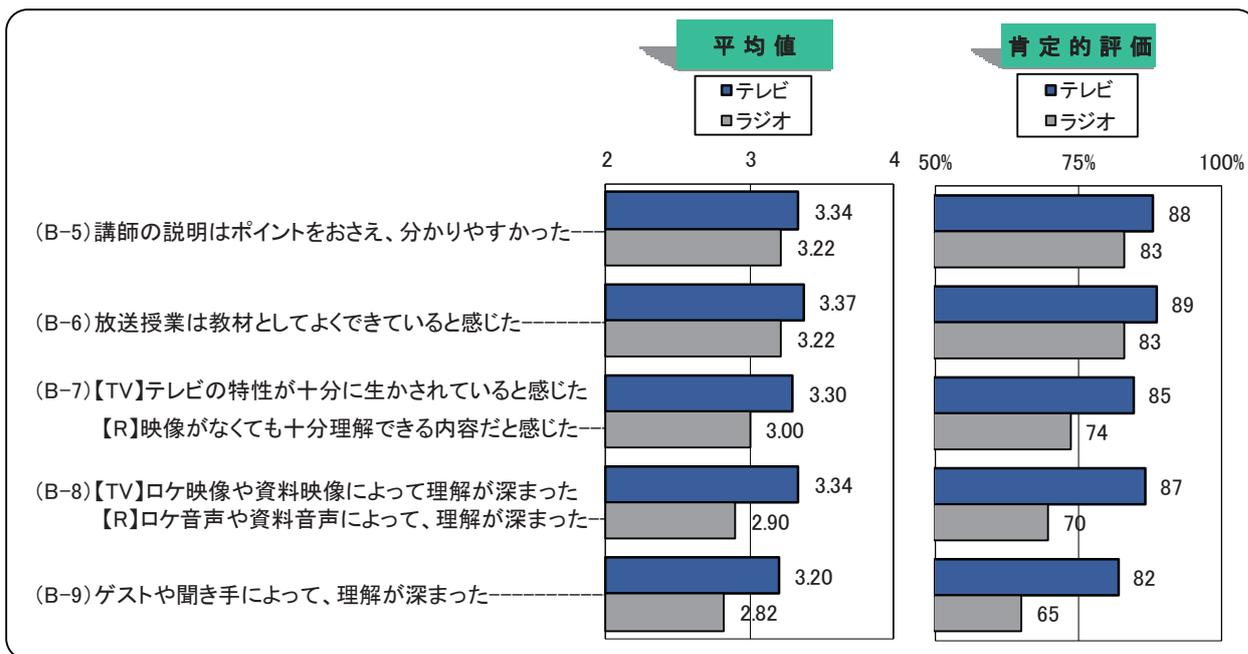
放送授業の評価を時系列で見ると（図2-31）本年度は、昨年度と比べると、(B-7)を除いたすべての項目で評価が上がっていた。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図2-32）、全ての項目でテレビ科目の評価が高かった。中でも(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた / 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった / 【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」では、10ポイント以上テレビ科目の評価が高かった。

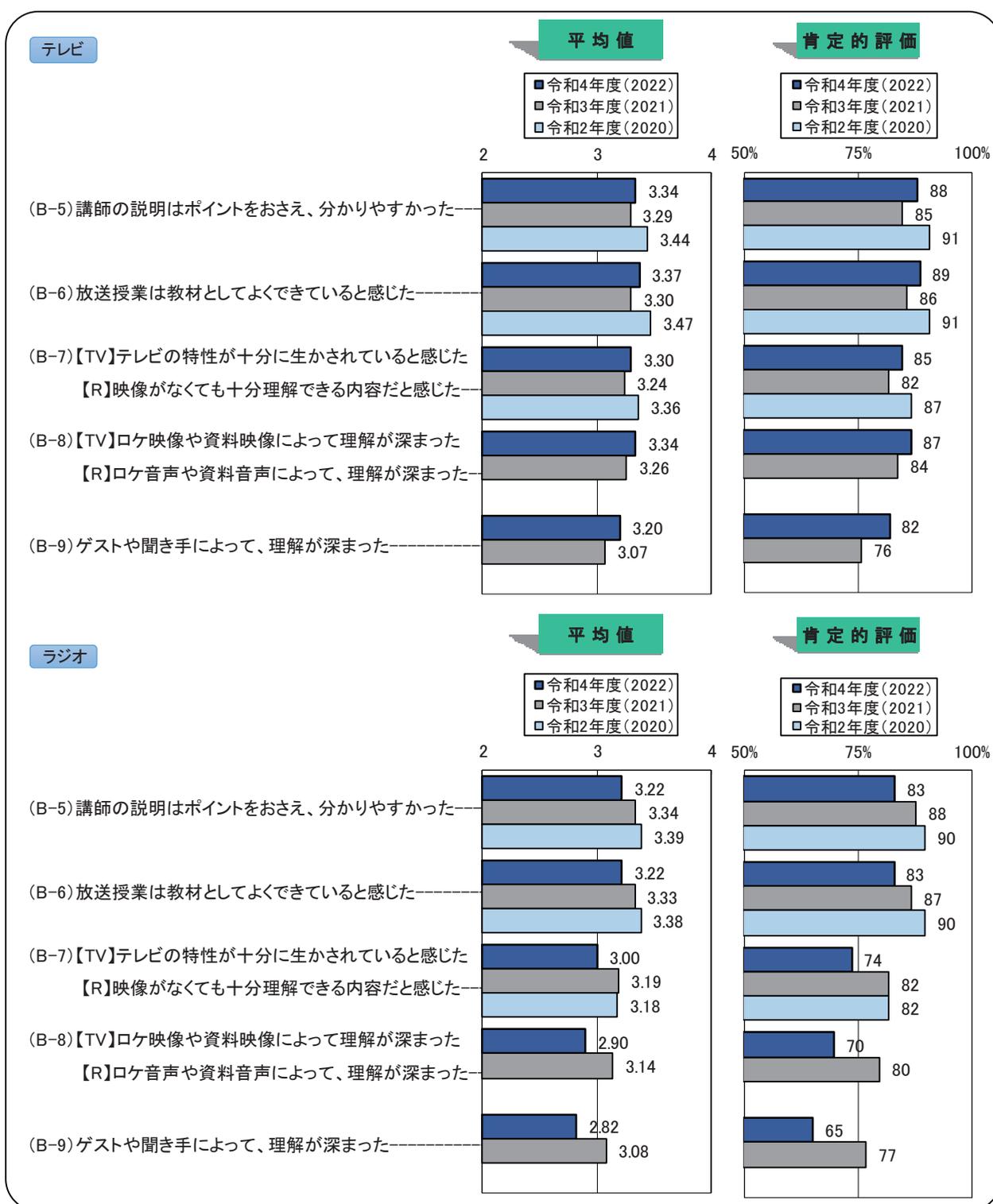
図2-32 【学部】メディア別の放送授業の評価



また、メディア別に放送授業の評価を時系列で見ると（図2-33）、テレビ科目については、全項目で、昨年度との比較で、3～6ポイント評価を上げていた。

一方、ラジオ科目では、全ての項目で昨年度よりも評価が低下しており、中でも(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」については、12ポイントの大幅減となっていた。

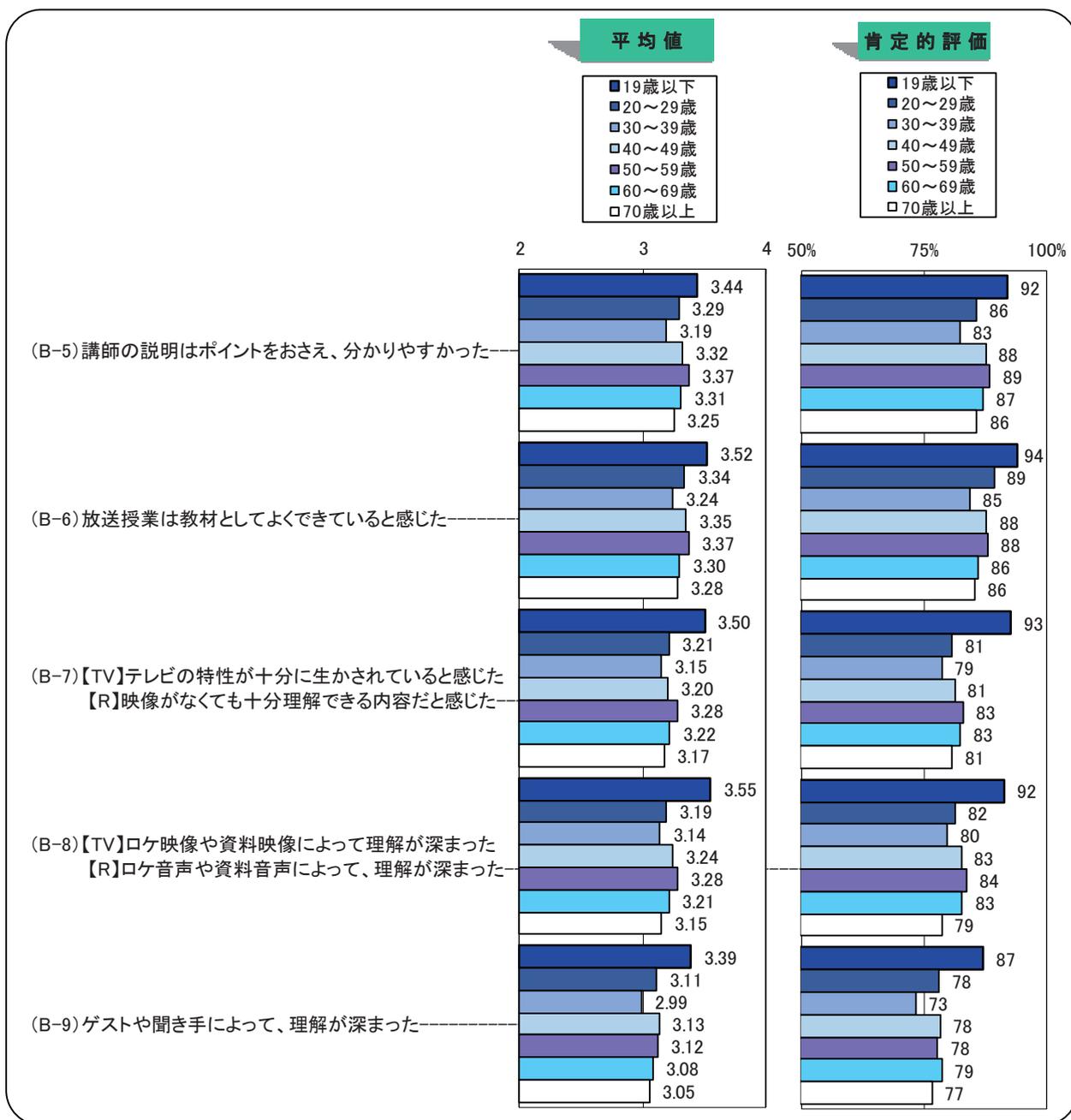
図2-33 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別の放送授業の評価で（図 2 - 3 4）特徴的であったのは、下記の項目全てで 19 歳以下の評価が最も高く、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」では 94%に達していた。

反対に全ての項目で評価が最も低かったのは 30 歳代で 73~83%に留まっていた。

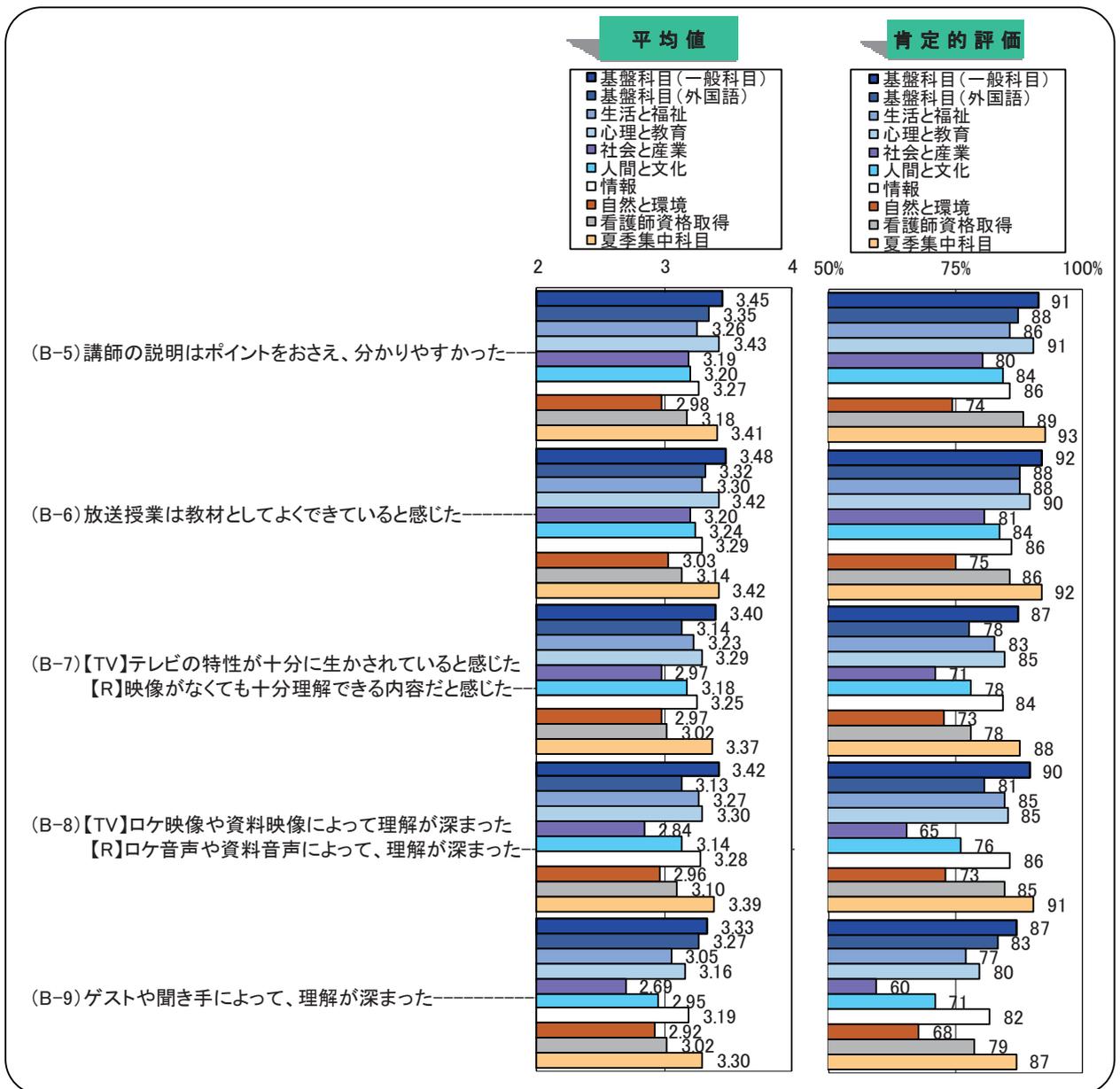
図 2 - 3 4 【学部】年齢階層別の放送授業の評価



所属コース別に放送授業の評価を見ると（図2-35）、特徴的であったのは、「基盤科目（一般科目）」と「夏季集中科目」が全ての項目で上位1位か2位の高評価であった。（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は「心理と教育」（91％）の評価も高かった。

反対に低い評価であったのは、「社会と産業」「自然と環境」で、全ての項目で下位1位か2位であった。特に「社会と産業」では（B-8）「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」（B-9）「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」の評価が65％以下と特異な傾向が見られた。

図2-35 【学部】所属コース別の放送授業の評価



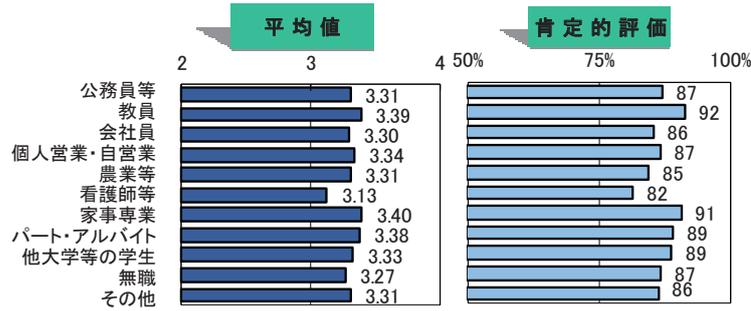
職業別の放送授業の評価（次頁図2-36）で特徴的な傾向は、(B-6) (B-7) を除く全ての項目で「教員」が最も高い評価であった、

(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は「他大学等の学生」(92%)、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、「農業等」が92%と最も高い評価であった。

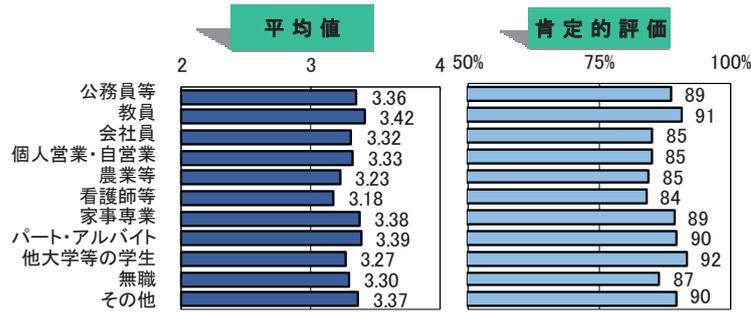
反対に(B-9)を除く全ての項目で、最も低い評価をしたのは「看護師等」で、特に(B-7)の評価が76%と低かった。

図 2-36 【学部】職業別の放送授業の評価

(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった

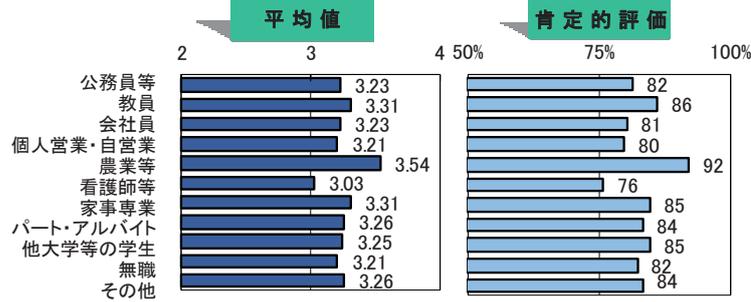


(B-6) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



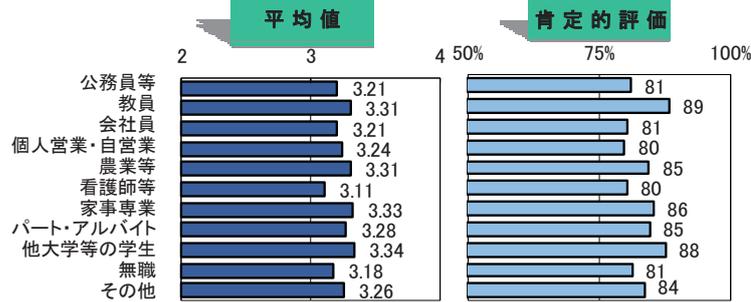
(B-7) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた

【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた

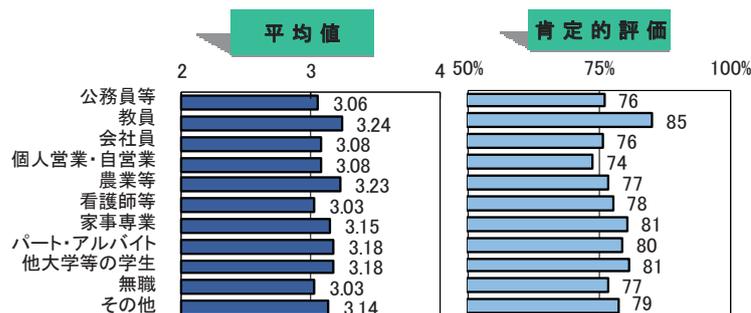


(B-8) 【TV】ロケ映像や資料映像によって理解が深まった

【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった



(B-9) ゲストや聞き手によって、理解が深まった

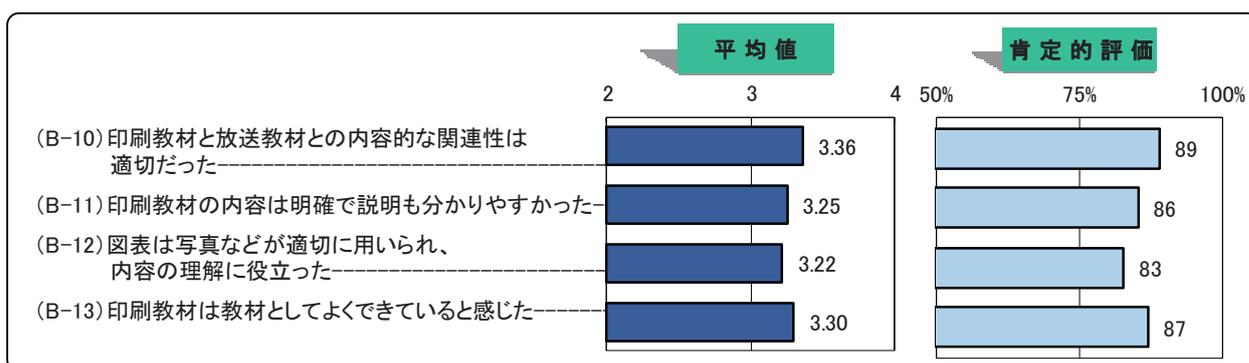


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていくことにする。

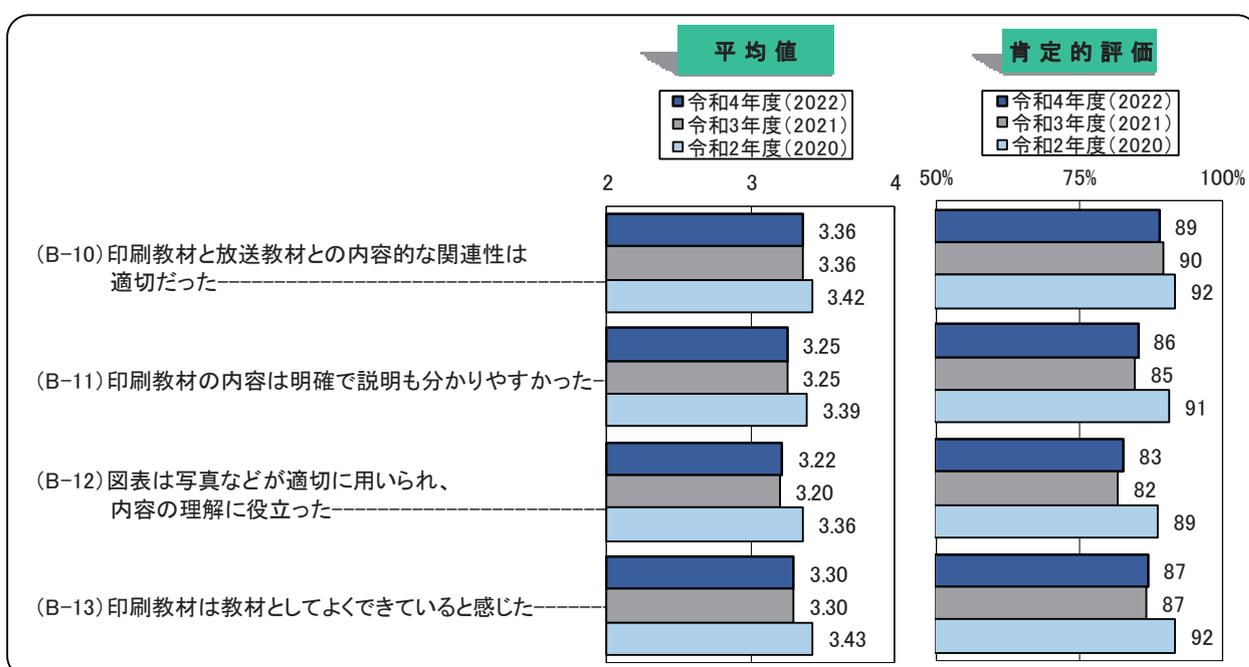
印刷教材の評価項目では（図2-37）、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」が89%と最も高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が83%と最も低かった。

図2-37 【学部】回答者全体の印刷教材の評価



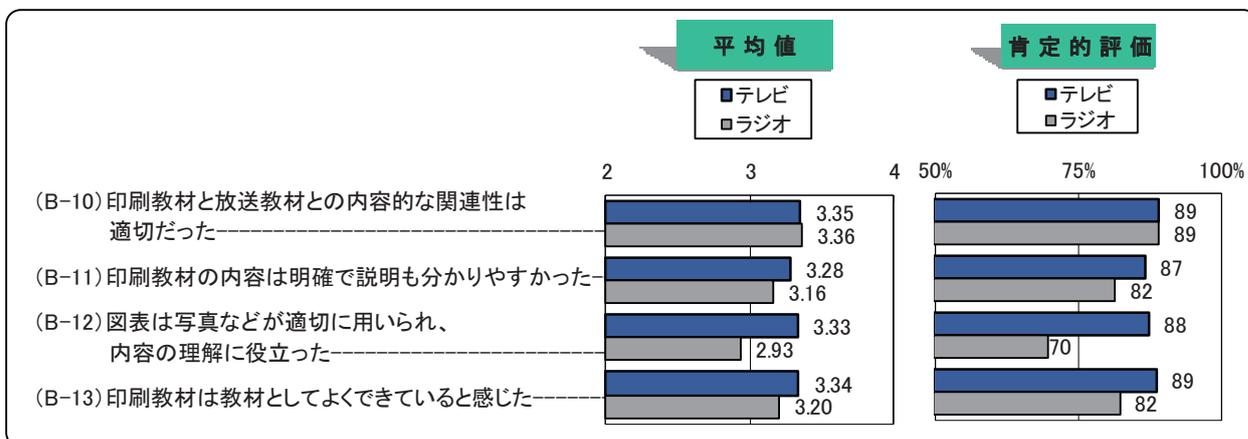
印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-38）、本年度は(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は昨年度より評価を下げたものの、それ以外の項目では、評価が上向いていた。

図2-38 【学部】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



メディア別に印刷教材の評価を見ると（図2-39）、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」を除く3項目では、テレビ科目の評価の方が高かった。特に(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は18ポイントと大きな差であった。

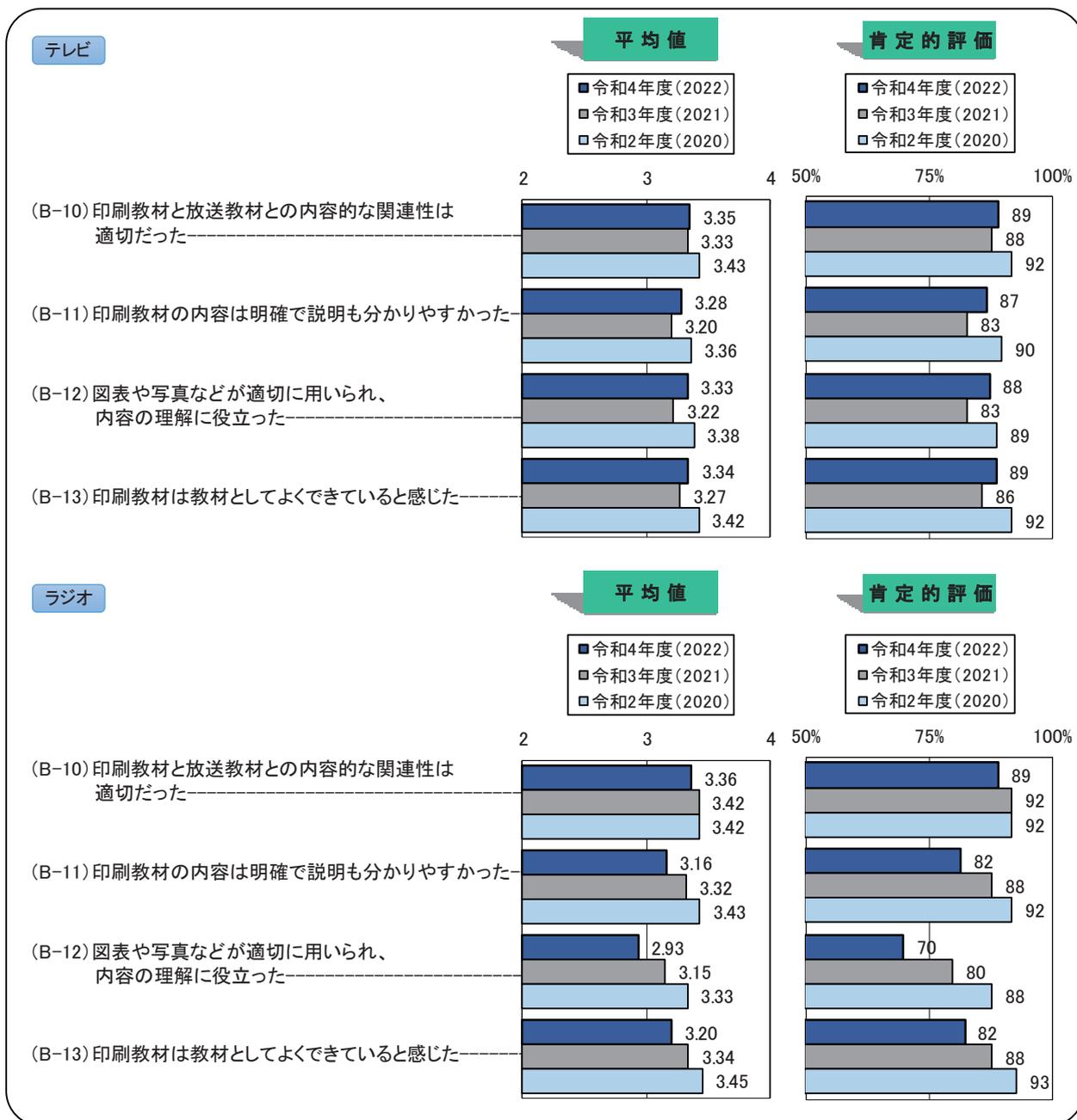
図2-39 【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると（図2-40）、テレビ科目では、本年度は、全ての項目で昨年度より評価が上がっていた。

一方、ラジオ科目については、過去2年度から4項目全てで評価が低下しており、中でも(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」においては、昨年度よりマイナス10ポイントと、大幅減であった。

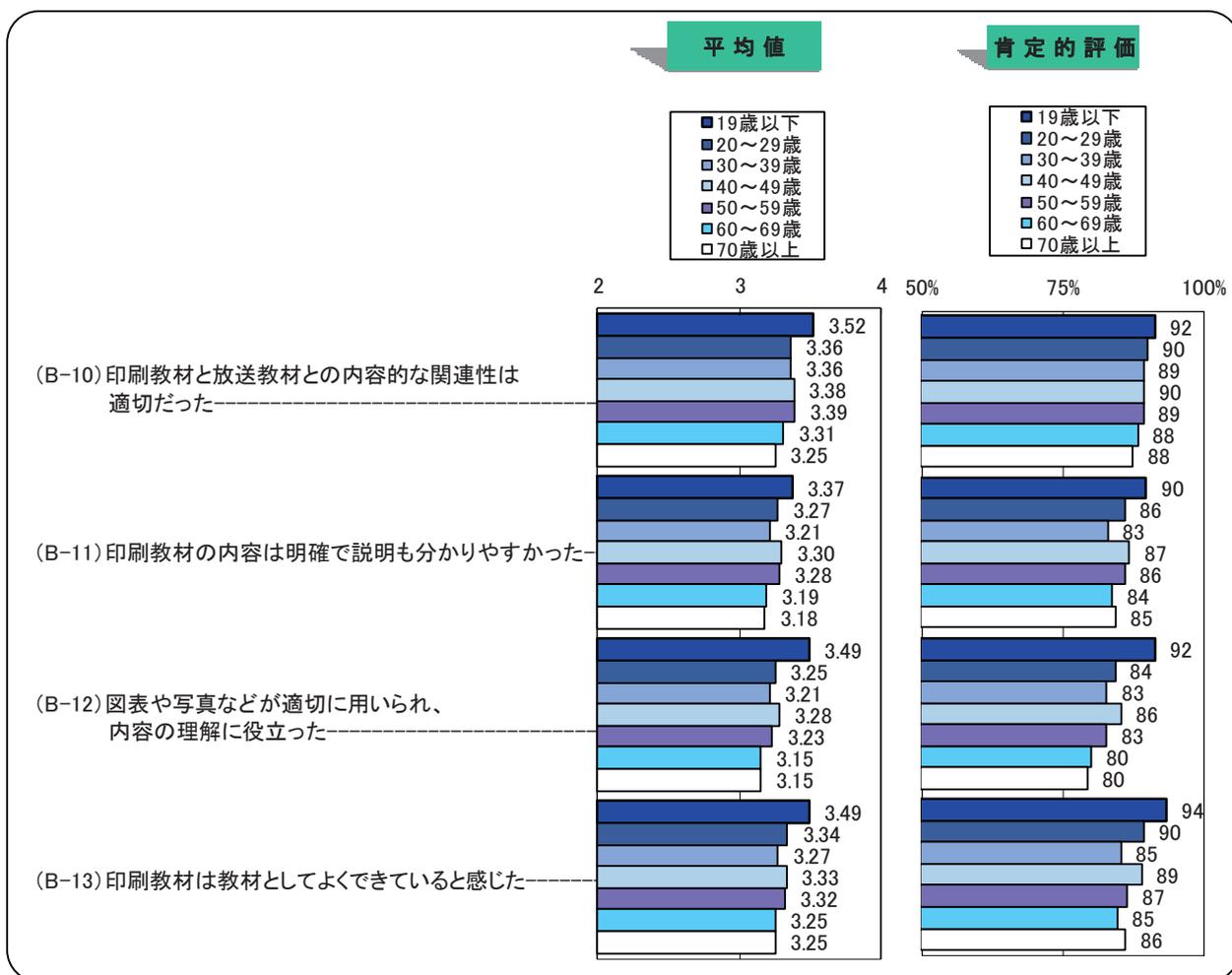
図2-40 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-41）、全ての項目で19歳以下の評価が最も高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では92%と、他の年代から群を抜いていた。

反対に評価が低かったのは、70歳以上で、全ての項目において、下位1,2位となっていた。

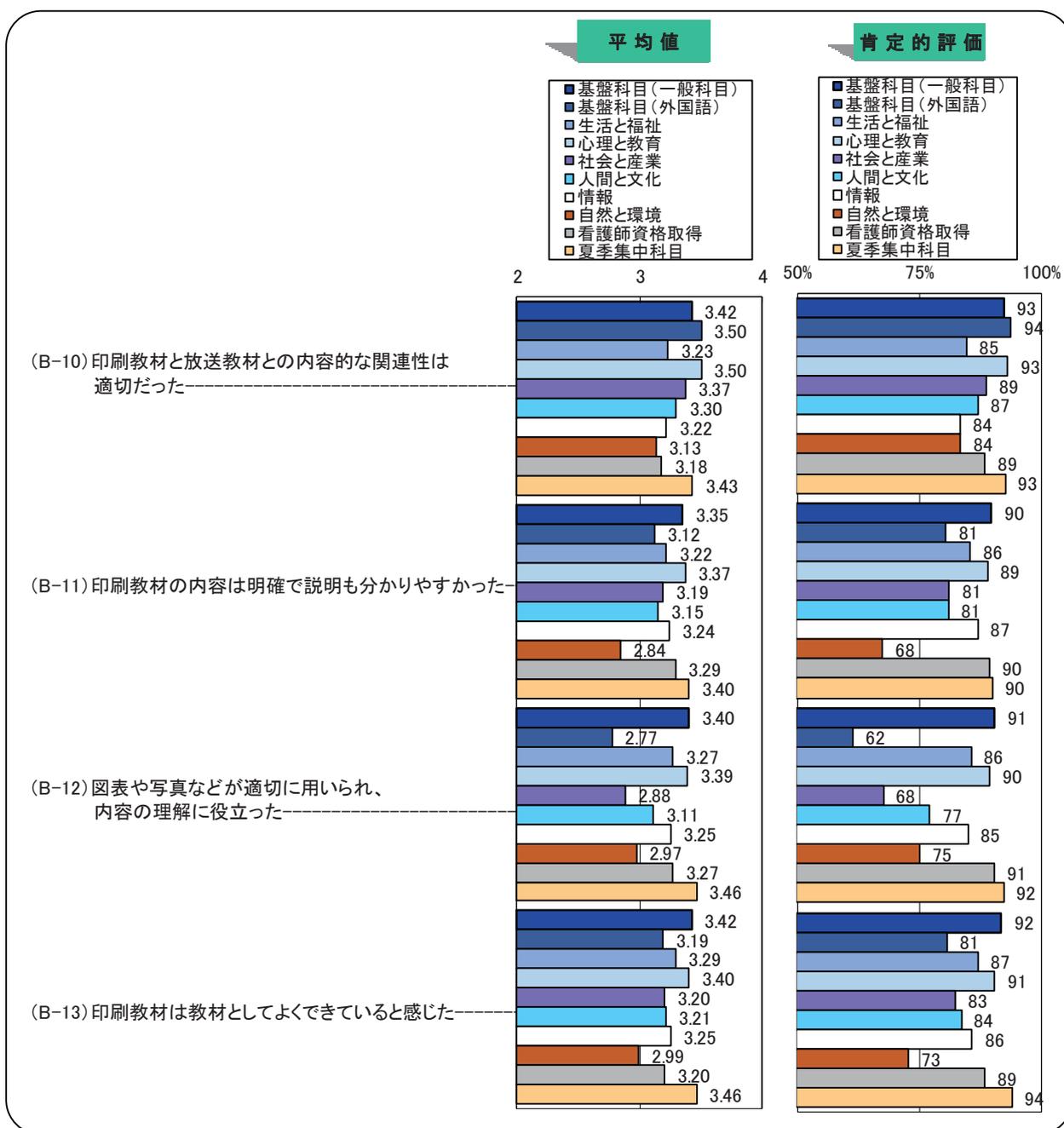
図2-41 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価



所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図2-42）、「夏季集中科目」が、全ての項目で90%以上の評価であった。（B-10）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」では「基盤科目（外国語）」、（B-11）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、（B-12）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」、（B-13）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」については、「基盤科目（一般科目）」の評価も高かった。

反対に評価が低かったのは、「自然と環境」で、（B-12）を除く項目で最も評価が低かった。（B-12）で最も評価が低かったのは、「基盤科目（外国語）」（62%）であった。

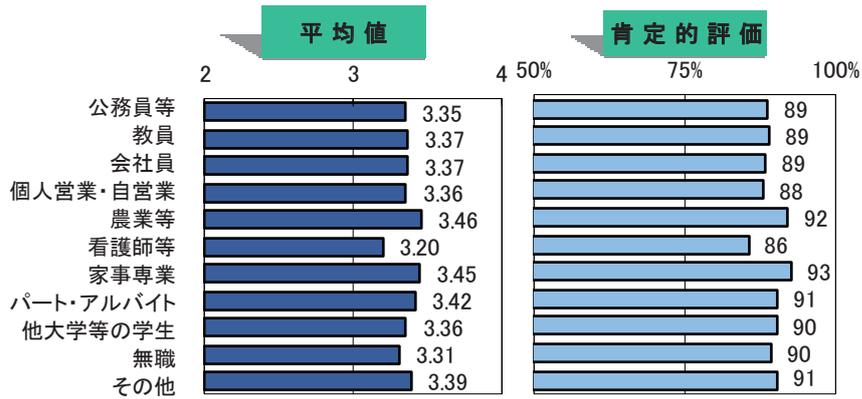
図2-42 【学部】所属コース別の印刷教材の評価



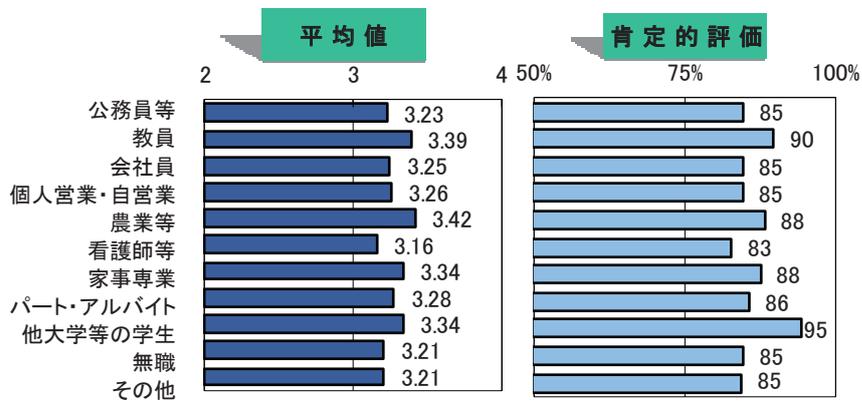
職業別の印刷教材の評価（次頁図 2 - 4 3）で、特徴的であったのは、「教員」と「他大学等の学生」の評価が高く、(B-10)以外は 1,2 位の評価であった。(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は「農業等」と「家事専業」の評価が高かった。反対に評価が低かったのは「看護師等」で、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」を除く各項目で最も評価が低かった。

図 2-43 【学部】職業別の印刷教材の評価

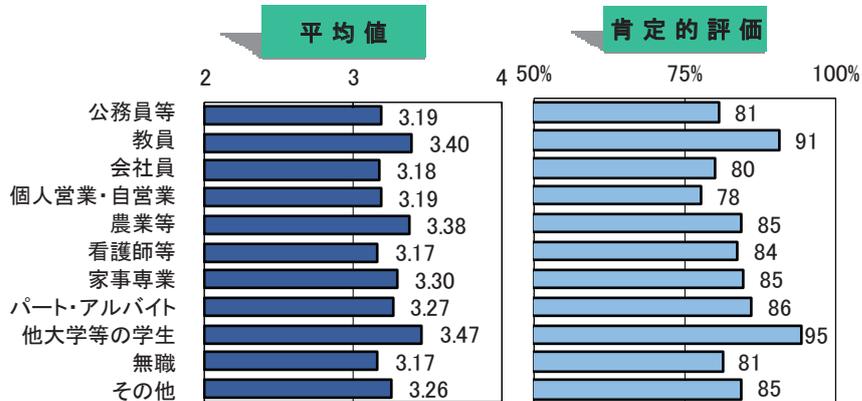
(B-10)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった



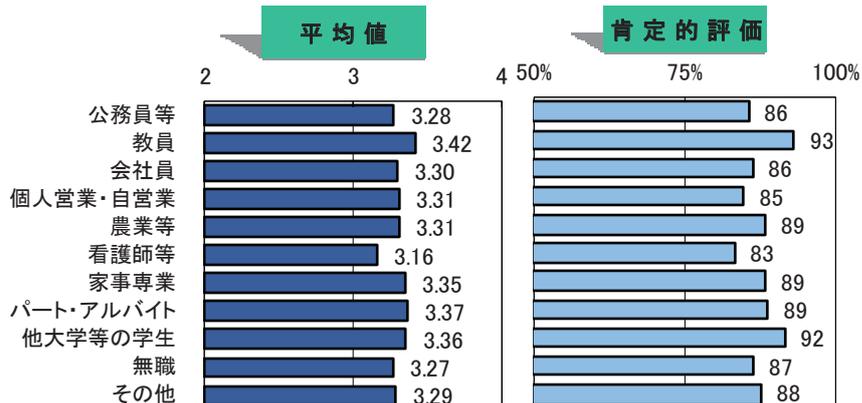
(B-11)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-12)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-13)印刷教材は教材としてよくできていると感じた

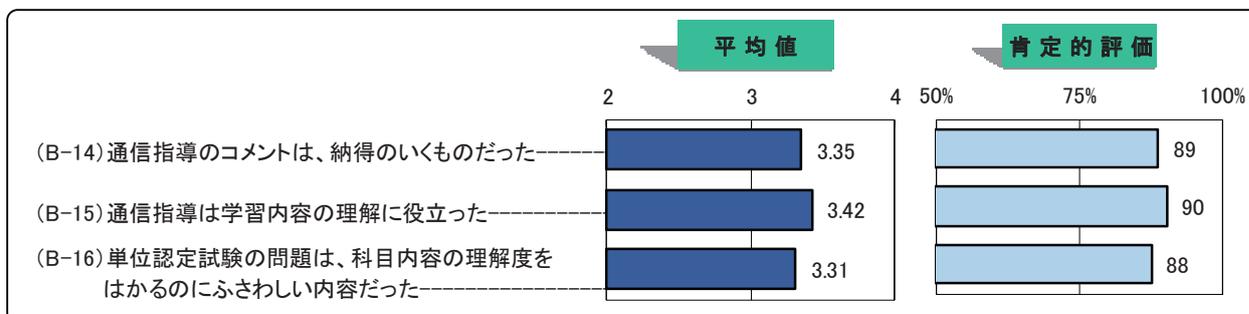


### (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

通信指導・単位認定試験については（図2-44）、全ての項目で88～90%と同水準であった。

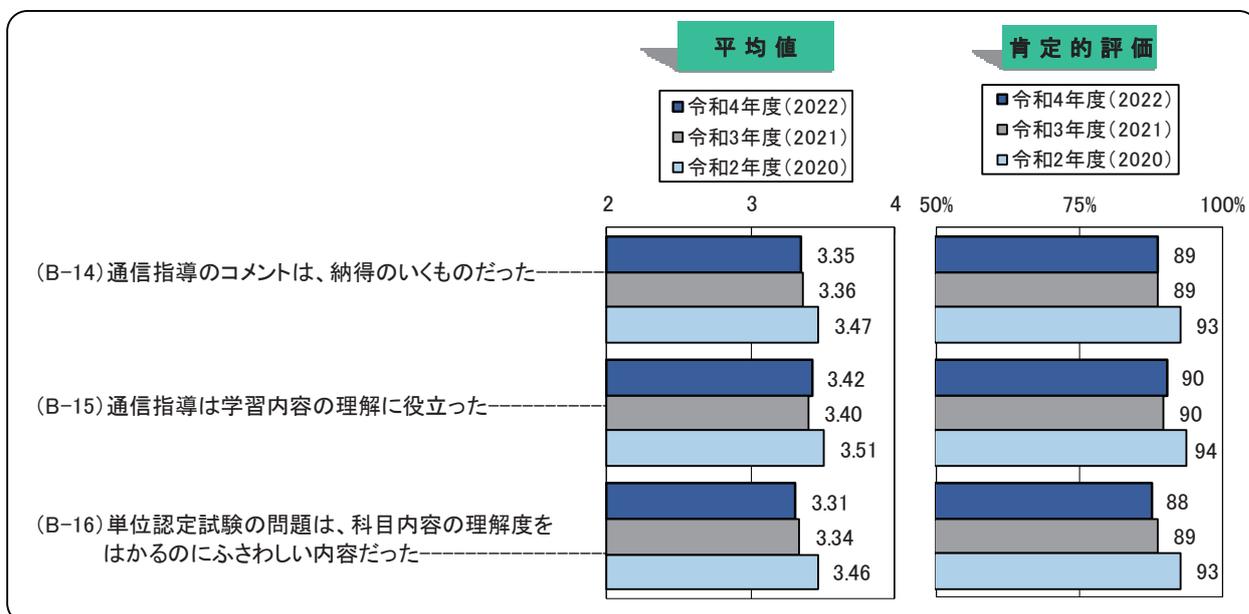
図2-44 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（図2-45）、本年度は、下記の3目全てで、昨年度とほぼ同水準であった。

一昨年度と比べると、各項目全てで4～5ポイントのマイナスであった。

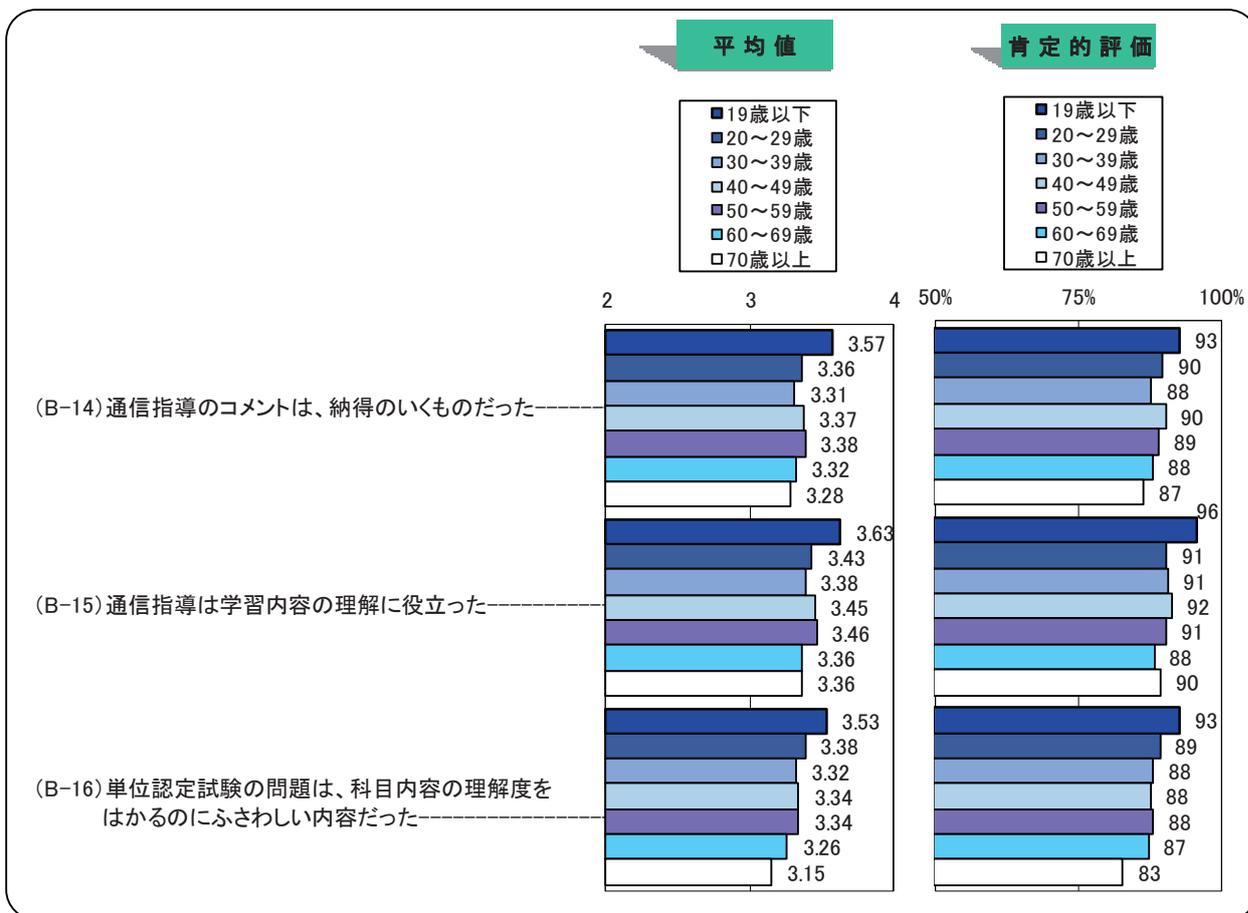
図2-45 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



年齢階層別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-46）、全ての項目で19歳以下の評価が最も高かった。中でも(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、96%と他の年代よりも特に高かった。

反対に全般的に評価が低かったのは60歳代、70歳代以上で、各項目とも下位1,2位であった。

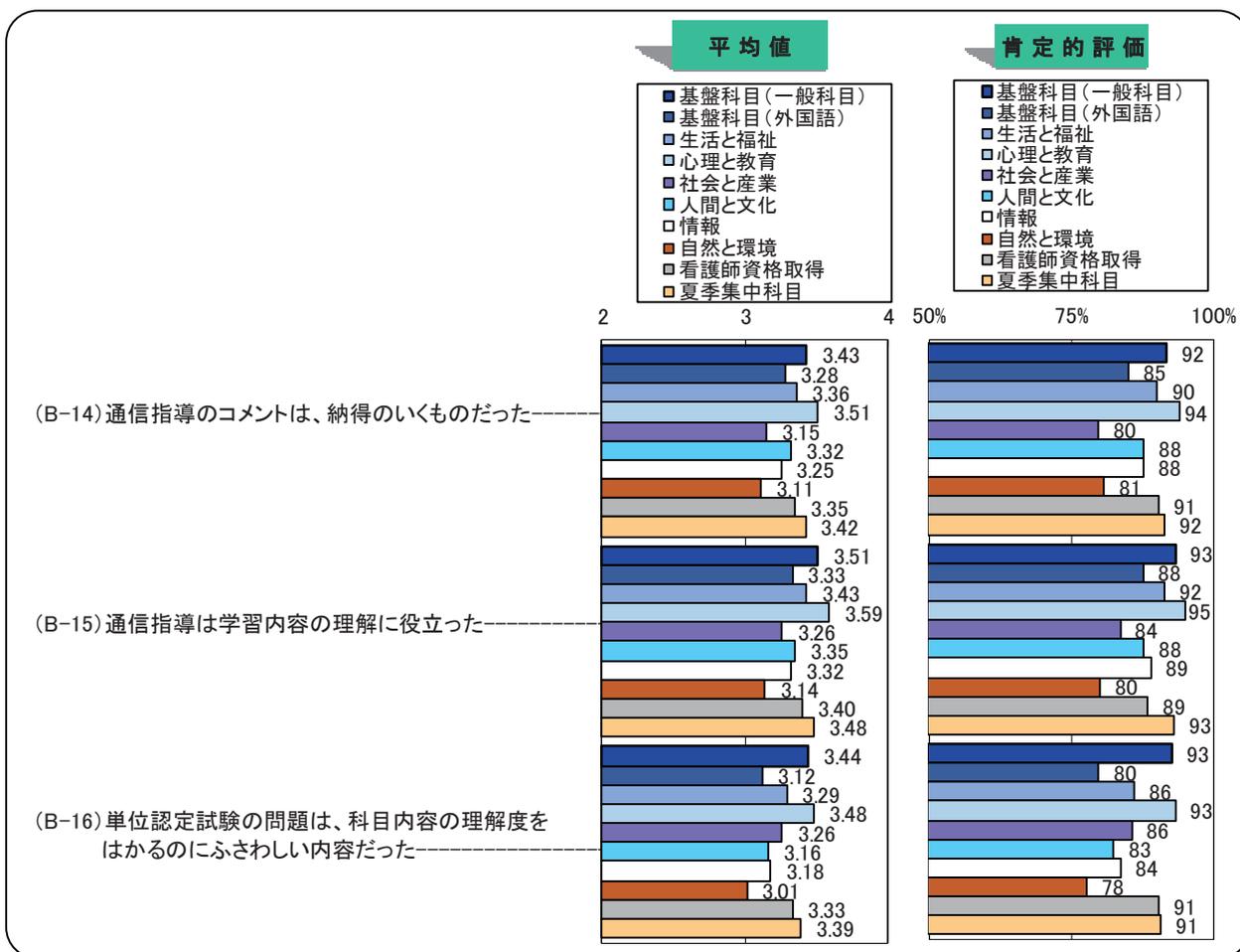
図2-46 【学部】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-47）、全項目で「心理と教育」の評価が最も高かった。また、「基盤科目（一般科目）」「夏季集中科目」の評価も高い傾向が見られた。

反対に評価が低いのは、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」では「社会と産業」「自然と環境」、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」では「基盤科目（一般科目）」と「自然と環境」が目立って低かった。

図2-47 【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



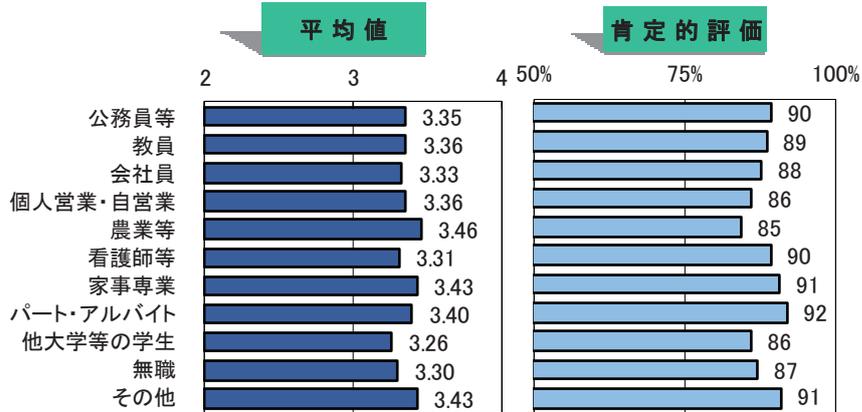
職業別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（次頁図2-48）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は「家事専業」（91%）と「パート・アルバイト」（92%）の評価が高く、反対に「農業等」が85%と低かった。

(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「公務員等」「家事専業」「パート・アルバイト」が93%と最も高かった。最も評価が低かったのは「農業等」、「無職」（88%）であった。

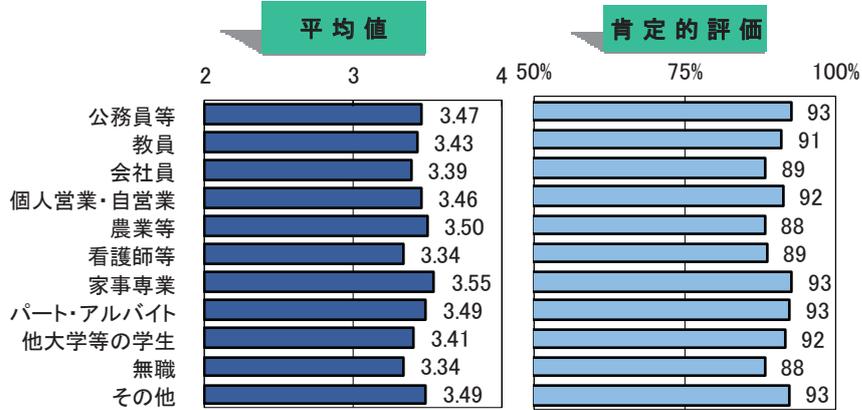
(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は「他大学等の学生」が95%と最も高く、他に「教員」「家事専業」「パート・アルバイト」がそれぞれ90%となっていた。

図2-48【学部】職業別の通信指導・単位認定試験の評価

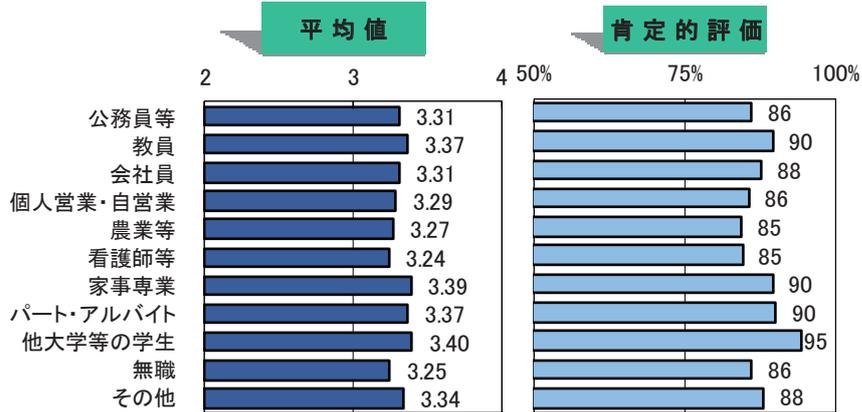
(B-14)通信指導のコメントは、納得のいくものだった



(B-15)通信指導は学習内容の理解に役立った



(B-16)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった



## Ⅱ-1-4. 学部の重回帰分析

重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票 I.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている。

項目名	変数	対象
目的変数	$y$	全体の満足度：B-21
説明変数	$x_1, x_2, \dots$	各項目 B-1～B-20：全 20 問（項目）
係数	$a_1, a_2, \dots$	重回帰分析によって得られる偏回帰係数

重回帰式  $y = a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_{20}x_{20}$ （説明変数が全 20 問の場合）

サンプルサイズが十分でない場合や説明変数が多すぎると、全体の満足度を表すのに適した重回帰式を得られない事が経験的に分かっているため、重回帰分析の中で、説明変数間で強い相関関係がある場合、その一方の項目を自動的に削除する「変数減少法」を用いて解析を行った。

使用したデータは質問項目 I.B の全設問を全て回答した 6275 人のローデータを使用した。

その結果は以下の通りとなった。

### ■分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力（寄与度）があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.745 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 1.984 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

### ◆分析精度

決定係数	0.745
自由度修正済み決定係数	0.744
ダーヴィンワトソン比	1.984
残差の標準偏差	0.388

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。

(有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。)

◆分散分析表

変動	偏差平方和	自由度	不偏分散	分散比	p値	判定
全体変動	3696.768	6274				
回帰による変動	2755.142	15	183.676	1220.898	0.000	[**]
回帰からの残差変動	941.626	6259	0.150			

凡例	有意水準	凡例	有意水準
[**]	0.01	[*]	0.05

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-18「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」で 0.238、次いで B-20「この科目の内容を全体としてよく理解できた」、(0.236)、他に B-19「新しい知識が身につく視野が広がった」(0.143)と続いていた。

説明変数の影響力の度合いを比較するために、表中の標準偏回帰係数の中で最も小さい B-7 (0.021) を基準に、他の項目がその何倍となるか算出してみた。(表中の右端の数値) その結果、高い順に B-18:11.3 倍、B-20:11.2 倍、B-19:6.8 倍となった。

この結果を踏まえ、今後、「全体の満足度」(本年度の肯定的評価 89%) を上げるためには、上位 2 項目、「B-18 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、「B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた (理解度)」が突出しており、この 2 項目の肯定的評価を上げる事が、効果的であると考えられる。

この 2 項目の肯定的評価について見てみると、B-18:89%、B-20:86%で、それぞれの肯定的評価を上げる余地は残っていると思われる。

目的変数	標準偏回帰係数	説明変数	判定	B-7との対比
B-21全体の満足度	0.238	B-18学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	[**]	11.3
	0.236	B-20この科目の内容を全体としてよく理解できた	[**]	11.2
	0.143	B-19新しい知識が身につく視野が広がった	[**]	6.8
	0.088	B-13印刷教材は教材としてよくできていると感じた	[**]	4.2
	0.074	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	[**]	3.5
	0.070	B-6 放送授業は教材としてよくできていると感じた	[**]	3.3
	0.061	B-16単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	[**]	2.9
	0.045	B-17授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	[**]	2.1
	0.036	B-11印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	[**]	1.7
	0.036	B-15通信指導は学習内容の理解に役立った	[**]	1.7
	0.032	B-1 放送授業の難易度は適切だった	[**]	1.5
	0.023	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	[**]	1.1
	0.021	B-7 テレビの特性が十分に生かされていると感じた	[**]	1.0
	定数項		[**]	

## Ⅱ－2. 大学院の分析結果

### Ⅱ－2－1. 項目平均から見た全体的傾向

評価項目の内容ごとに回答者全体の平均値と肯定的評価を A-1～A-3 等の複数の項目の平均を算出しグラフ化（図 2－49）した。

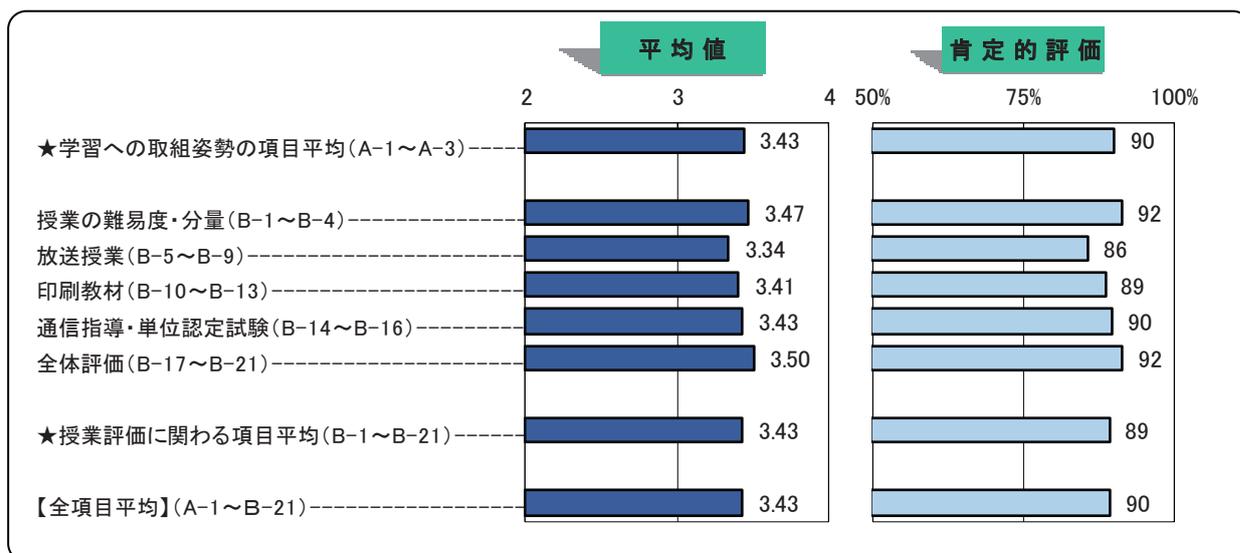
学部同様、肯定的な評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）の方が（例えば回答者の 80%）イメージしやすく、下図左側の平均値と肯定的評価に齟齬が生じた場合、どちらを採用するか合理的に判断出来ないため、コメントについては肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

また、新規開設科目の年度比較は、比率の差の検定結果から、大学院は、学部ほど回答者数が多くないため（2022 年度:332 人、2021 年度:412 人、2020 年度:223 人）、本年度と昨年度の比較では概ね 6 ポイントの差で有意となったため、6 ポイント以上で差があることとした。

更に、回答者数が小サンプルの場合、%表記にすると、誤差が大きくなるため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。年齢階層別の「20～29 歳」（15 人）、職業別の「看護師等」（14 人）、「家事専業」（10 人）、「他大学等の学生」（2 人）が挙げられる。（「農業等」は一人もいなかった。）

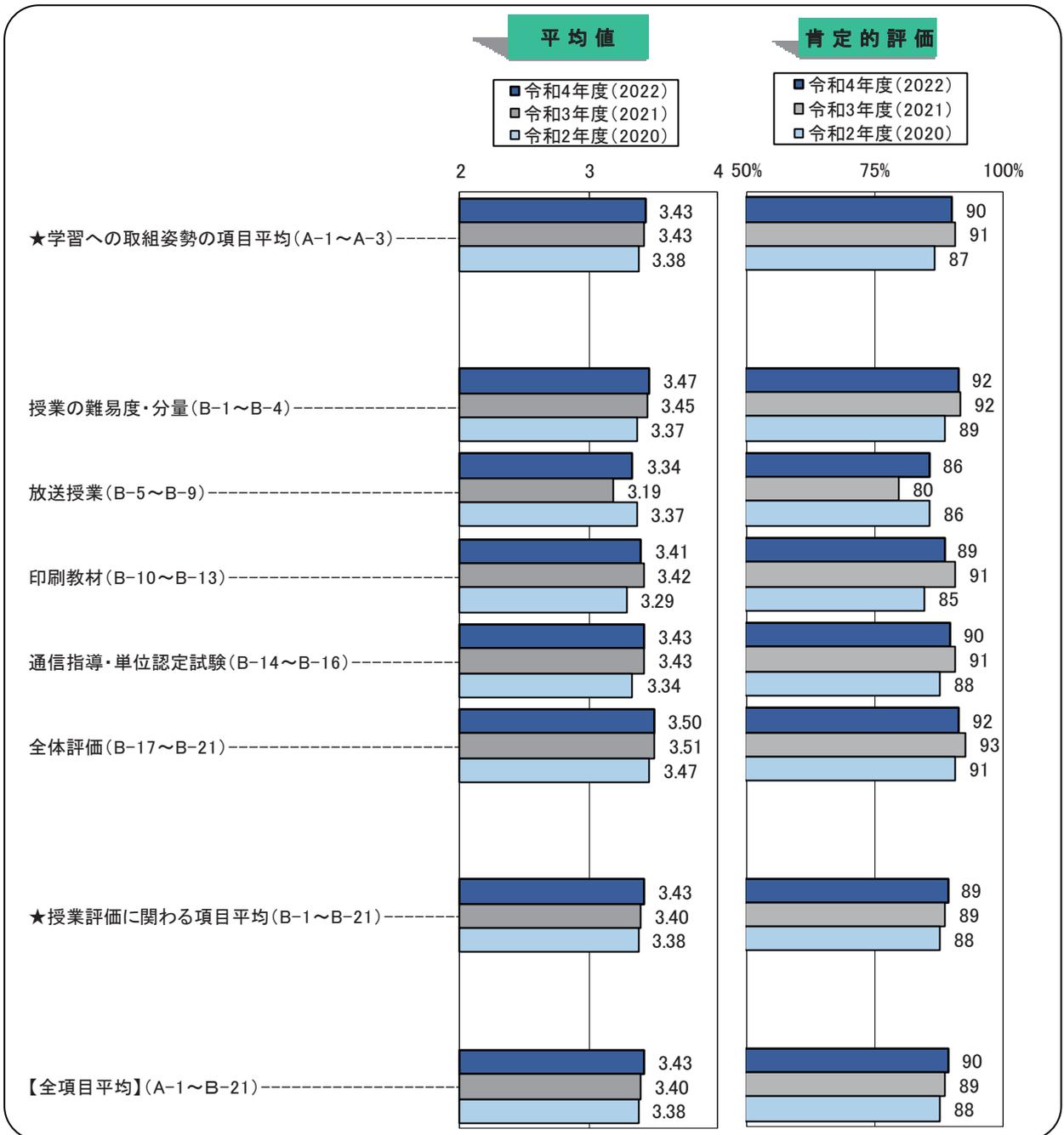
項目平均による全体的傾向をみると（図 2－49）、『放送授業』が 86%と他の項目と比べ極めて低かった。それ以外の項目は 90%前後で、中でも『授業の難易度・分量』『全体評価』が 92%と最も高かった。

図 2－49 【大学院】項目平均による全体的傾向



項目平均を科目の開設年度で比較して見ると（図2-50）、本年度は昨年度と比べ『放送授業』がプラス6ポイントと大きく増加したほかは、僅かに評価が下がっていた。

図2-50 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



※放送授業(B-5～B-9)の質問項目については、令和3年度(2021)より入れ替えが行われた。

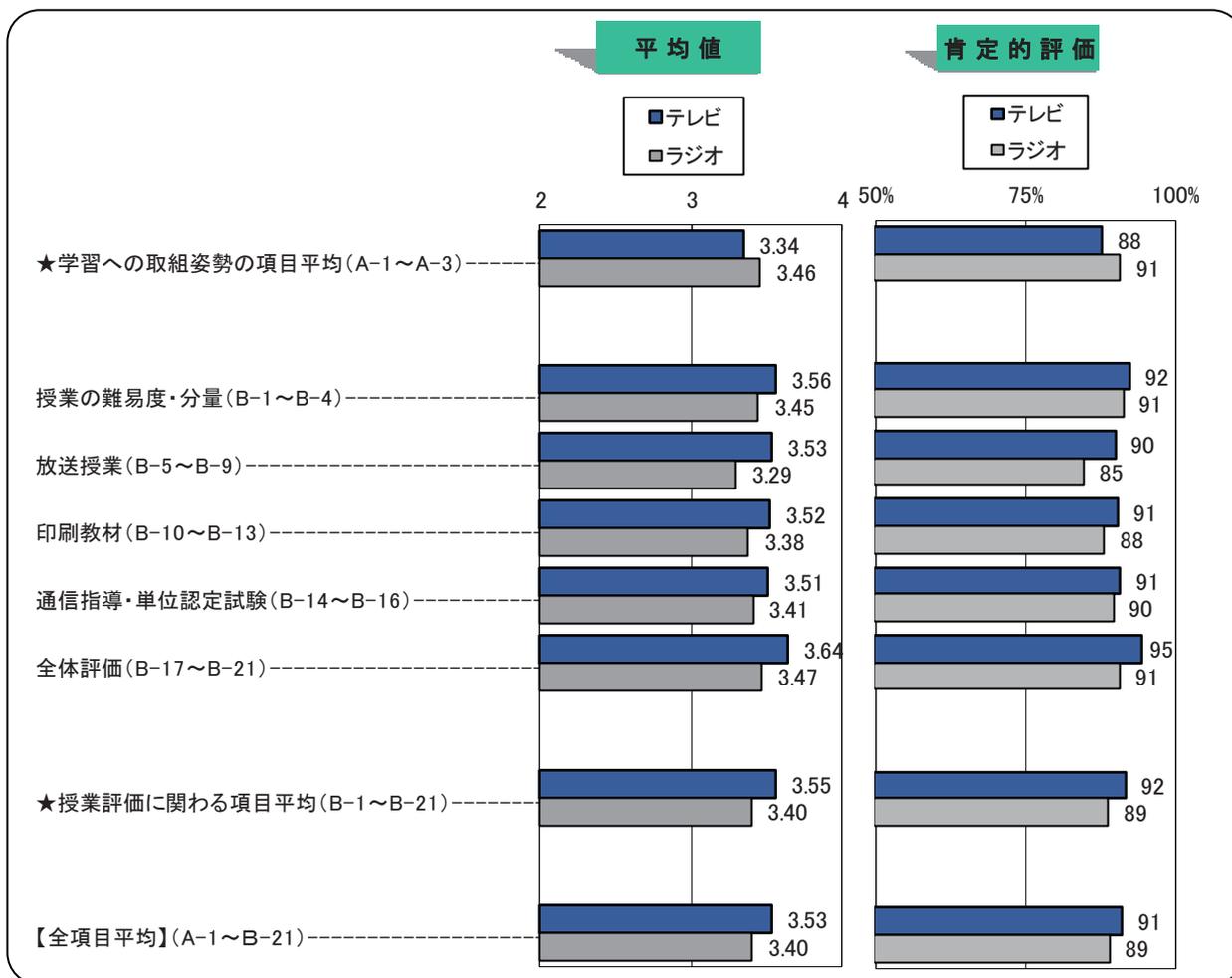
追加された項目：B-8【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった  
B-9ゲストや聞き手によって、理解が深まった

削除された項目：講師の熱意が十分に伝わった

従って、放送授業(B-5～B-9)の質問項目の年度比較については、留意されたい。

メディア別では（図2-51）、『学習への取組姿勢』がラジオ科目の方が高い評価のほかは、いずれもテレビ科目の評価が高くなっていた。特に『放送授業』のテレビ科目（90%）とラジオ科目（85%）の差は5ポイントと、大きかった。

図2-51 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向

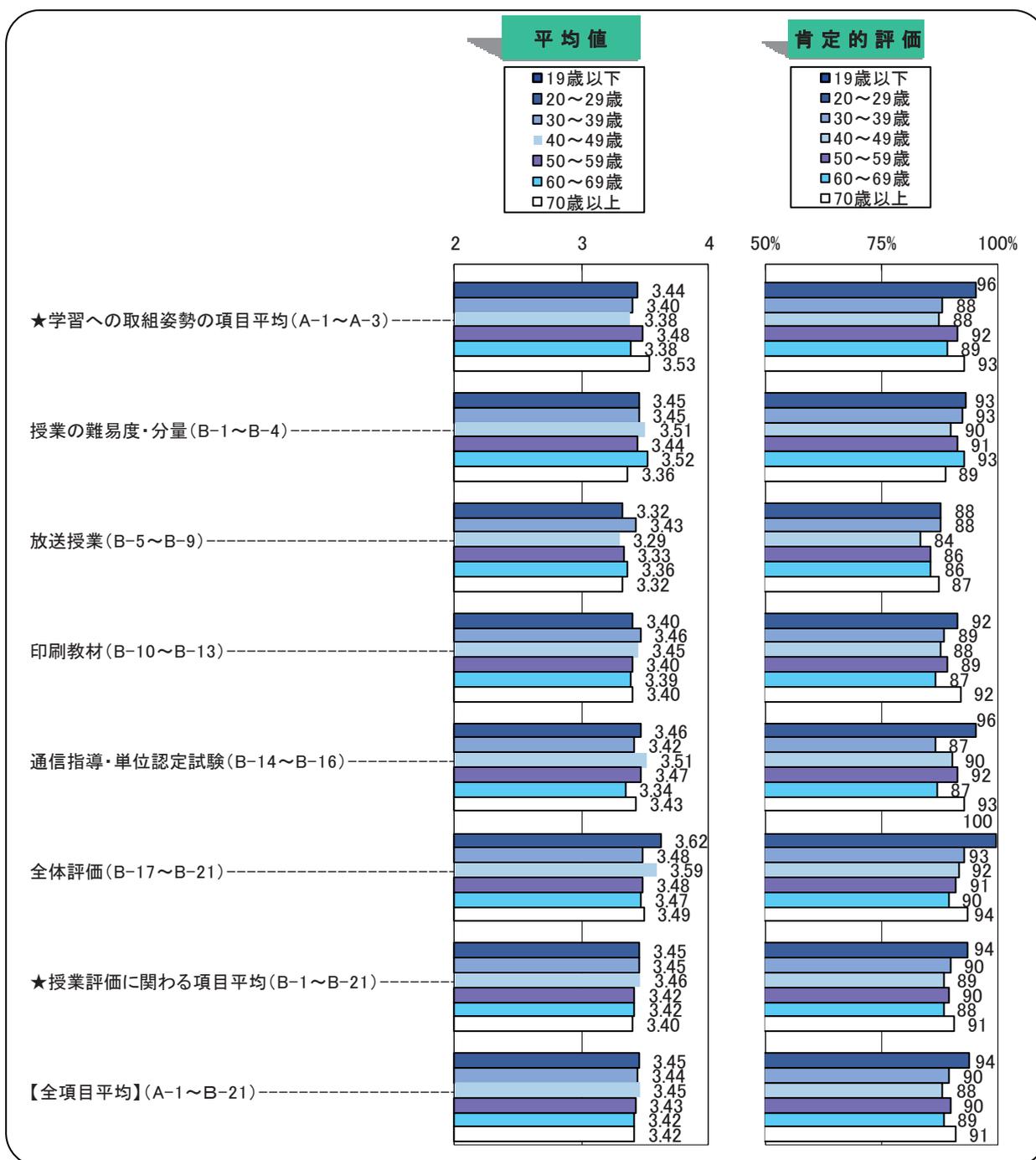


年齢階層別では（図2-52）、『授業の難易度・分量』と『放送授業』を除く項目では、70歳以上が90%越えと評価が高かった。

『授業の難易度・分量』では30歳代、60歳代が最も高く、93%、『放送授業』では30歳代が88%で最も高かった。

※「20～29歳」は回答者数が15人と少人数で誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-52 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



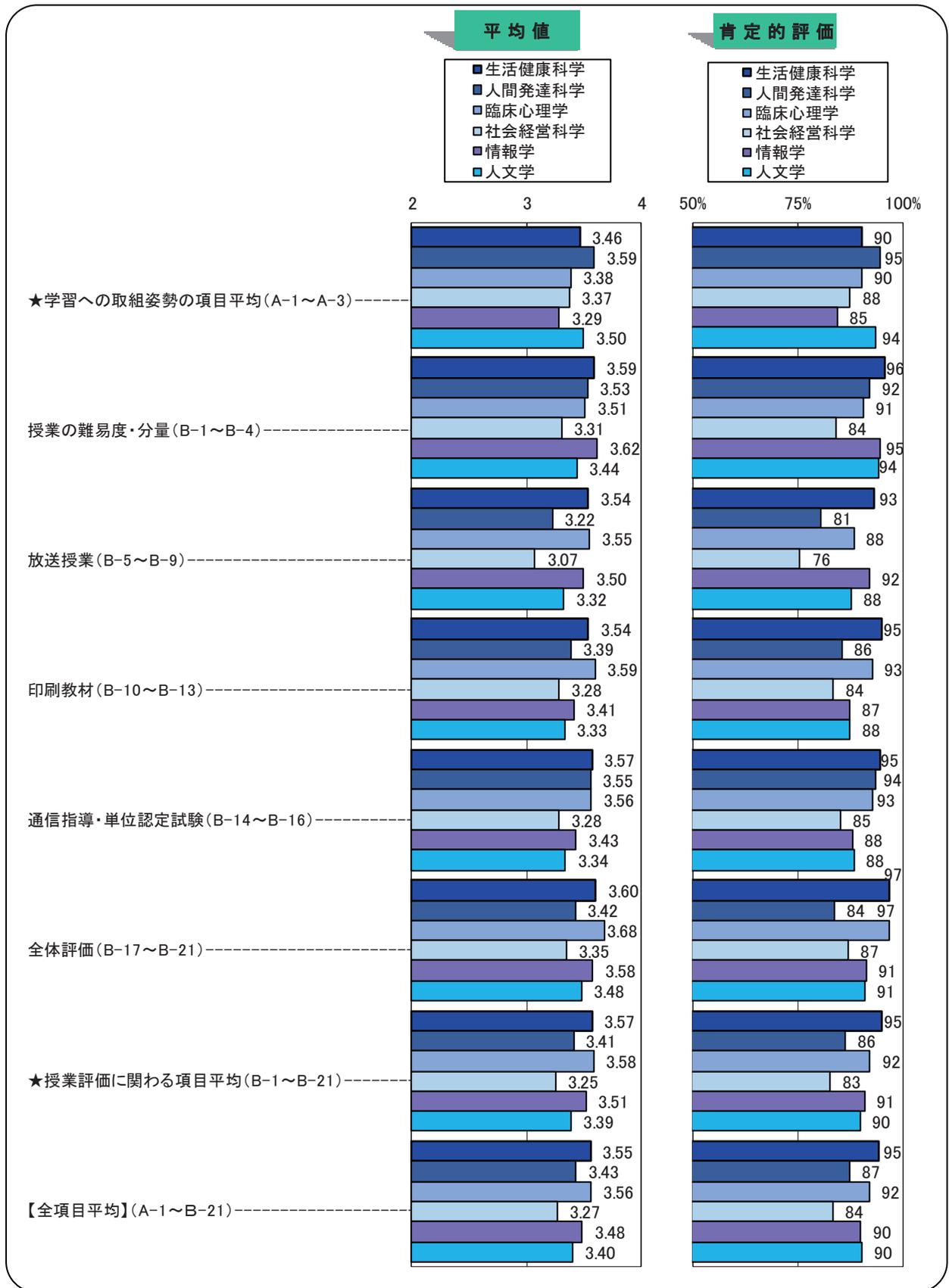
所属プログラム別に項目平均を見ると（次頁図2-53）、『学習への取組姿勢』を除く全ての項目で「生活健康科学」の評価が高く、特に『授業の難易度・分量』と『全体評価』で96～97%と高い評価となっていた。

『学習への取組姿勢』では、「人間発達科学」が95%で最も高かった。

反対に『学習への取組姿勢』『全体評価』を除く全ての項目で評価が低かったのは「社会経営科学」であった。

『学習への取組姿勢』は「情報学」、『全体評価』は「人間発達科学」の評価が最も低かった。

図2-53 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

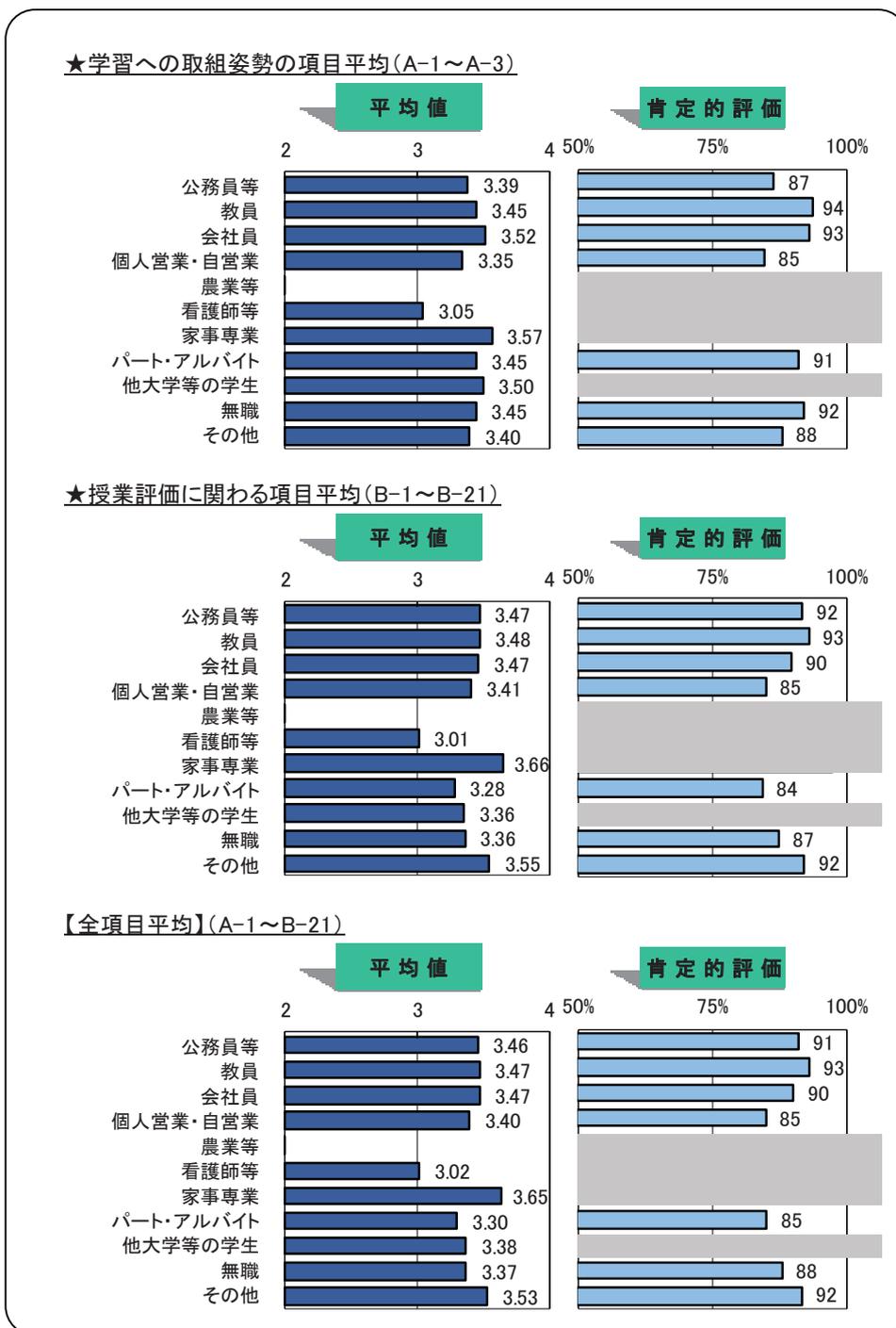


職業別では（図2-54）、『学習への取組姿勢』は「教員」「会社員」が93～94%で評価が高く、「個人営業・自営業」が85%と評価が低かった。

『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』では、「教員」が両項目とも93%と、評価が高く、「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」が、84～85%と、評価が低かった。

※「農業等」は一人もおらず、「看護師等」（14人）と「家事専業」（10人）、「他大学等の学生」（2人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-54 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

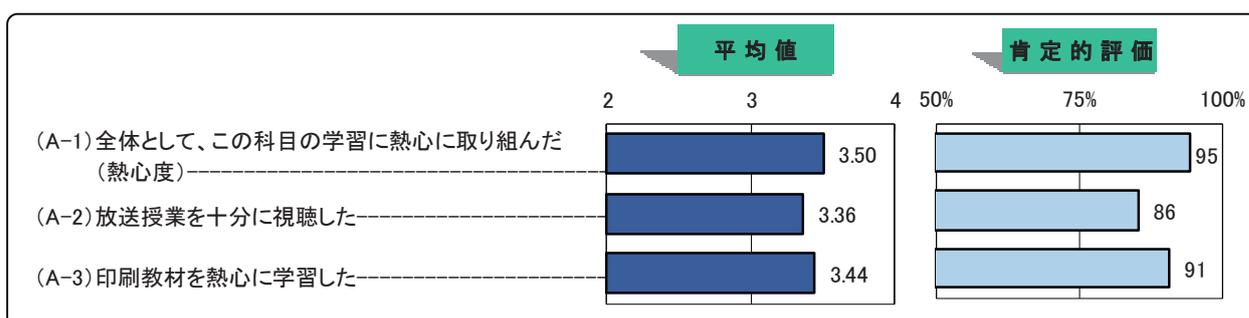


## Ⅱ-2-2. 学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

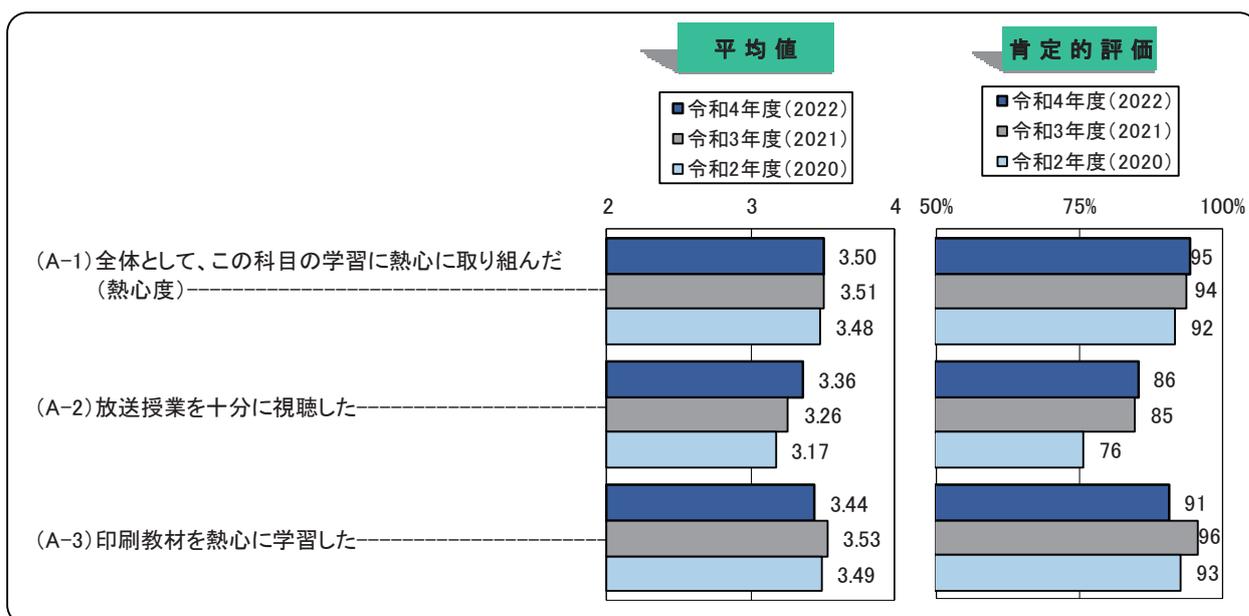
『学習への取組姿勢』（図2-55）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は 91～95%に達していたが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は 86%と、前述の 2 項目に比べると取組姿勢が低かった。

図2-55 【大学院】回答者全体の取組姿勢



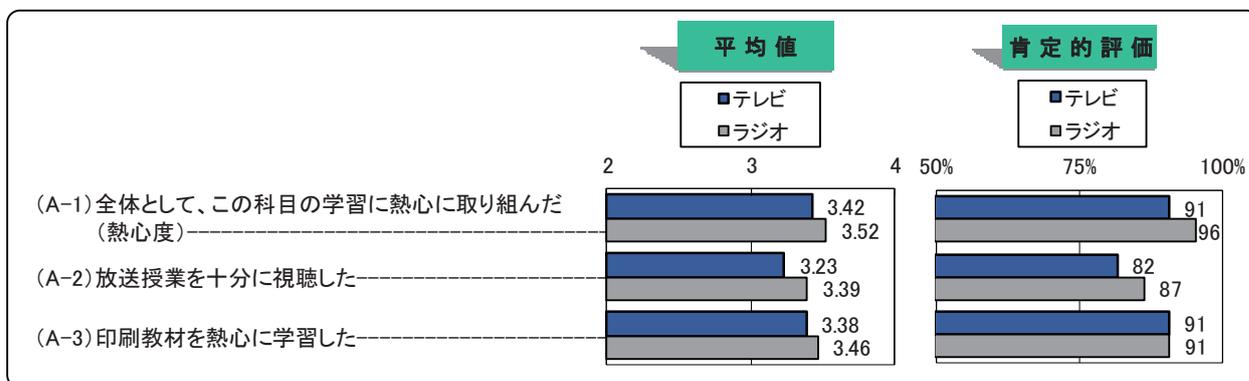
『学習への取組姿勢』を時系列で見ると（図2-56）、本年度の評価は昨年度と比べ、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」放送授業を十分に視聴した」、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」はわずかな上昇であったが、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は昨年度より 5 ポイントマイナスであった。

図2-56 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



次にメディア別の取組姿勢では（図2-57）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、テレビがそれぞれラジオより5ポイント低くなっていた。(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、同水準であった。

図2-57【大学院】メディア別の取組姿勢



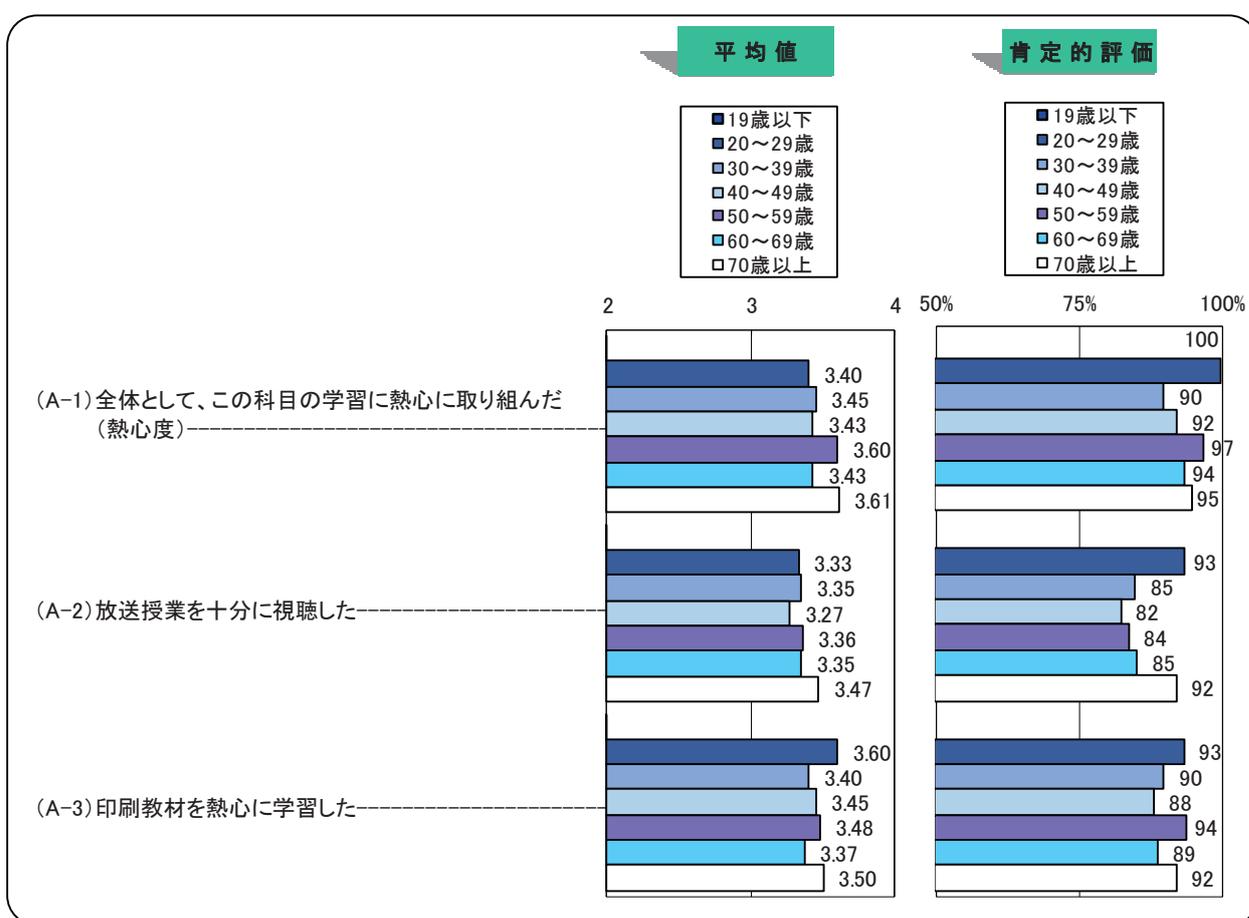
年齢階層別では（図2-58）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、50歳代が97%と熱心度が高く、次いで70歳以上が95%が続いていた。反対に熱心度が低かったのは、30歳代で、90%であった

(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、70歳以上が92%と高く、反対に40歳代は82%と低くなっていた。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」については、50歳代の評価が高かった。

※「20～29歳」は回答者数が15人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

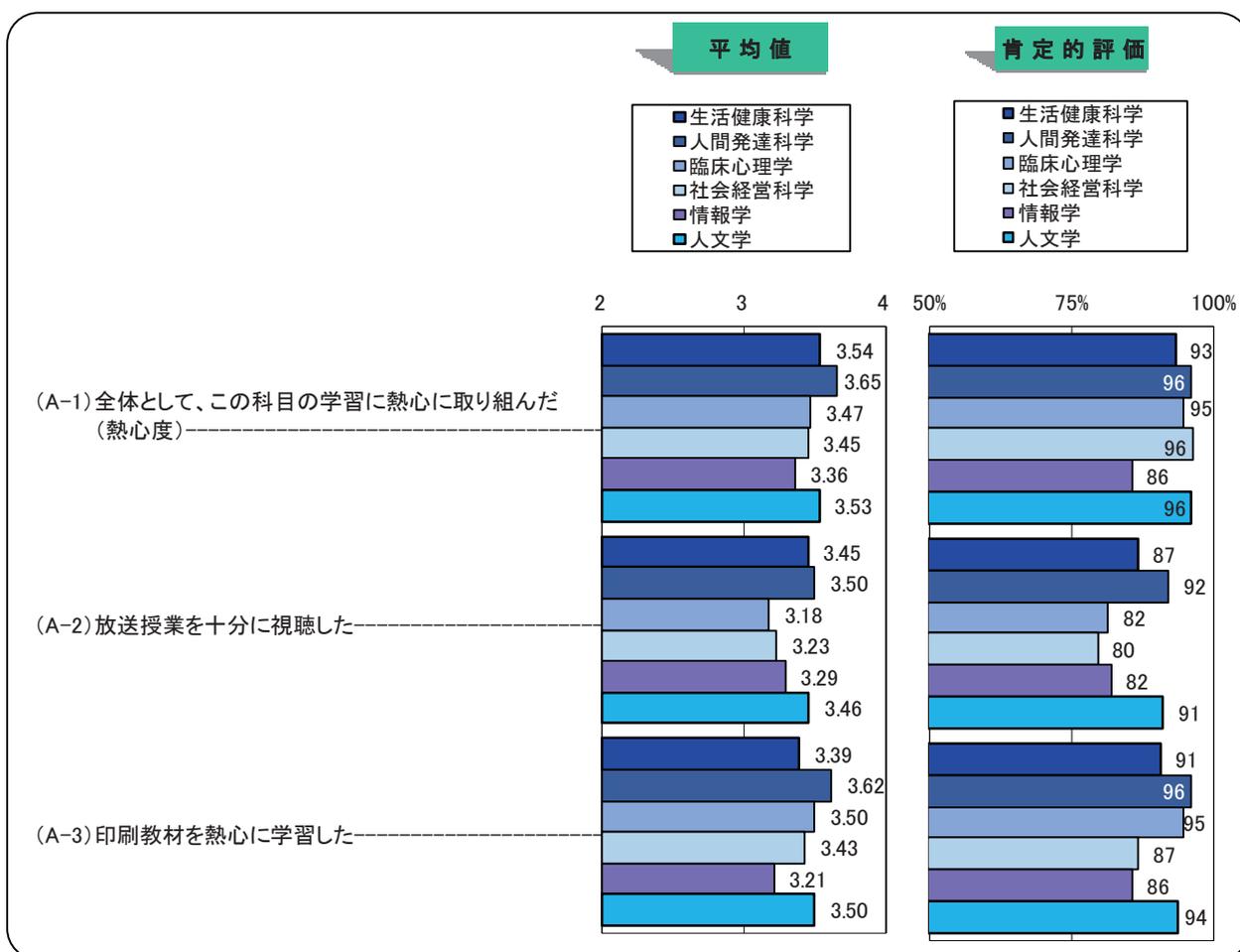
図2-58【大学院】年齢階層別の取組姿勢



所属プログラム別の取組姿勢（図2-59）では、全ての項目で「人間発達科学」の積極性が高くなっていた。

反対に、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」、「(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、「情報学」の評価がそれぞれ86%と低かった。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「臨床心理学」の評価が80%と低かった。

図2-59【大学院】所属プログラム別の取組姿勢

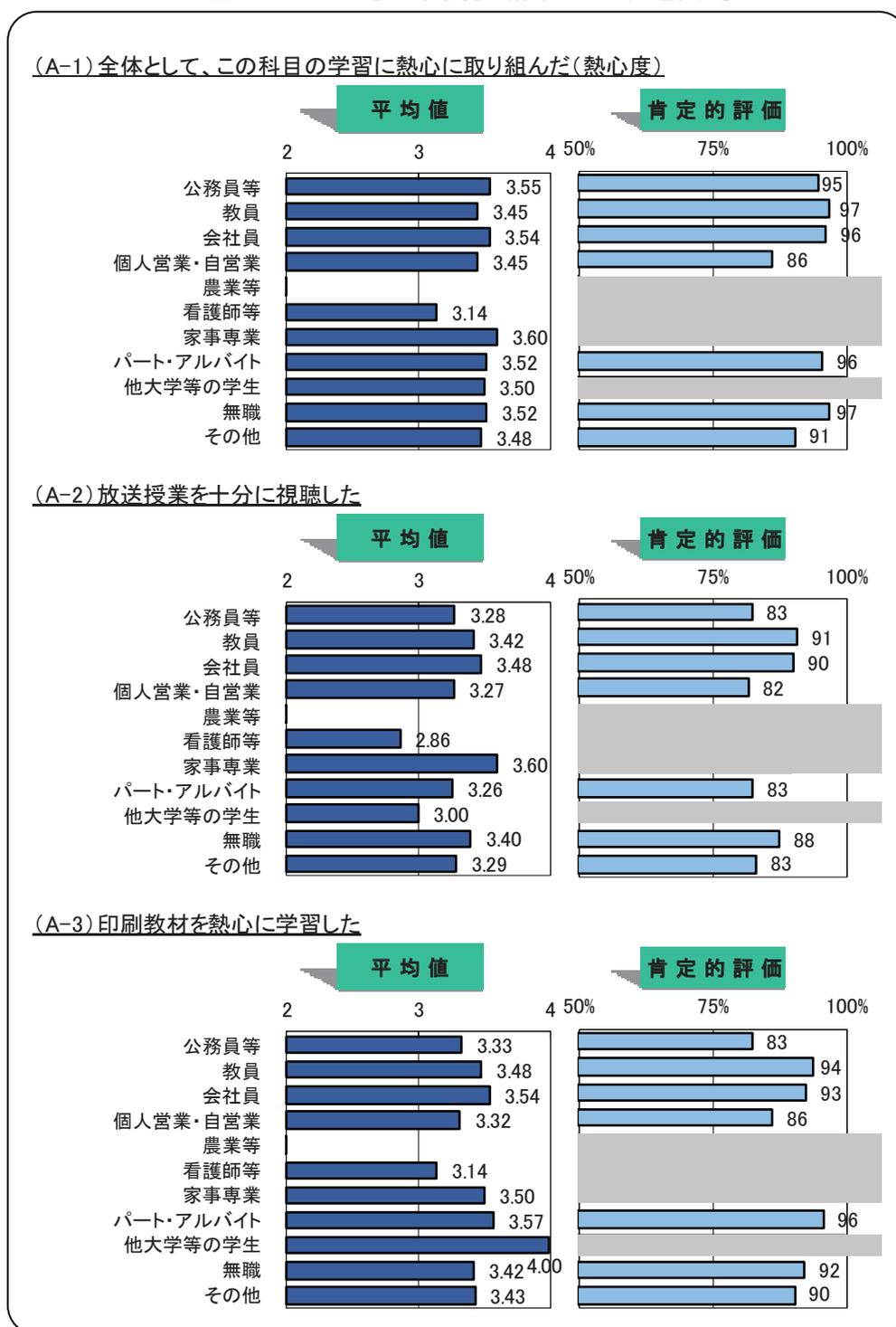


職業別の取組姿勢は（図2-60）、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では、「教員」、「無職」がそれぞれ97%と最も高かった。反対に「個人営業・自営業」は86%と低かった。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」も「教員」が91%と最も高く、次いで「会社員」が90%で続いていた。

（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」については、「パート・アルバイト」が96%と高く、反対に「公務員等」「個人営業・自営業」は、他の職業に比べ83~86%と低く、9割を割り込んでいた。

図2-60【大学院】職業別の取組姿勢



単位認定のための学習方法（図2-61）では、属性別の各層内で回答者数が15人以下と少ない、「20～29歳」「農業等」「看護師等」「家事専業」「他大学等の学生」の5属性については、下記のグラフから除外した。

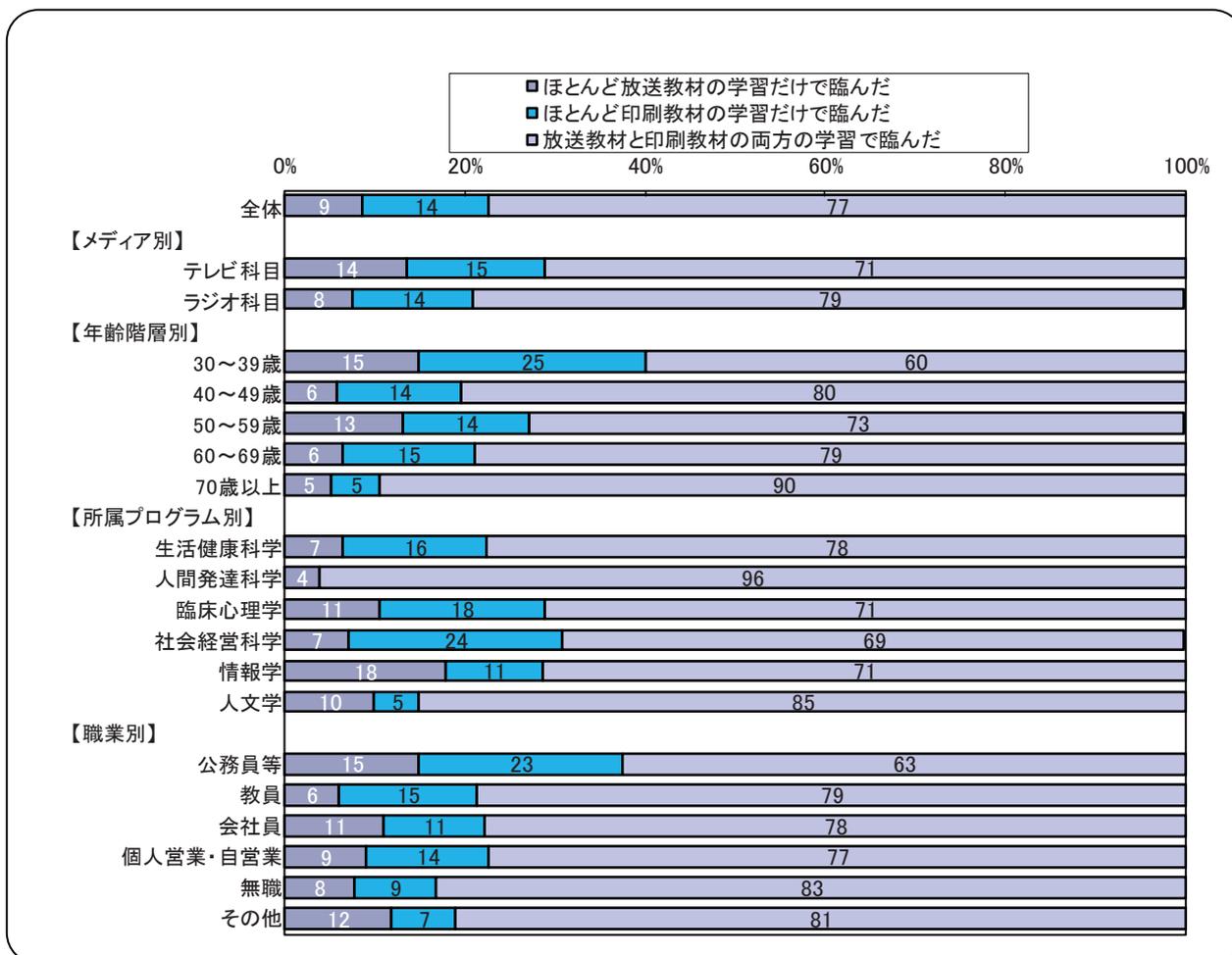
全体は、比率の高い順に「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が77%と、大半を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が14%で、「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は9%と、少なかった。

年齢階層別では、70歳以上は、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が90%と、他の年代に比べ比率が高かった。

所属プログラム別では、「人間発達科学」は「両方の学習で臨んだ」(96%)と極端に高かった。

「公務員等」は、「両方の学習で臨んだ」が63%と、他の職業と比べ最も低かった。

図2-61 【大学院】単位認定のための学習方法



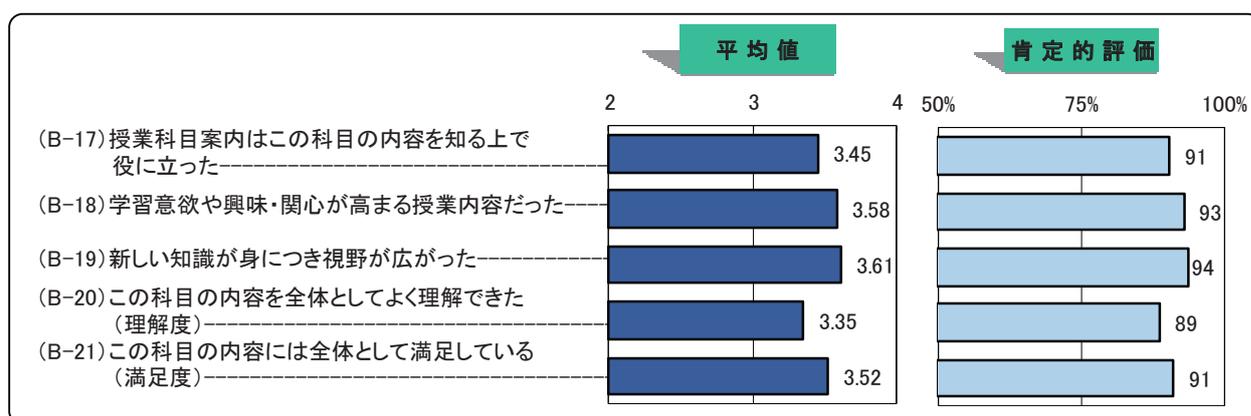
## Ⅱ-2-3. 大学院の授業評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくことにする。

全体評価の項目では（図2-62）、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」(94%)が最も高く評価されていた。

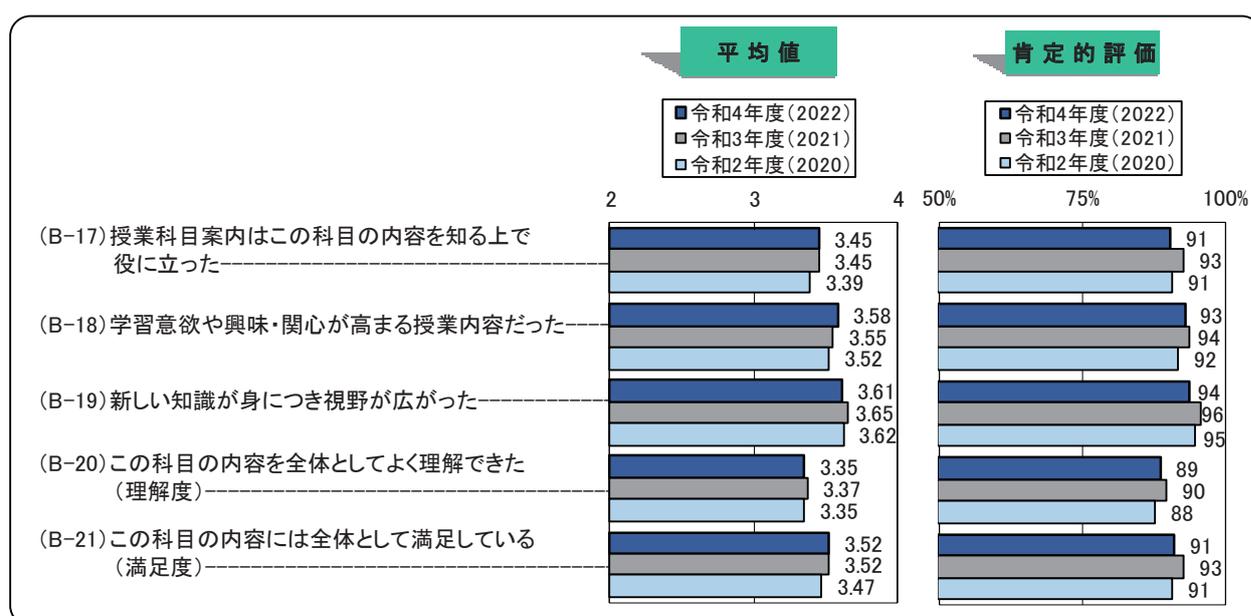
反対に(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は89%と、最も低く、それ以外の項目については91~93%であった。

図2-62【大学院】回答者全体の全体評価



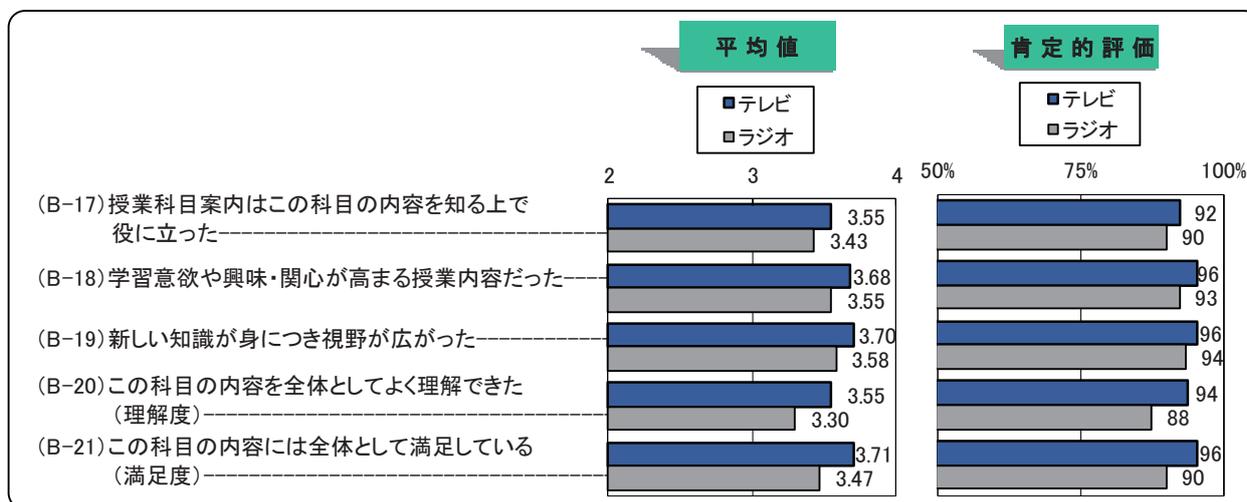
全体評価を時系列で見ると（図2-63）、昨年度と比べ全ての項目で下降傾向が見られた。

図2-63【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図2-64）、全ての項目でテレビ科目の方が高い評価で、特に(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は、それぞれプラス6ポイントとラジオ科目との差が大きかった。

図2-64【大学院】メディア別の全体評価

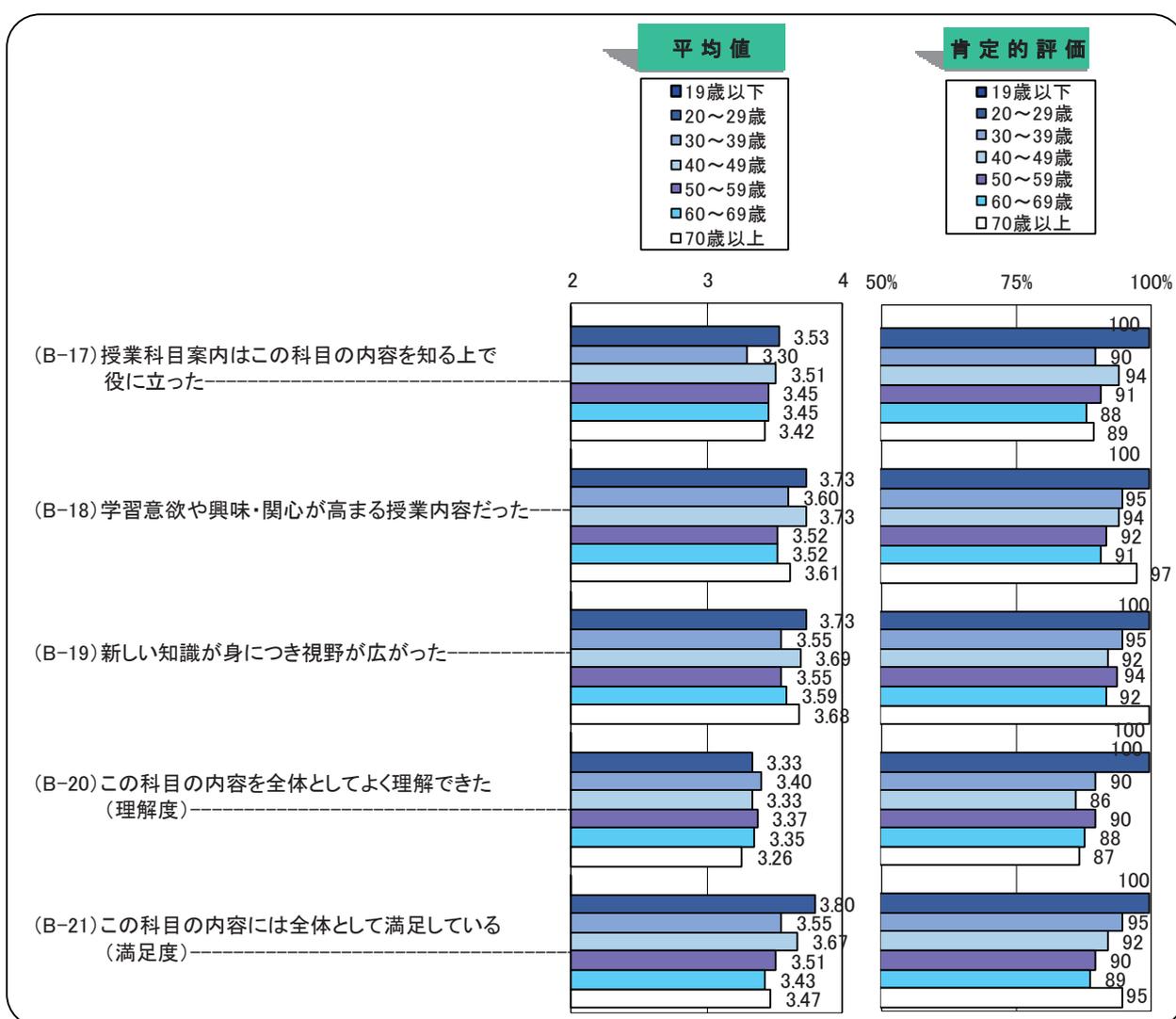


年齢階層別では（図2-65）、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」については、40歳代が94%と、最も高く、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、70歳以上がそれぞれ97%、100%と、最も高かった。

(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は30歳代と50歳代、(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」は30歳代と70歳以上が95%を超え、他の年代より高かった。

※「20～29歳」は回答者数が15人と少人数である為、コメントを差し控えた。

図2-65【大学院】年齢階層別の全体評価

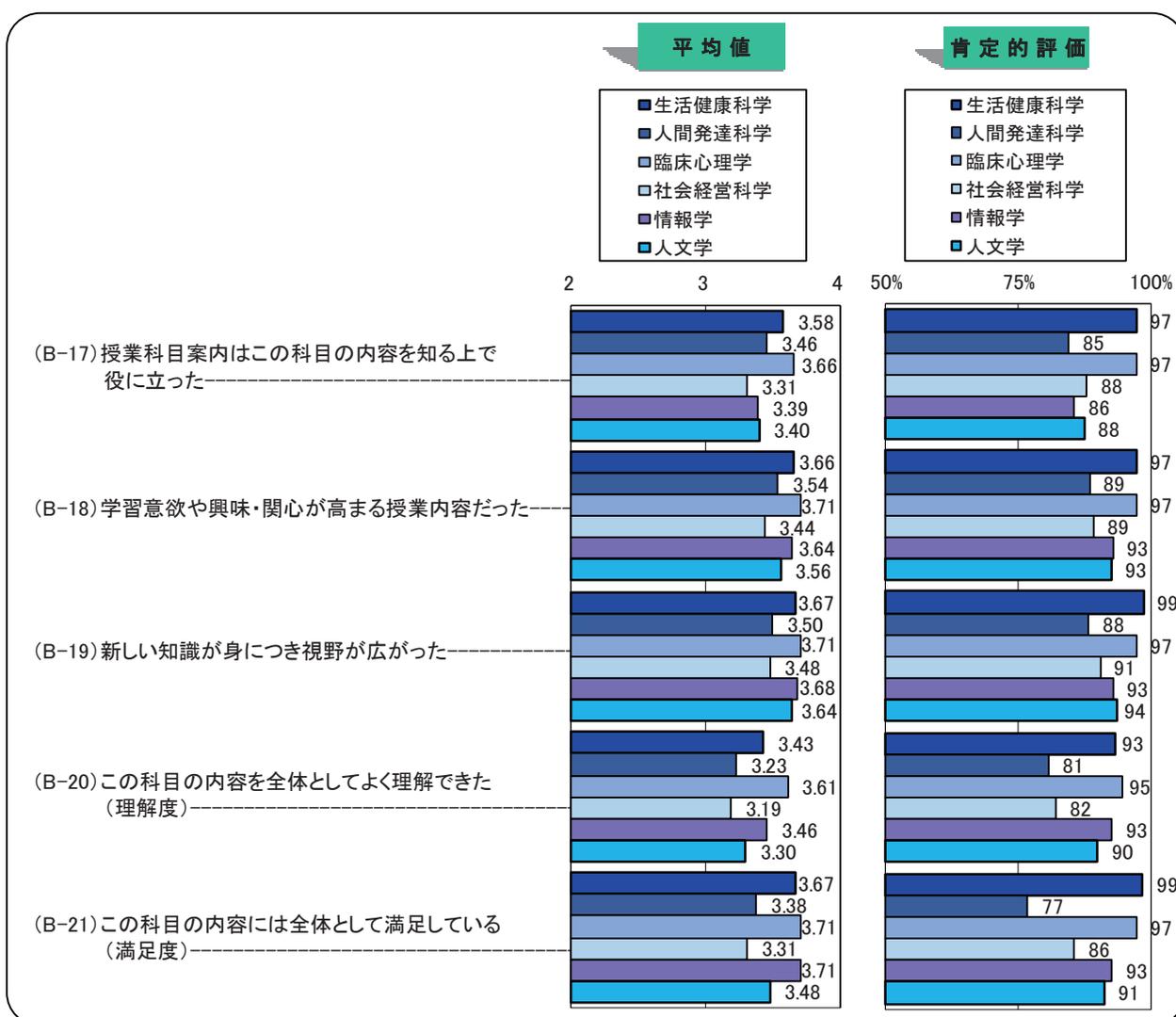


所属プログラム別に全体評価を見ると（図2-66）、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」と(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は「生活健康科学」「臨床心理学」の評価がそれぞれ97%と高かった。

(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」、(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」でも「生活健康科学」の評価がそれぞれ99%と、非常に高かった。

(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」では、「臨床心理学」が95%と高かった。

図2-66【大学院】所属プログラム別の全体評価



職業別（次頁図 2 - 6 7）では、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は、「会社員」の評価が 94%と最も高かった。

(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、「公務員等」「教員」「その他」が 97%以上と評価が高かった。

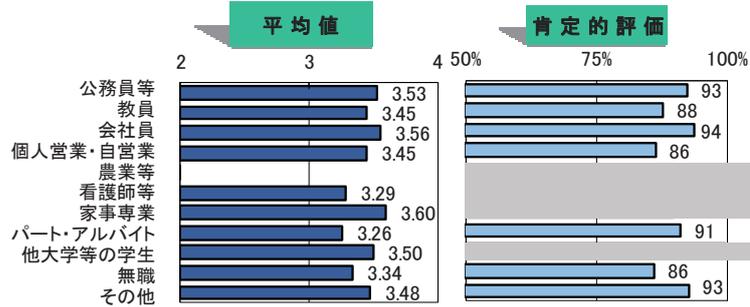
(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、「教員」が 100%と非常に評価が高く、「パート・アルバイト」で 87%と評価が低かった。

(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」については、「教員」と「その他」が 94%以上と高く、反対に「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」がそれぞれ 82%、83%で、低い評価であった。

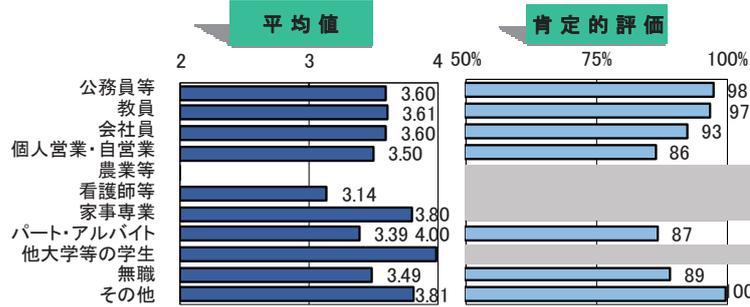
(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では「教員」が 97と、最も高く、「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」「無職」が 86~87%で、9割に達していなかった。

図 2-67 【大学院】職業別の全体評価

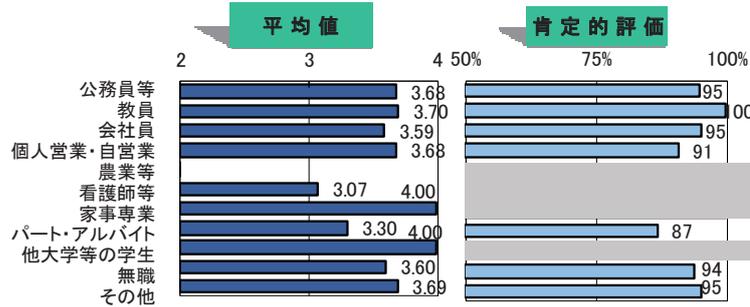
(B-17) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った



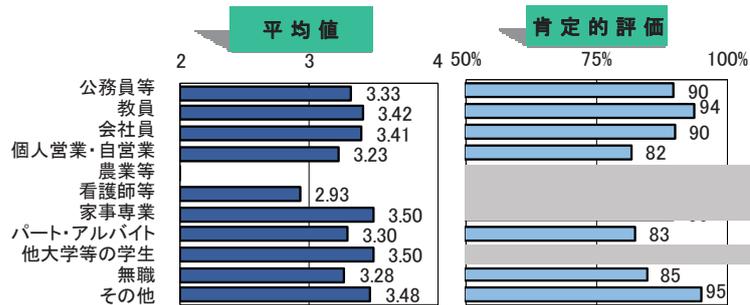
(B-18) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



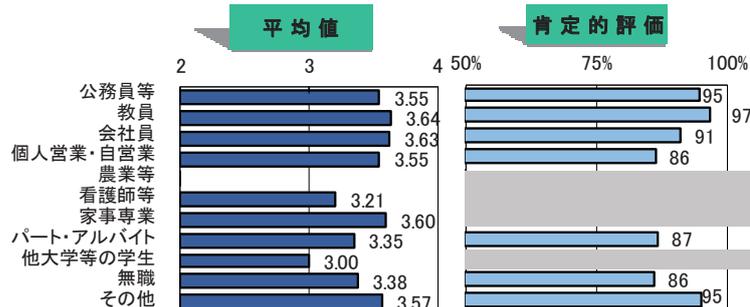
(B-19) 新しい知識が身につく視野が広がった



(B-20) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-21) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

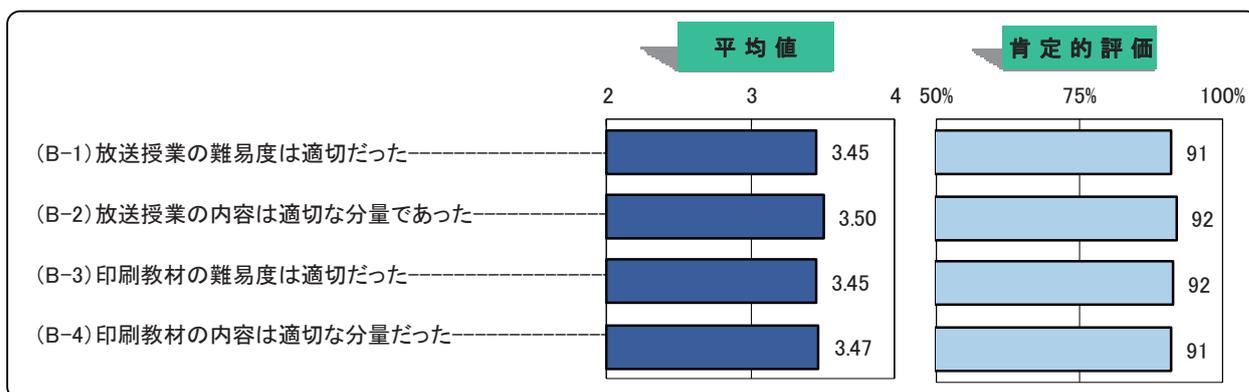


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について評価項目ごとに見ていく。

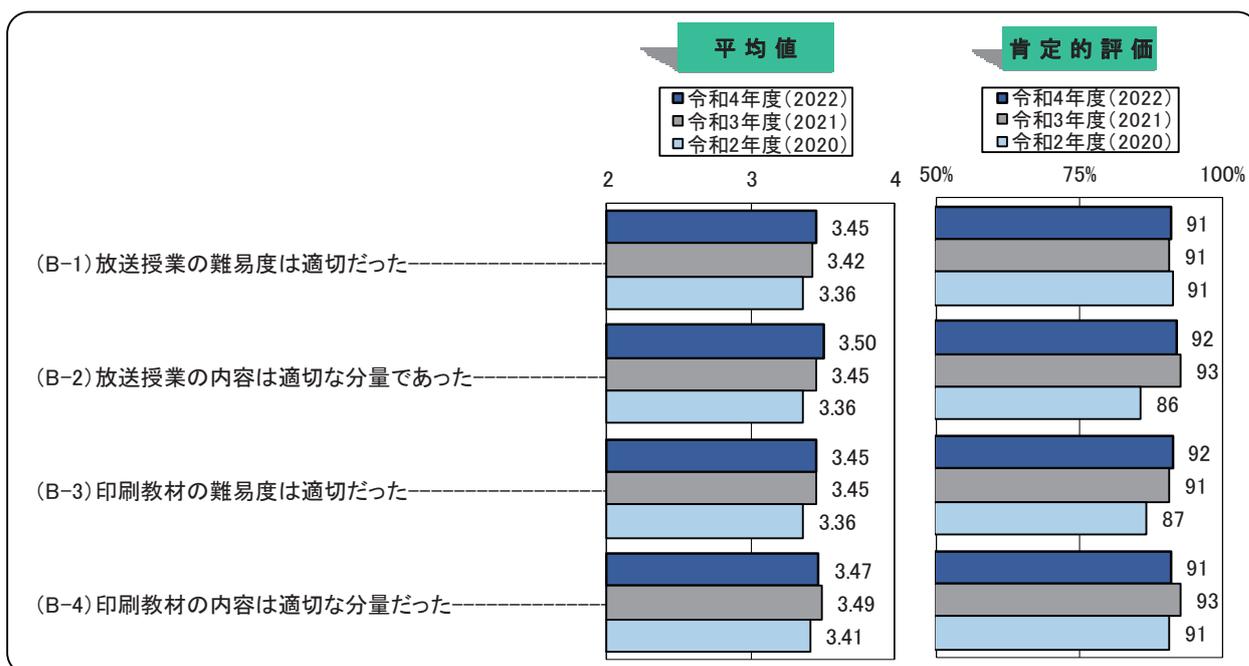
授業の難易度・分量の評価は（図2-68）は、全ての項目で91～92%と高い評価であった。

図2-68 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



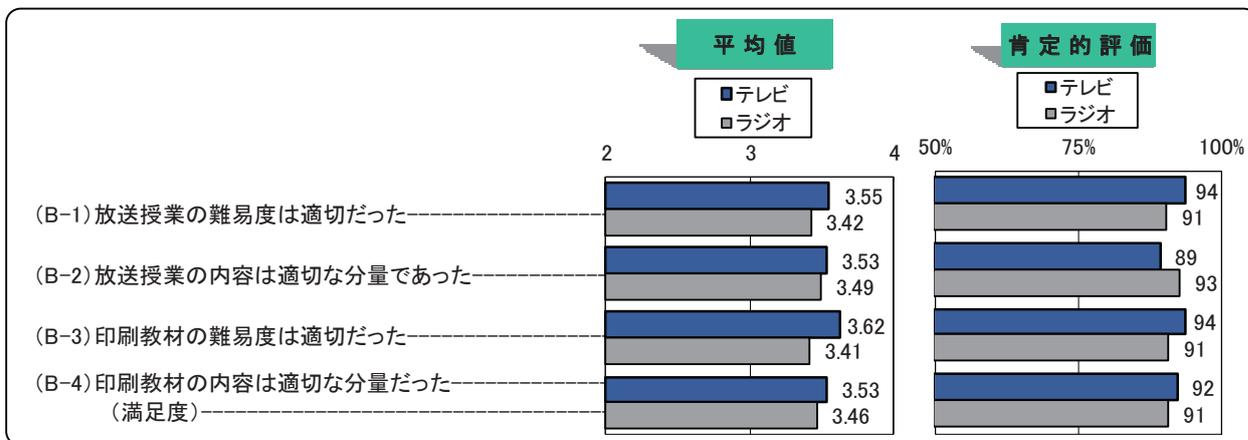
開設年度別では（図2-69）、本年度と昨年度を比較すると、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」はいずれも91%と変わらなかったが、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」は、昨年度よりやや低下していた。逆に(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」は昨年度よりやや上昇していた。

図2-69 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-70）、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」以外の項目では、テレビ科目の評価が高かった。

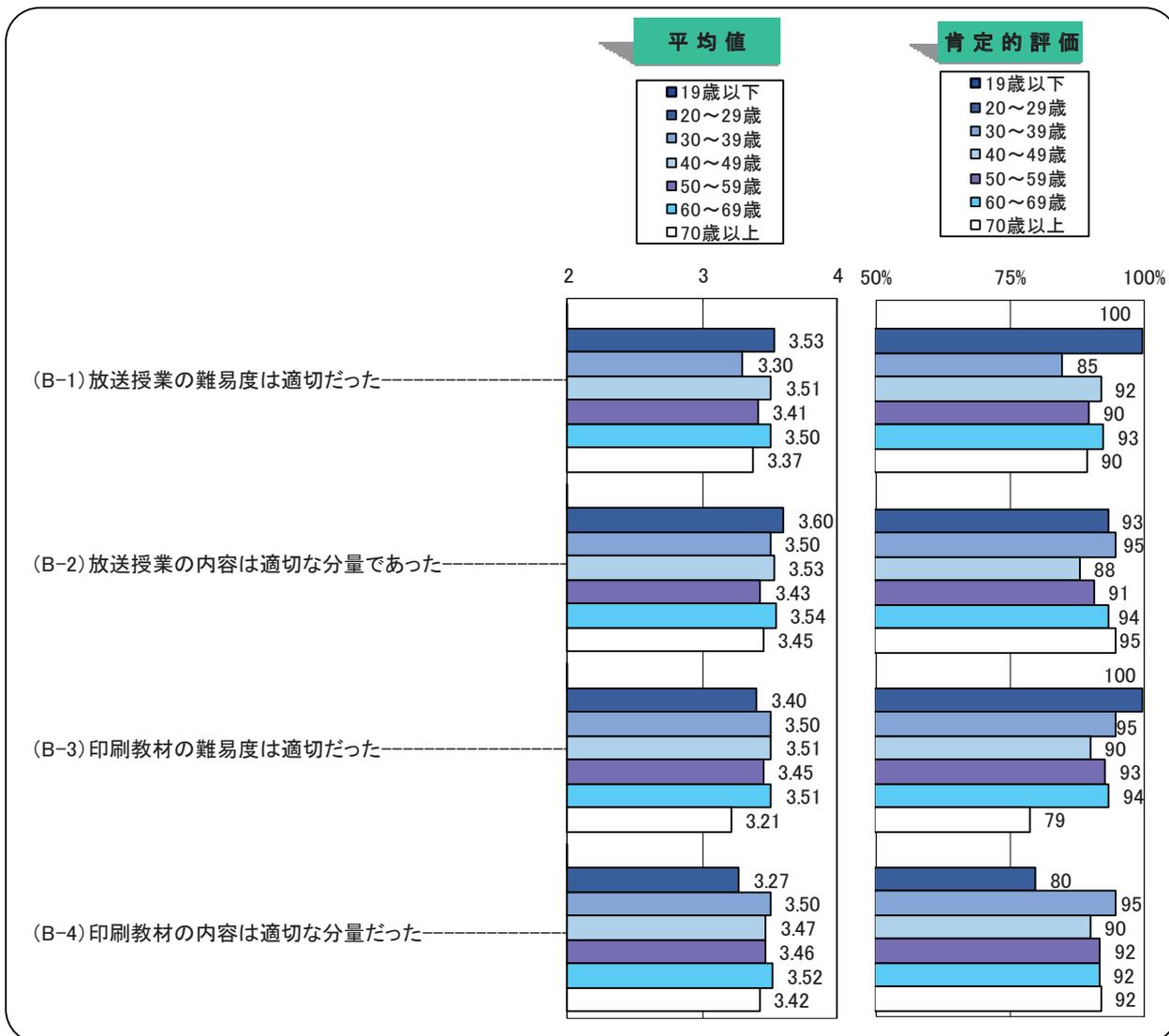
図2-70【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-71）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」は60歳代の評価が93%と最も高かったが、それ以外の3項目では30歳代の評価が最も高く、いずれも95%以上であった。

※「20～29歳」は回答者数が15人と少人数である為、コメントを差し控えた。

図2-71 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



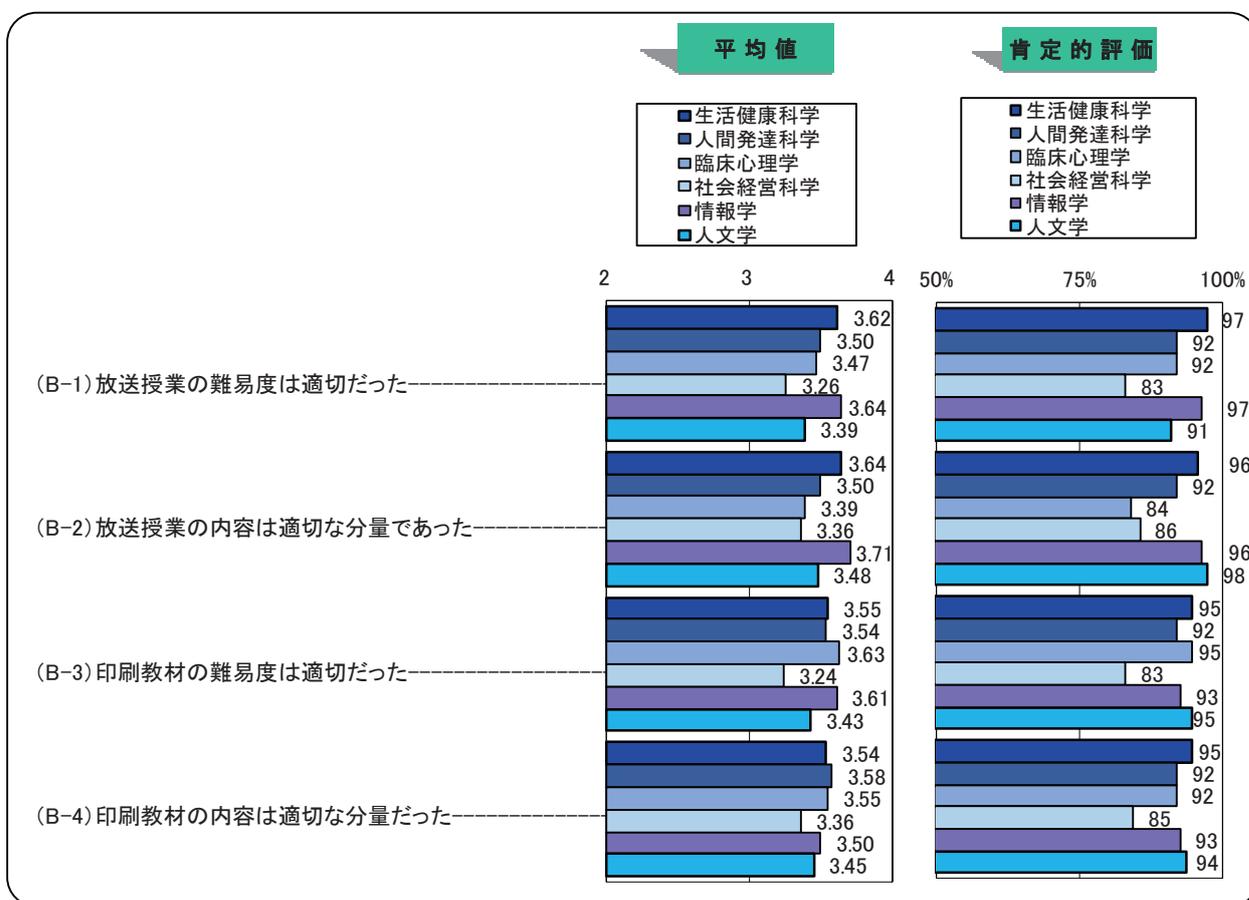
所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図2-72）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」は、「生活健康科学」が97%と最も高く、反対に「臨床心理学」が83%で最も低かった。

(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」は、「人文学」が98%で評価が高く、「臨床心理学」「社会経営科学」は90%以下の評価であった。

(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」は、「生活健康科学」「臨床心理学」「人文学」がそれぞれ95%と高い評価で、「社会経営科学」が83%と極端に低かった。

(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」も「生活健康科学」が、95%と高く、反対に「社会経営科学」が85%と低い評価であった。

図2-72【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると（次頁図2-73）、全ての項目で「教員」の評価が高い傾向にあり、特に(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」では、それぞれ97%に達していた。

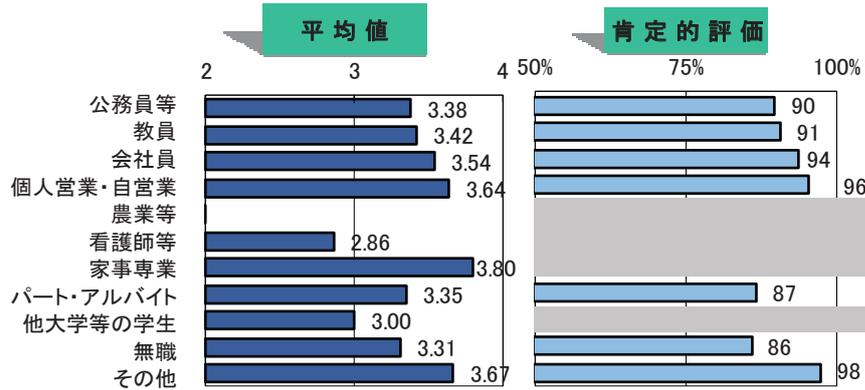
(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では、「会社員」(94%)「個人営業・自営業」(96%)、「その他」(98%)も評価が高かった。

(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」では、「パート・アルバイト」(96%)、「その他」(95%)も高かった。

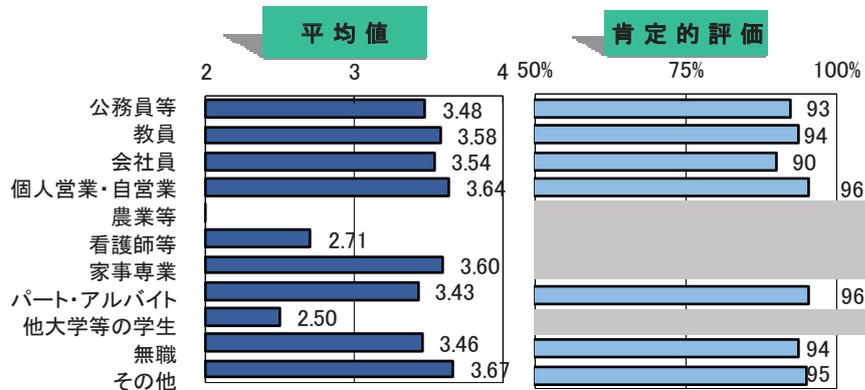
(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」では、「公務員等」(95%)と「会社員」(95%)、「個人営業・自営業」(96%)も高い評価であった。

図 2-73 【大学院】職業別の授業難易度の評価

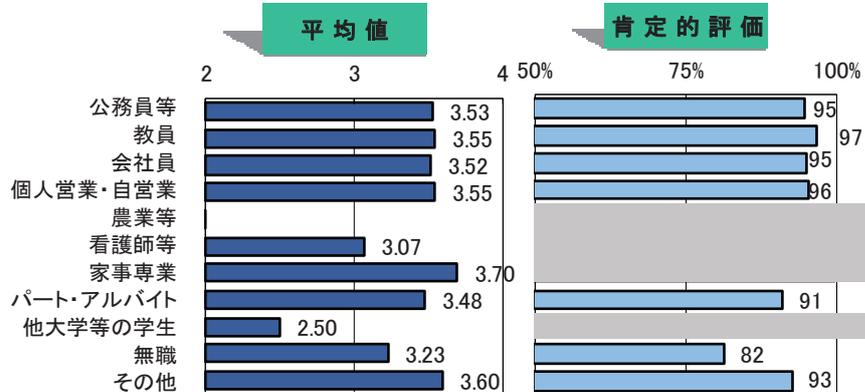
(B-1) 放送授業の難易度は適切だった



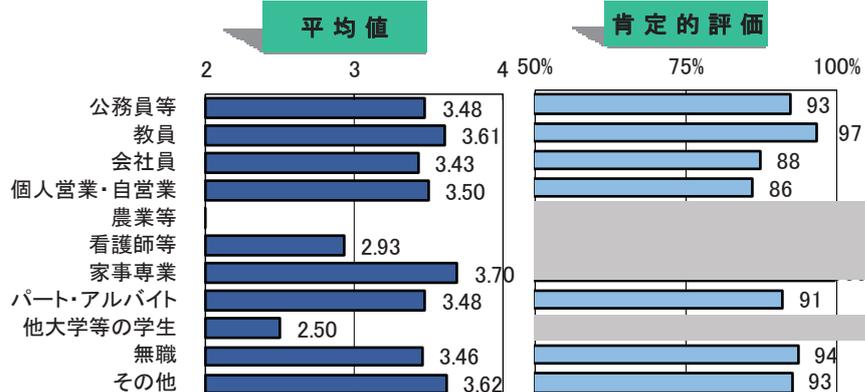
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった



(B-3) 印刷教材の難易度は適切だった



(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量だった



### (3) 放送授業

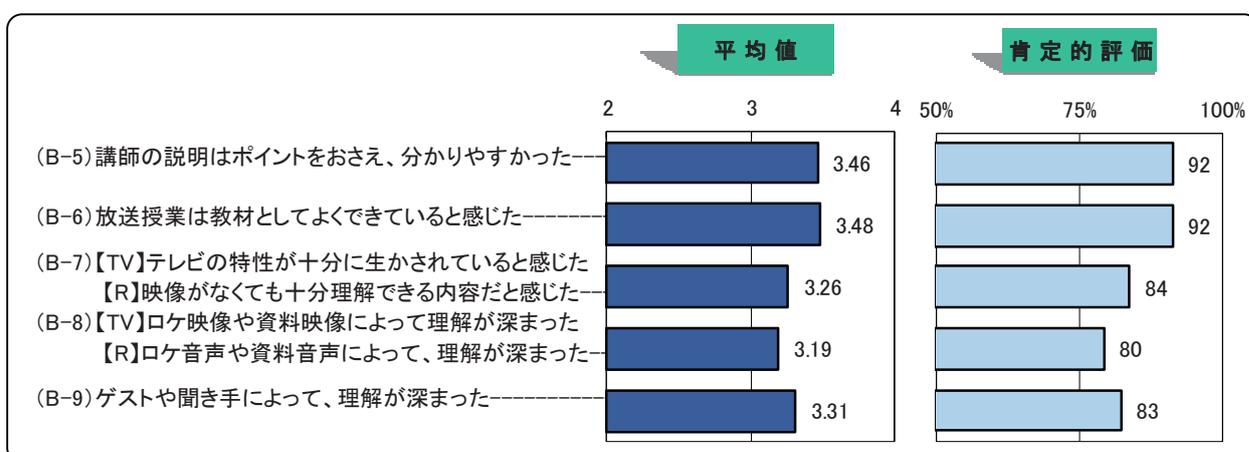
ここからは放送授業について評価項目ごとに見ていく。

放送授業に関する評価項目を見ると（図2-74）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」はそれぞれ92%で、他の項目より8ポイント以上高かった。

(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、84%と前2項目と比べかなり評価が低かった。

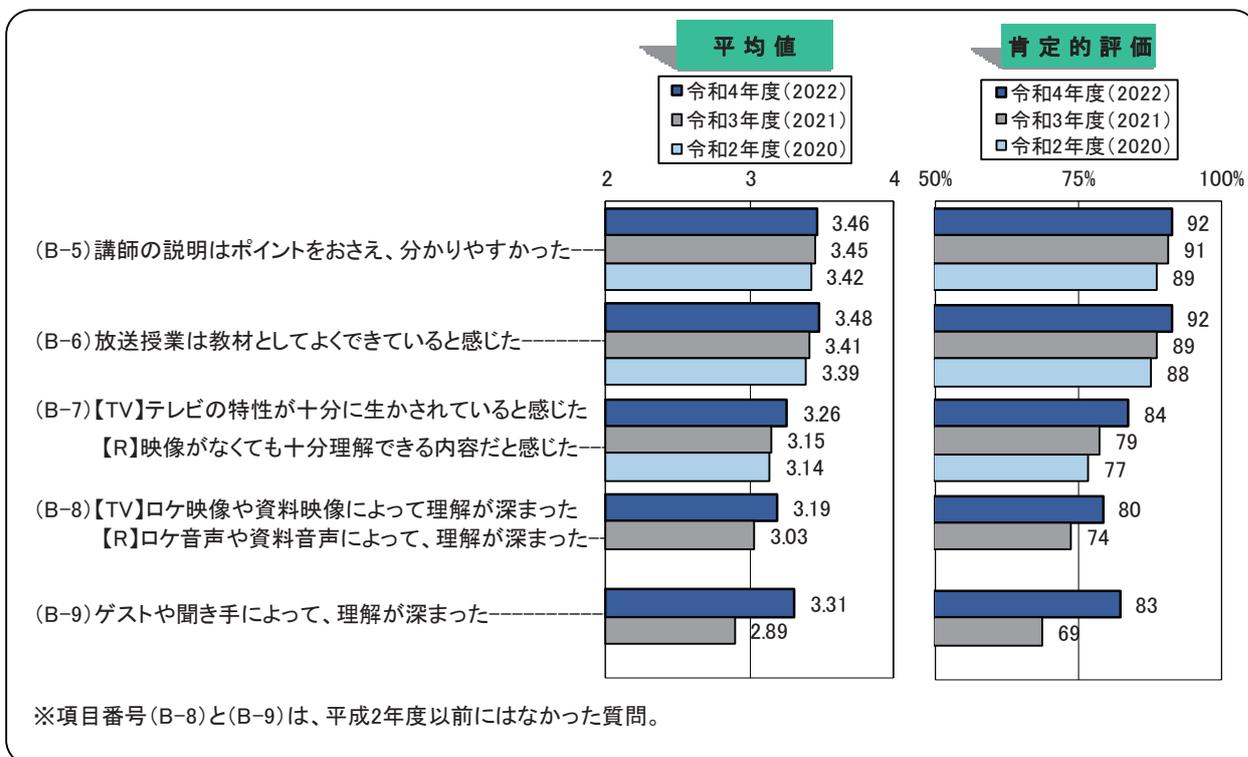
昨年度より新たに加わった(B-8)と(B-9)の評価は、他の項目と比べて低くなっていた。

図2-74 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図2-75）、下記4項目全てで、評価が年々上向いている傾向が見られた。中でも、昨年度に特に評価が低かった(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」でプラス14ポイントと大幅に上昇していた。

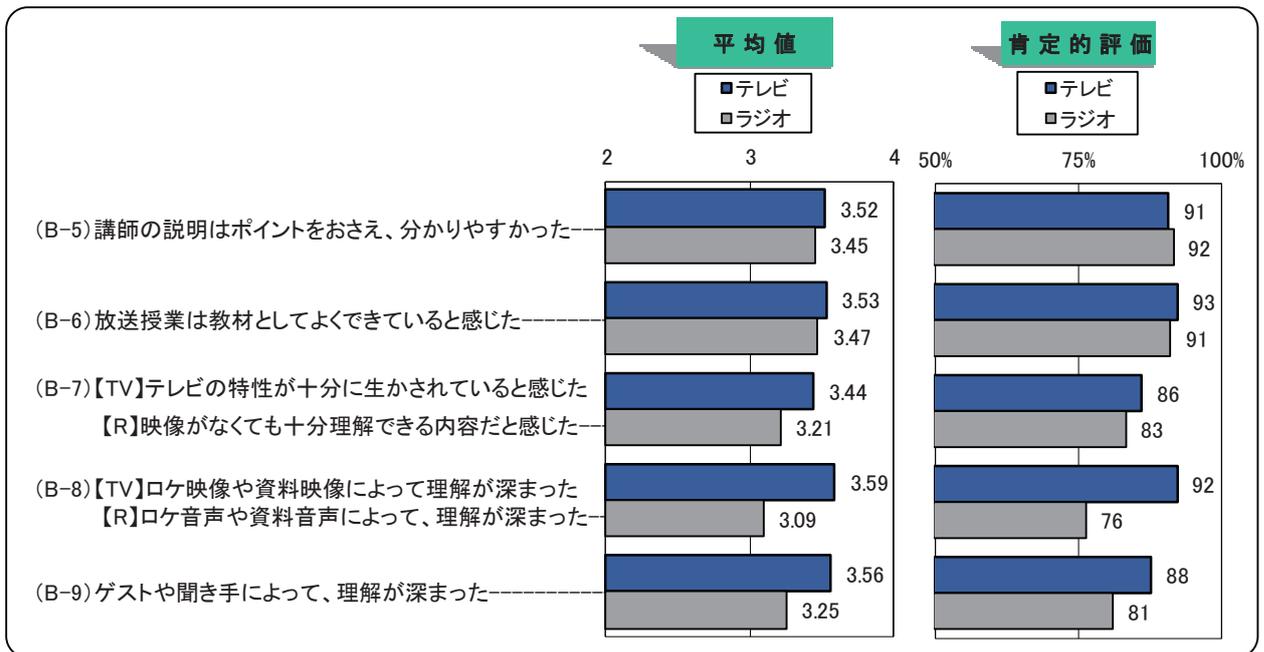
図2-75 【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図2-76）、「(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」以外の項目でテレビ科目の評価が高く、特に(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は、テレビ科目が92%、ラジオ科目が76%で、その差が16ポイントと大きな開きが見られた。

一方、「(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は、テレビ科目が91%、ラジオ科目が92%で、大きな差が見られなかった。

図2-76 【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別では（図2-77）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は、各年代いずれも90%以上と高かった。

(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、70歳以上が97%と最も高く、40歳代が88%で評価が低かった。

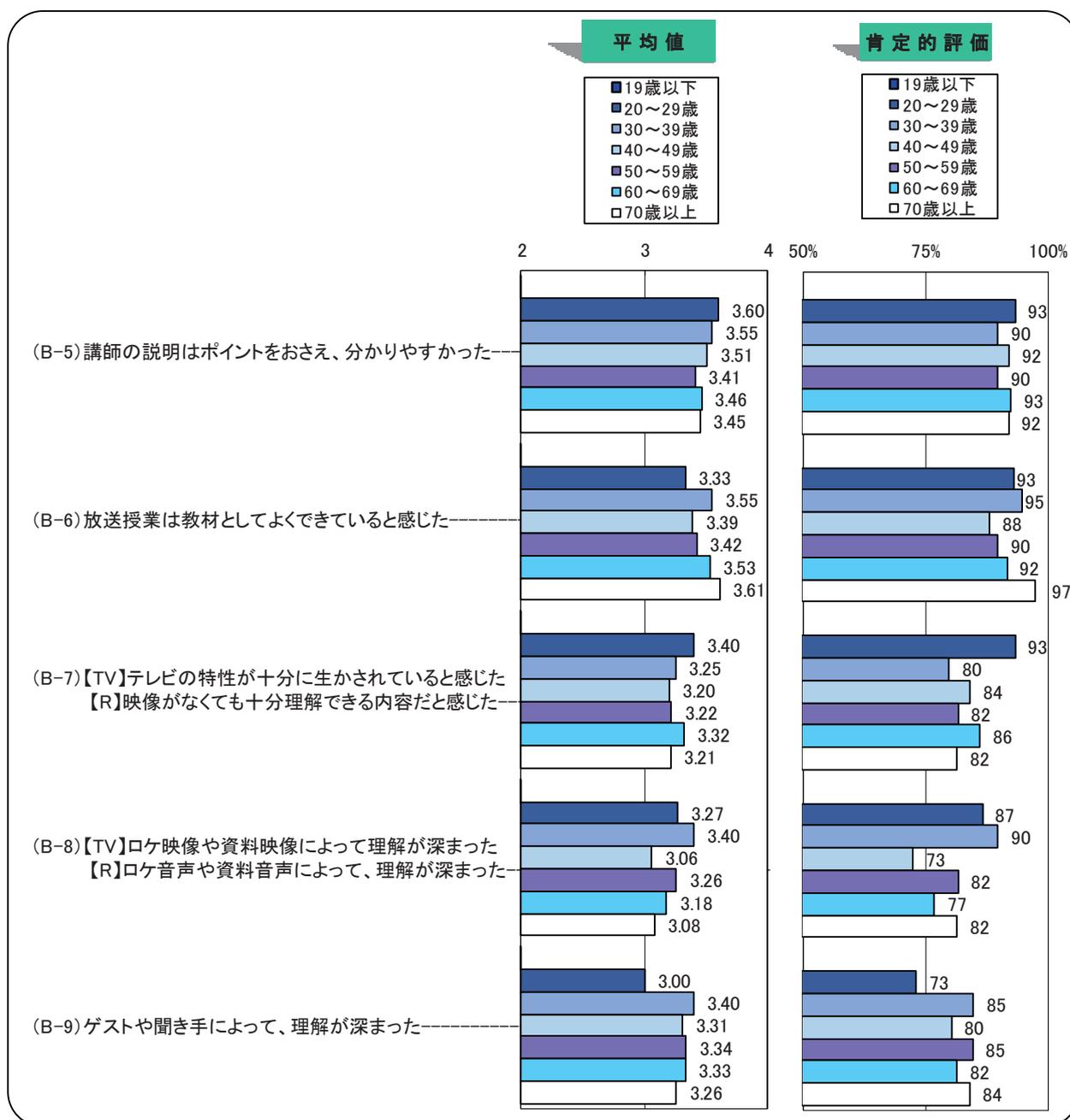
(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価は80~86%で、30歳代でやや低かった。

(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は、30歳代が高く、40歳代が73%と最も低かった。

(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は、30歳代、50歳代が85%と最も高く、40歳代が80%と低かった。

※「20~29歳」は回答者数が15人と少人数である為、コメントを差し控えた。

図2-77【大学院】年齢階層別の放送授業の評価



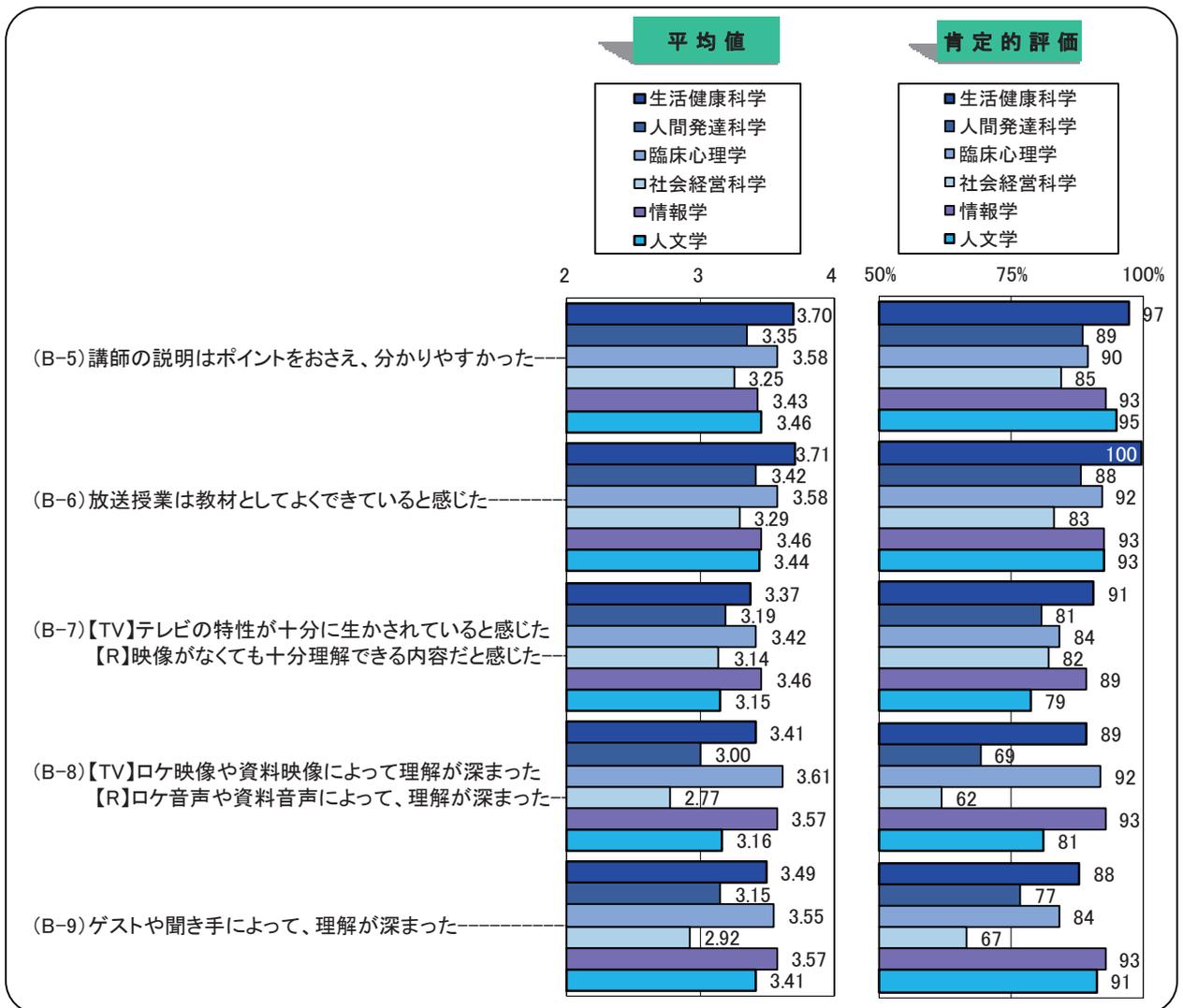
所属プログラム別では（図2-78）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は「生活健康科学」が97%と最も高く、「社会経営科学」が85%と評価が低かった。

(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」も、「生活健康科学」が100%と最も高く、「社会経営科学」が83%と評価が低かった。

(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も、「生活健康科学」が91%と評価は高かったが、評価が最も低かったのは「人間発達科学」(81%)であった。

(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は「情報学」の評価がそれぞれ、93%と高かった。評価が低かったのは「社会経営科学」で、62~67%と低水準であった。

図2-78 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



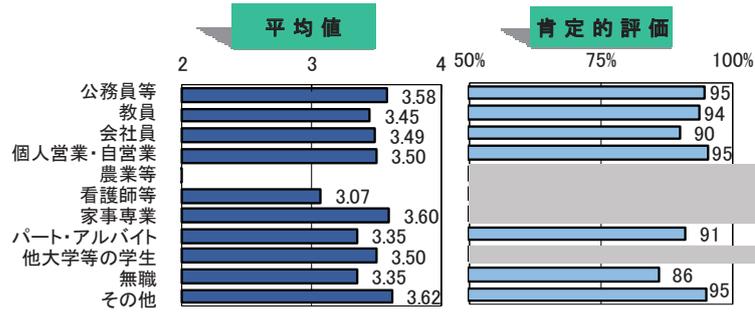
職業別では（次頁図2-79）、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」以外の項目について「その他」の評価がいずれも90%以上で最も高くなっていた。

また、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」では、「公務員等」の評価も93~95%と高い。

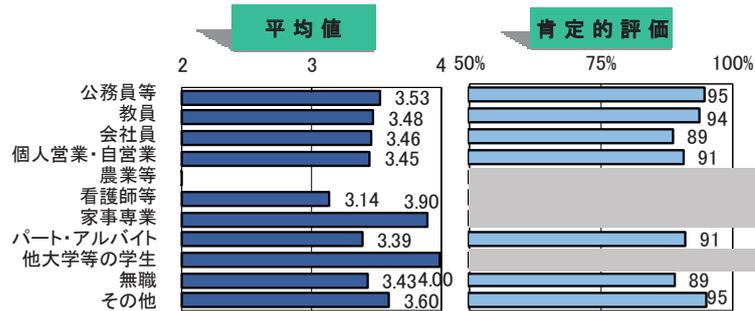
(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」では、「個人営業・自営業」が59%と極端に低い評価であった。

図 2-79 【大学院】職業別の放送授業の評価

(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった

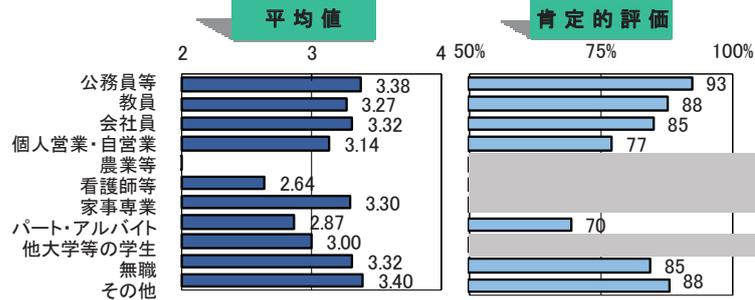


(B-6) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



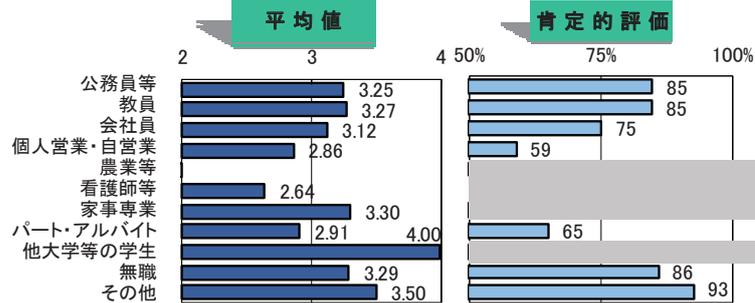
(B-7) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた

【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた

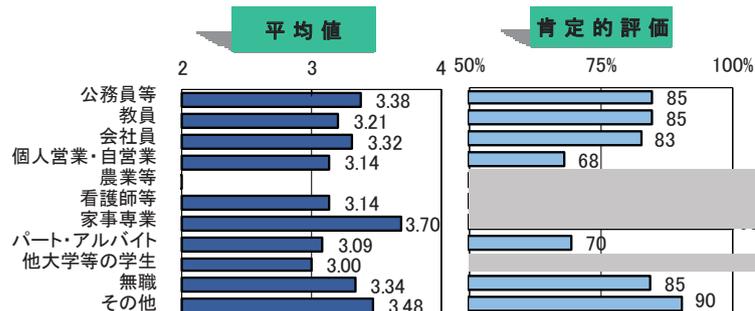


(B-8) 【TV】ロケ映像や資料映像によって理解が深まった

【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった



(B-9) ゲストや聞き手によって、理解が深まった

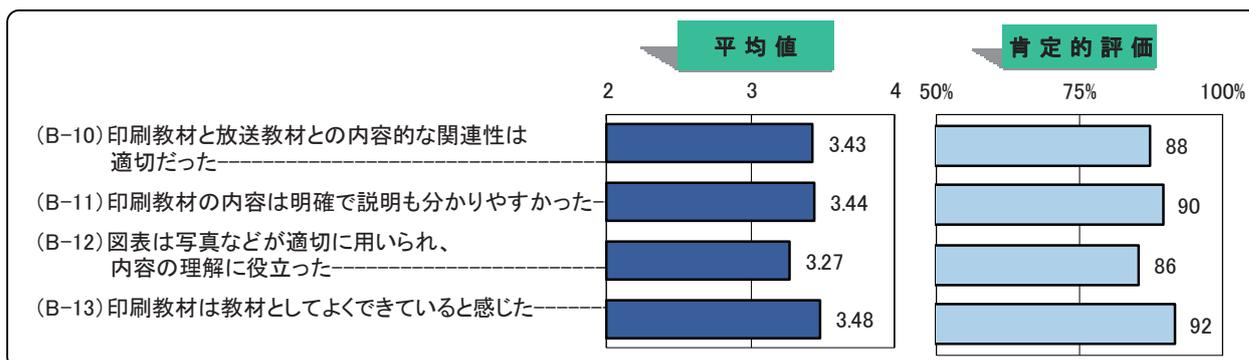


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

印刷教材の評価項目では（図2-80）、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が92%と最も評価が高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が86%と低い評価であった。

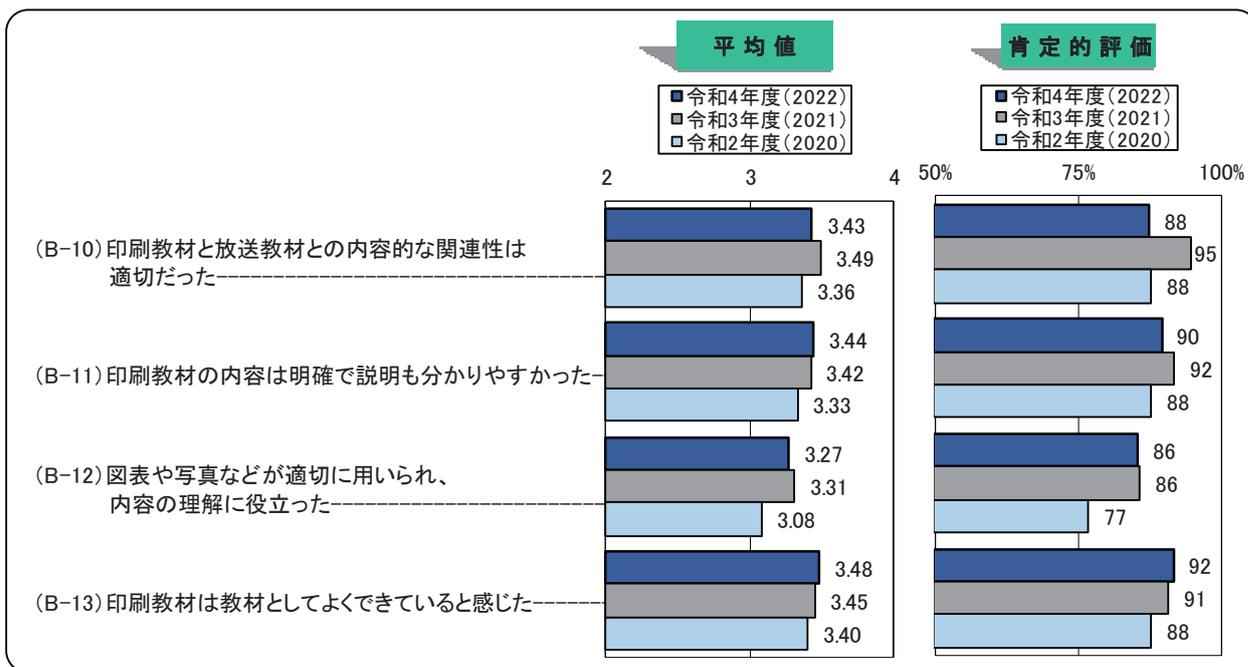
図2-80【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-81）、本年度は昨年度と比べ、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」が減少しており、(B-10)が7ポイント減、(B-11)が2ポイント減であった。

(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」については、評価が年々上昇していた。

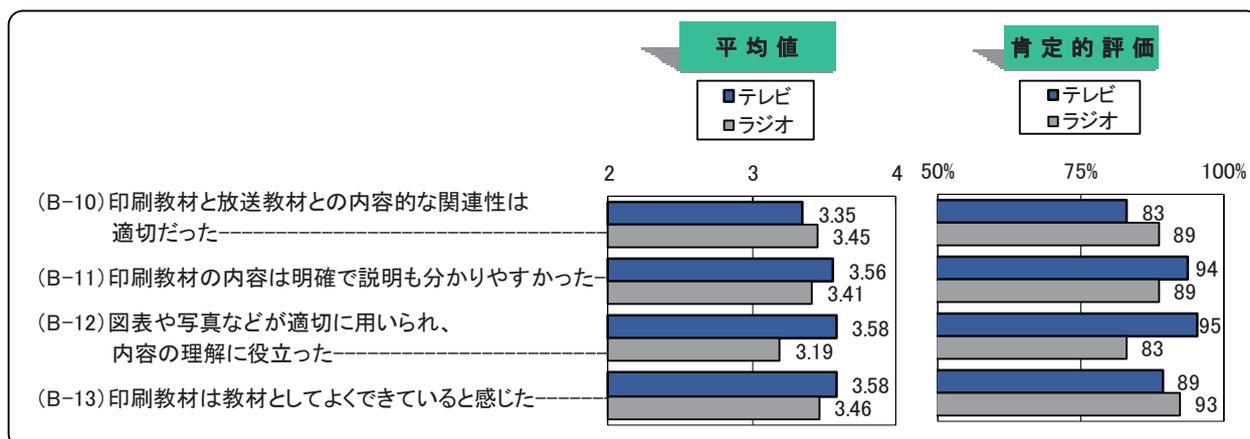
図2-81 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



メディア別に印刷教材の評価を見ると（図2-82）、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」はラジオ科目の評価が高くなっていた。

一方、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」については、テレビ科目の評価が高く、中でも(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」はその差が12ポイントと大きな差であった。

図2-82 【大学院】メディア別の印刷教材の評価



年齢階層別の評価（図2-83）は、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、70歳以上の評価が92%と最も高くなっていた。

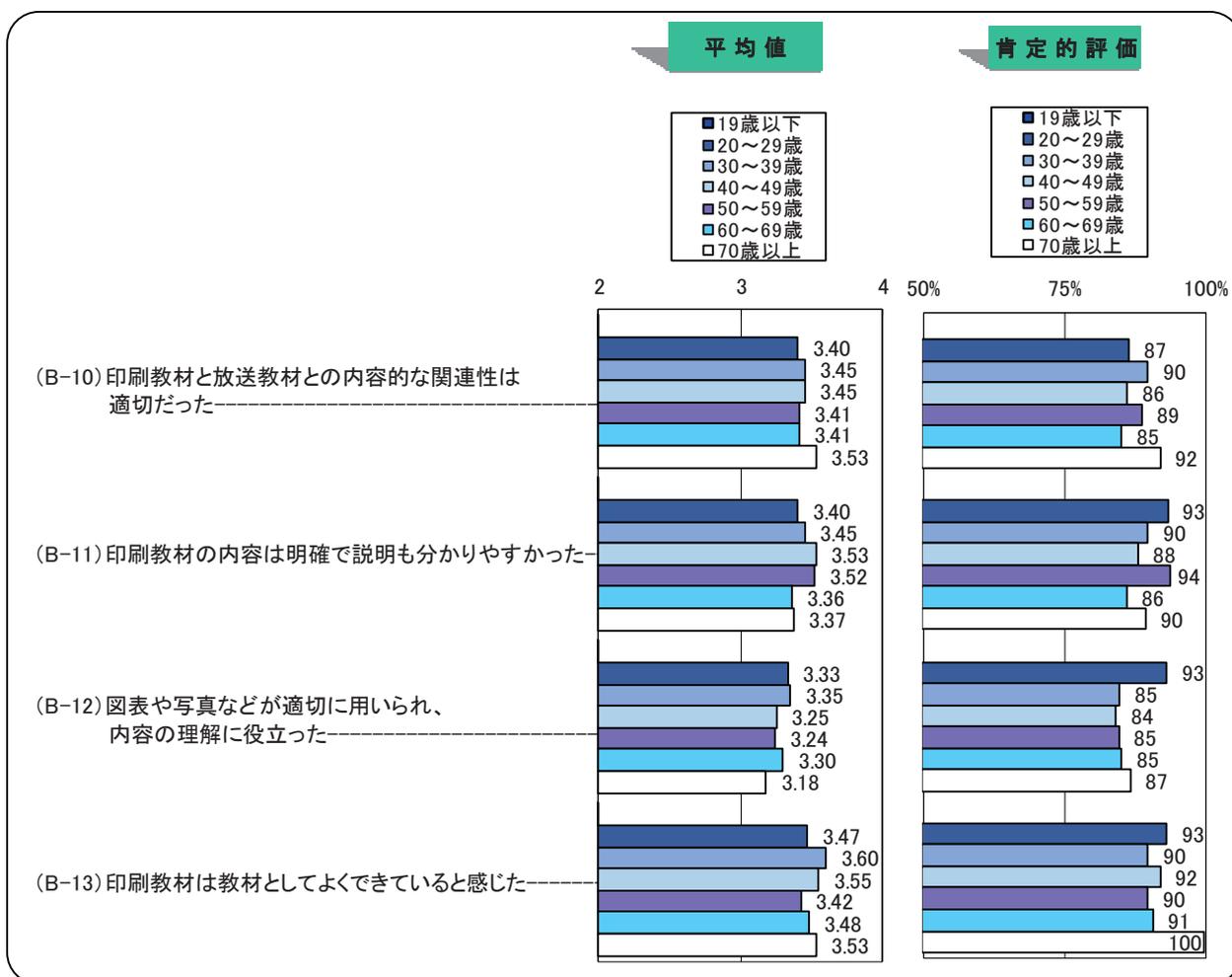
(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、50歳代が94%と高く、60歳代は86%と低かった。

(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、70歳以上が87%と最も評価が高かったが、その他の年代も85%前後の評価であった。

(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、70歳以上が100%と非常に高く、30歳代、50歳代が90%と低い評価であった。

※「20～29歳」は回答者数が15人と少人数である為、コメントを差し控えた。

図2-83【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価

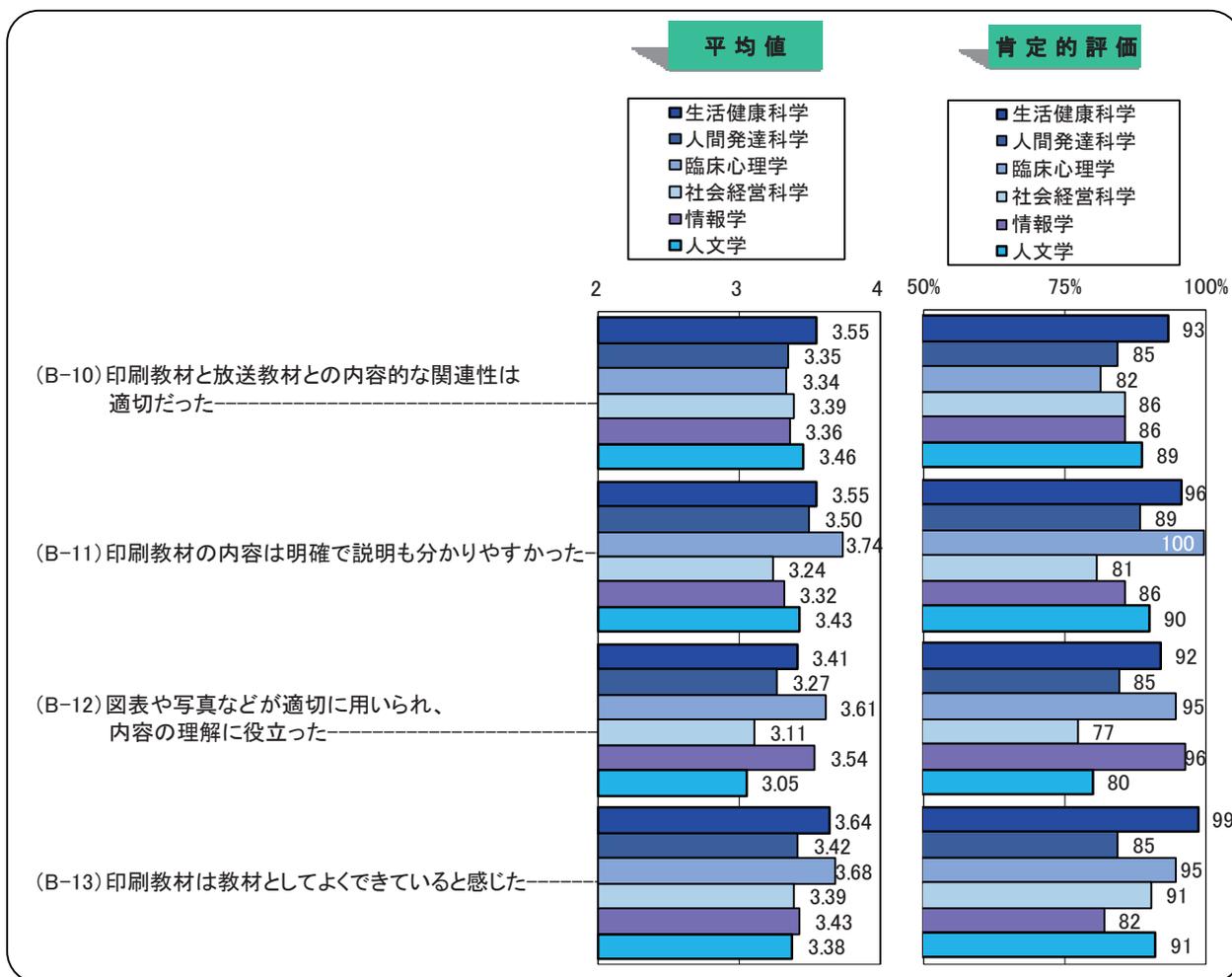


所属プログラム別の評価を見ると（図2-84）、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、「生活健康科学」93%と高く、他のプログラムはいずれも80%台であった。

(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では、「臨床心理学」が100%と高くかった。逆に評価が低いのは「社会経営科学」の81%であった。

(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、「臨床心理学」「情報学」がそれぞれ95~96%で高く、「社会経営科学」77%で、低い評価であった。(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「生活健康科学」が99%で最も高く、次いで「臨床心理学」が95%で、反対に「情報学」が82%と、低い評価であった。

図2-84 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価

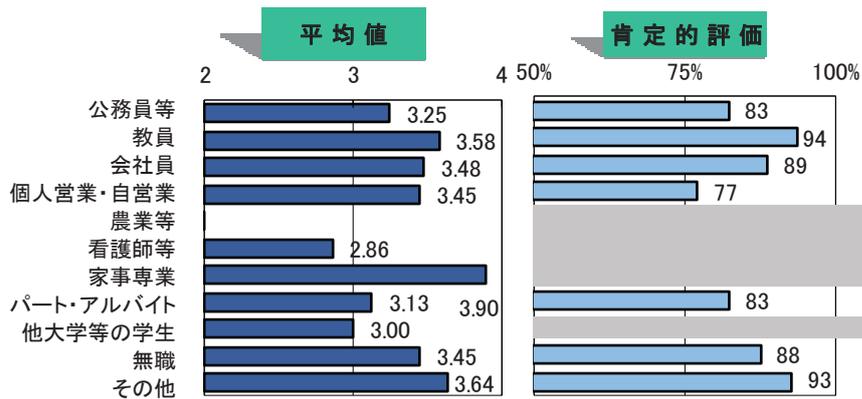


職業別では（次頁図 2 - 8 5）、全項目で「教員」の評価が 94～97%で最も高くなっていた。

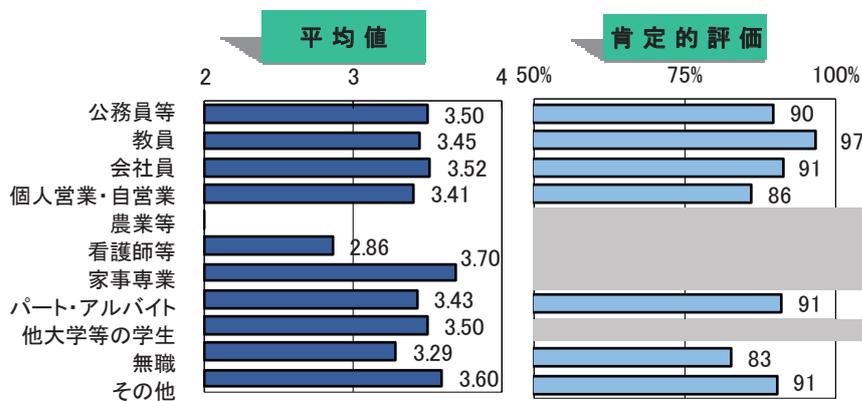
反対に評価が低かったのは、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、「個人営業・自営業」(77%)、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、「無職」(83%)、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では、「パート・アルバイト」の評価が最も低かった。

図 2-85 【大学院】職業別の印刷教材の評価

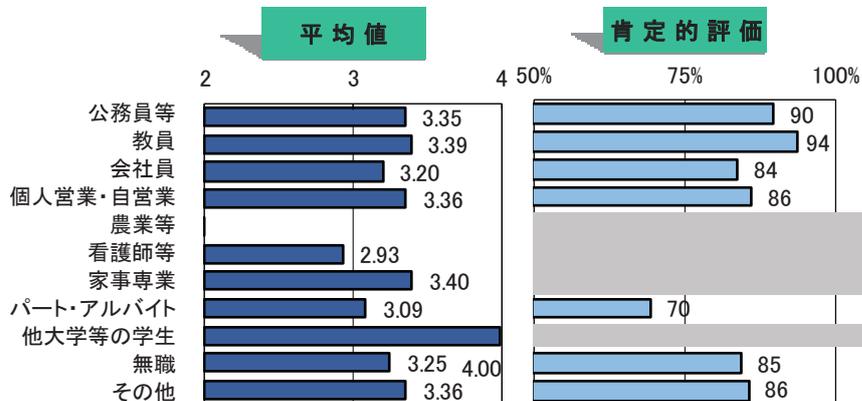
(B-10) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった



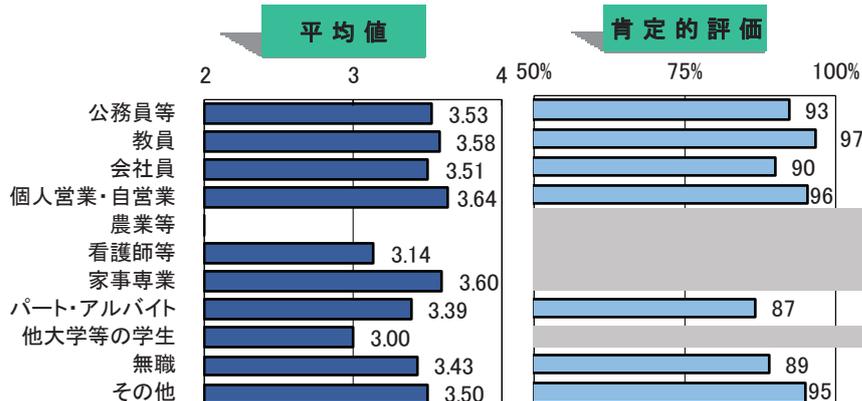
(B-11) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-12) 図表は写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-13) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた

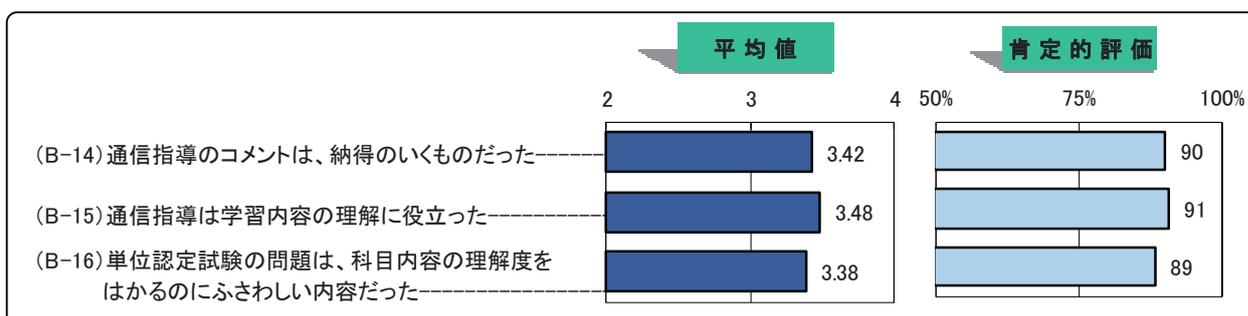


(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

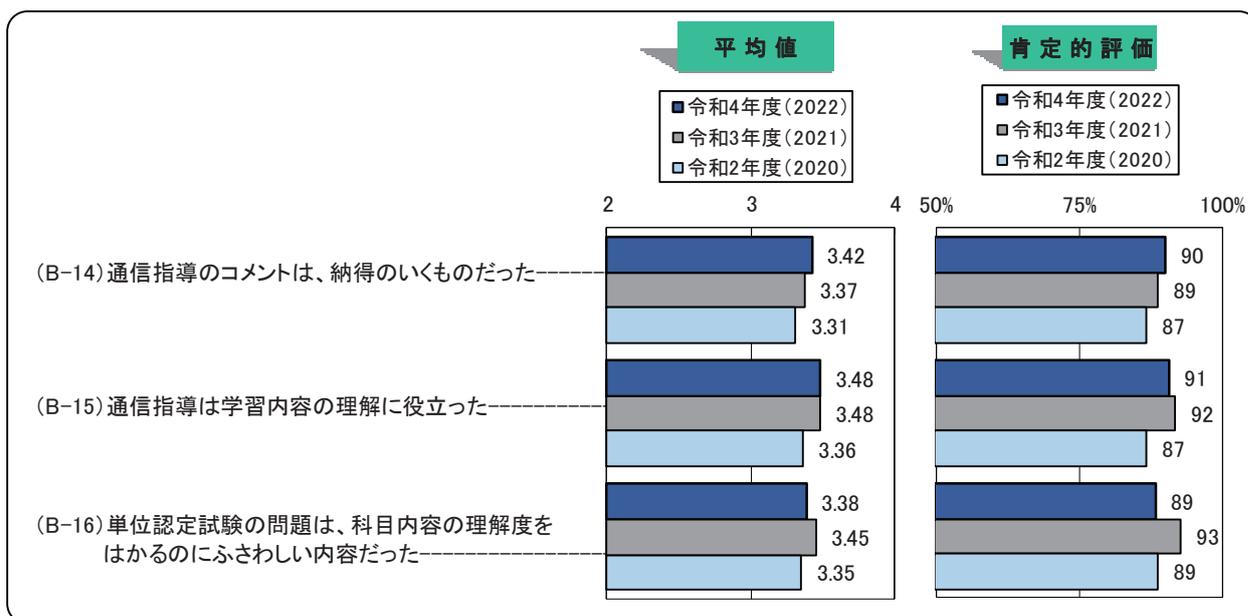
(図2-86)の通信指導については、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は90%にわずかに届かなかったが、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」と(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」はそれぞれ、90~91%であった。

図2-86【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-87)、昨年度と比べ、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」はわずかに上昇しているが、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」、(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」はそれぞれ1~4ポイントの減少であった。

図2-87【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)



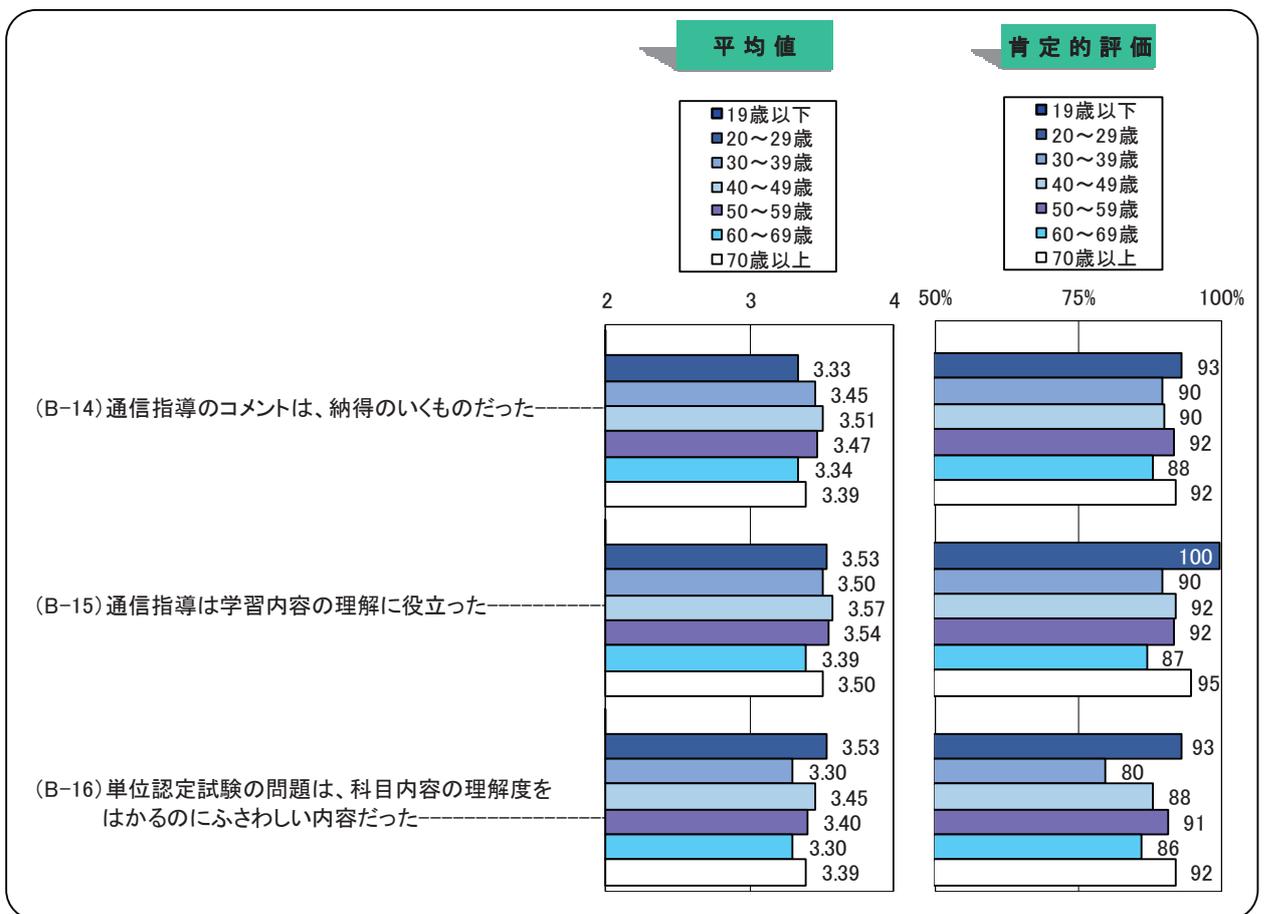
年齢階層別の評価（図2-88）では、全項目で70歳以上の評価が最も高かった。また、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は50歳代の評価も92%と高く、反対に60歳代の評価が88%で最も低かった。

(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」でも、60歳代の評価が87%と低かった。

(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は30歳代が80%と、低い評価であった。

※「20～29歳」は回答者数が15人と少人数である為、コメントを差し控えた。

図2-88【大学院】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価

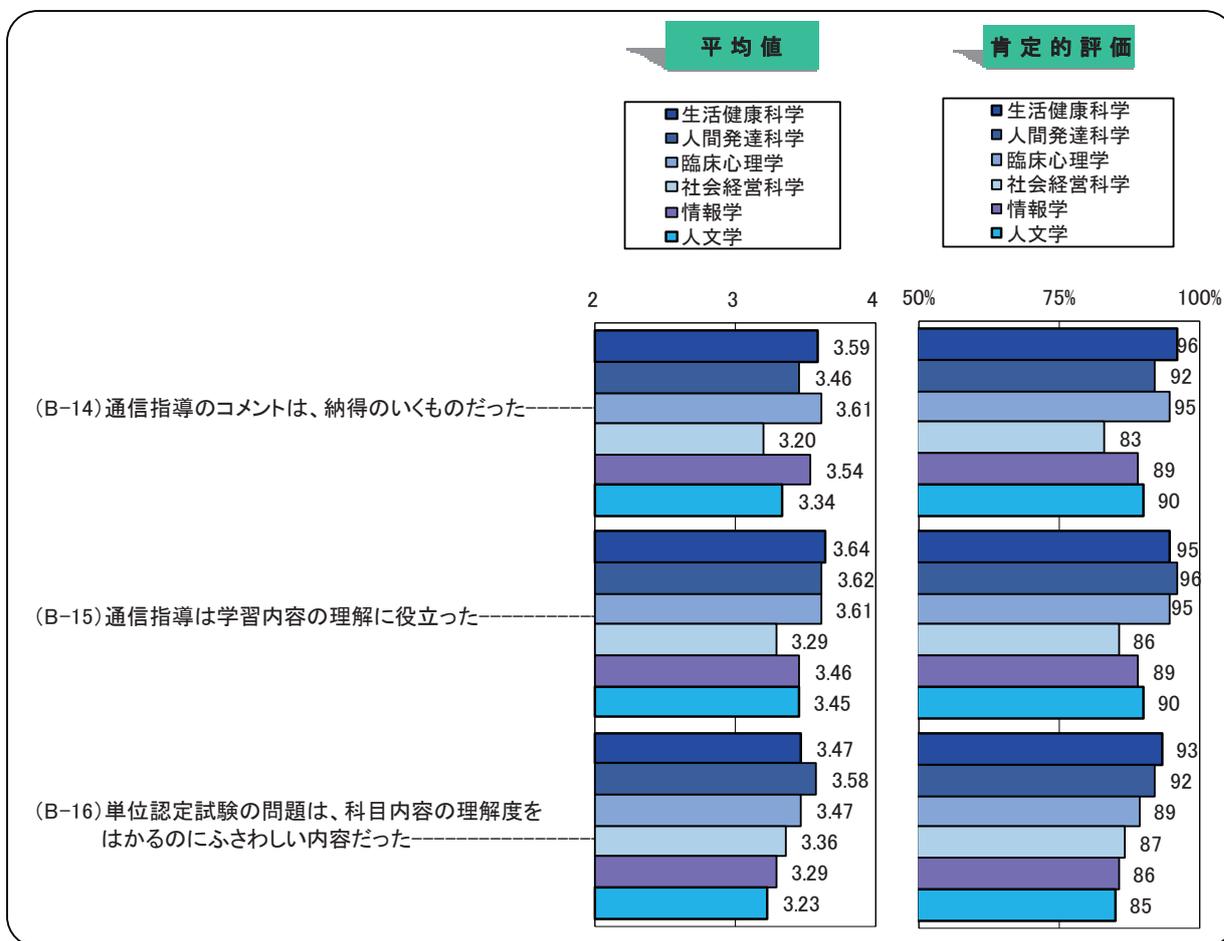


所属プログラム別では（図2-89）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」と (B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「生活健康科学」と「臨床心理学」の評価が 95～96%と高かった。また、(B-15)では「人間発達科学」も 96%と高かった。

(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は、「生活健康科学」、「人間発達科学」が 92～93%と高かった。

反対に評価が低かったのは、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」では、「社会経営科学」(83～86%)であった。また、(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」では、「人文学」が 85%と、最も低い評価であった。

図2-89 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価

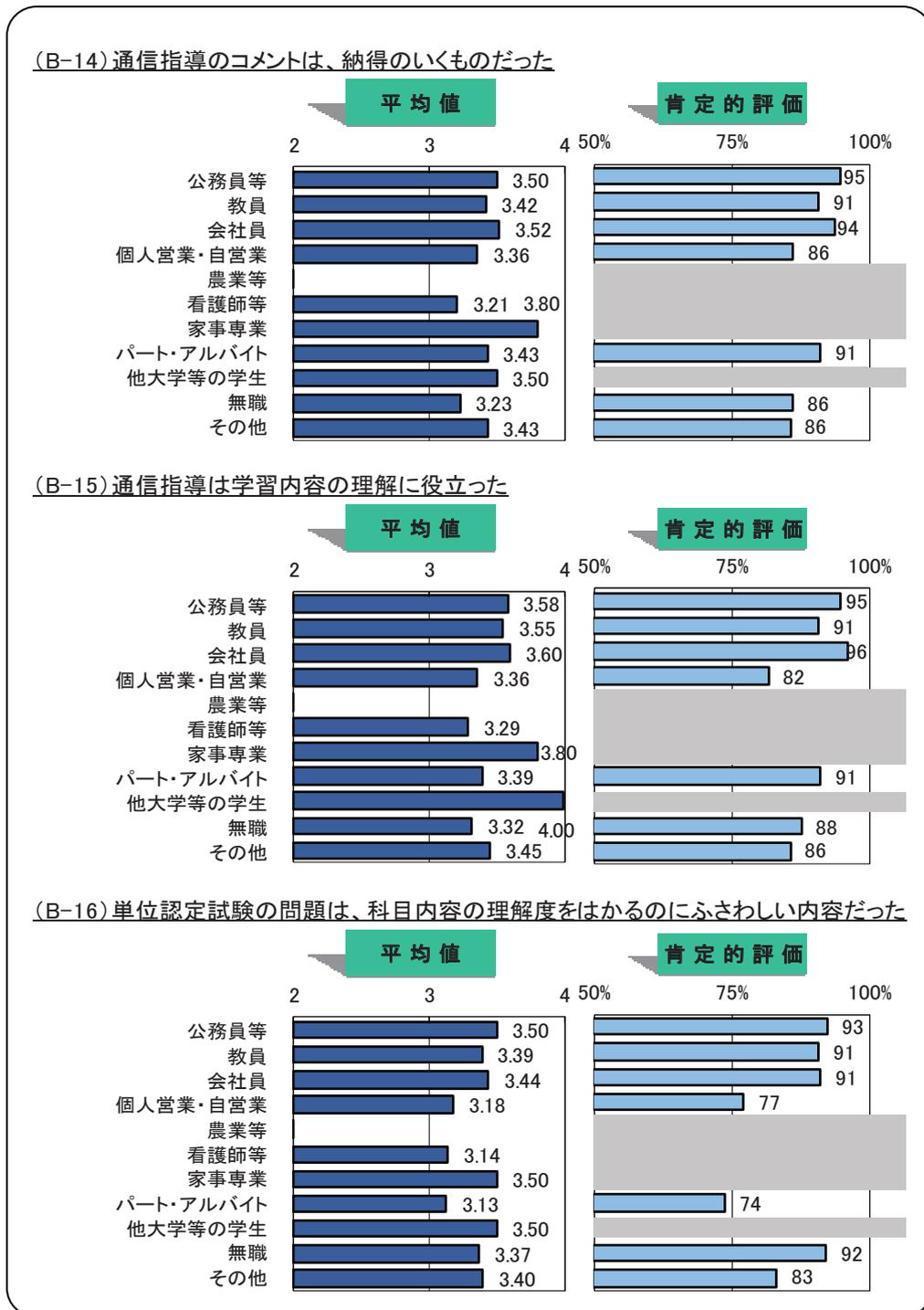


職業別では（図2-90）、全項目で「公務員等」の評価が93～95%で最も高くなっていた。

反対に評価が低かったのは、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は、「個人営業・自営業」「無職」「その他」がそれぞれ86%と低かった。

(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「個人営業・自営業」(82%)、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、「パート・アルバイト」(74%)が最も低かった。

図2-90【大学院】職業別の通信指導・単位認定試験の評価



## Ⅱ-2-4. 大学院の重回帰分析

大学院でも学部同様、重回帰分析を試みた。

その重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票 I.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている。

項目名	変数	対象
目的変数	y	全体の満足度：B-21
説明変数	$x_1, x_2, \dots$	各項目 B-1～B-20：全 20 問（項目）
係数	$a_1, a_2, \dots$	重回帰分析によって得られる偏重回帰係数

重回帰式  $y = a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_{20}x_{20}$ （説明変数が全 20 問の場合）

サンプルサイズが十分でない場合や説明変数が多すぎると、全体の満足度を表すのに適した重回帰式を得られない事が経験的に分かっているため、重回帰分析の中で、説明変数間で強い相関関係がある場合、その一方の項目を自動的に削除する「変数減少法」を用いて解析を行った。

使用したデータは質問項目 I.B の全設問を全て回答した 332 人のローデータを使用した。

その結果は以下の通りとなった。

### ■分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力（寄与度）があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.727 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 2.163 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

### ◆分析精度

決定係数	0.727
自由度修正済み決定係数	0.716
ダーヴィンワトソン比	2.163
残差の標準偏差	0.403

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。

(有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。)

◆分散分析表

変動	偏差平方和	自由度	不偏分散	分散比	p値	判定
全体変動	188.891	331				
回帰による変動	137.319	13	10.563	65.1324	0.000	[**]
回帰からの残差変動	51.572	318	0.162			

凡例	有意水準	凡例	有意水準
[**]	0.01	[*]	0.05

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-13「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」で 0.241、次いで B-20「この科目の内容を全体としてよく理解できた」、(0.201)、他に B-18「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」(0.156)、B-3「印刷教材の難易度は適切だった」(0.141)と続いていた。

説明変数の影響力の度合いを比較するために、表中の標準偏回帰係数の中で最も小さい B-1 (0.093) を基準に、他の項目がその何倍となるか算出してみた。(表中の右端の数値) その結果、高い順に B-13:2.6 倍、B-20:2.2 倍、B-18:1.7 倍、B-3:1.5 倍、B-19:1.5 倍となった。

この結果を踏まえ、今後、「全体の満足度」(本年度の肯定的評価 91%) を上げるためには、上位 2 項目、「B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、「B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた (理解度)」が突出しており、この 2 項目の肯定的評価を上げる事が、効果的であると考えられる。

この 2 項目の肯定的評価について見てみると、B-13:92%、B-20:89%で、それぞれの肯定的評価を上げる余地はまだ残っていると思われる。

目的変数	標準偏回帰係数	説明変数	判定	B-1との対比
B-21全体の満足度	0.241	B-13印刷教材は教材としてよくできていると感じた	[**]	2.6
	0.201	B-20この科目の内容を全体としてよく理解できた (理解度)	[**]	2.2
	0.156	B-18学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	[**]	1.7
	0.141	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	[**]	1.5
	0.138	B-19新しい知識が身につく視野が広がった	[**]	1.5
	0.131	B-17授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	[**]	1.4
	0.125	B-8 ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった	[**]	1.3
	0.105	B-16単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	[**]	1.1
	0.096	B-14通信指導のコメントは、納得のいくものだった	[*]	1.0
	0.093	B-1 放送授業の難易度は適切だった	[**]	1.0
	定数項		[**]	